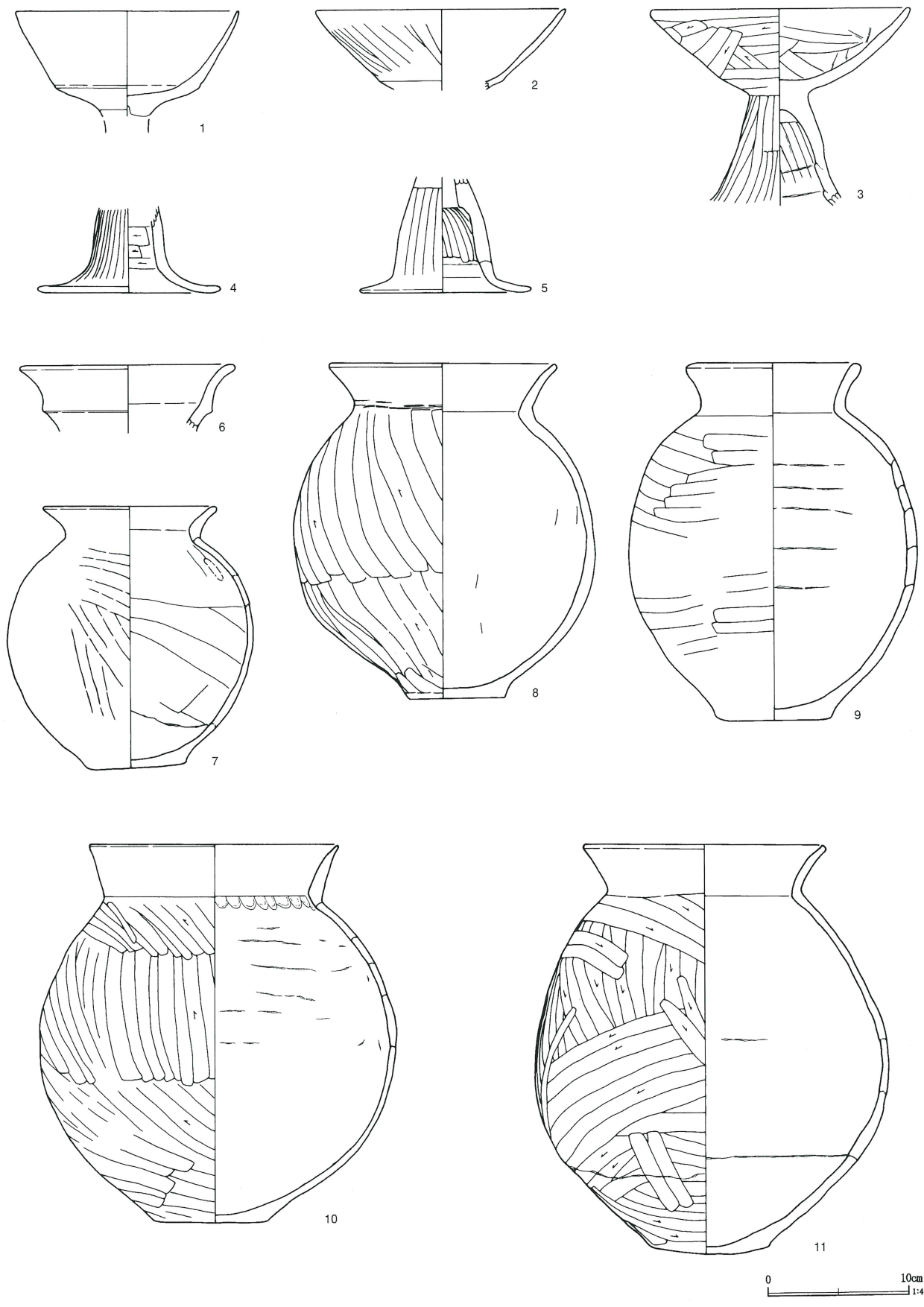
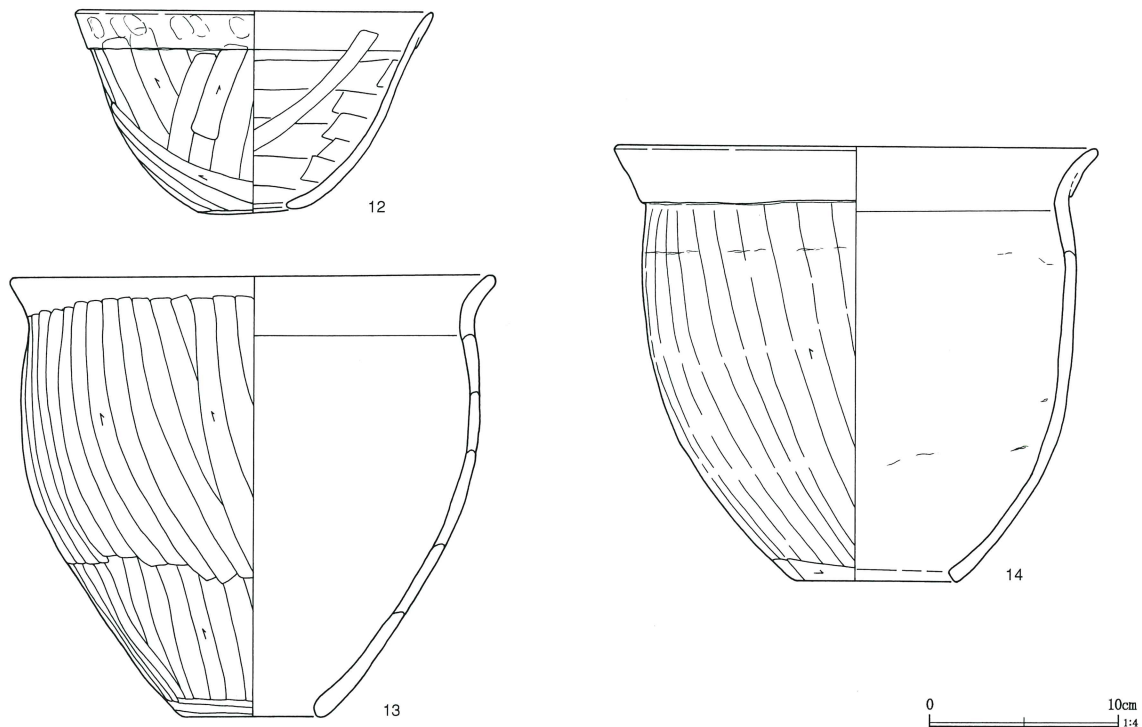


第112图 第363号住居跡遺物出土状况



第113图 第363号住居跡出土遺物 (1)



第114図 第363号住居跡出土遺物 (2)

3は、カマドの支脚として転用された可能性が高く、内外面に赤彩が施される。6は、貯蔵穴から出土した土師器壺の口縁部片で、内外面に赤彩が施される。7～11は、土師器の甕である。7の小型の甕は、12の鉢形をした甕の上に載せた状態で出土しており、当時の使用状況がよくわかるものである。11は、貯蔵穴の上層から出土した。12～14は、土師器の甕で、全て完形である。14は、カマド燃焼部内から出土したもので、カマドに架けてあったものが、天井部の崩落とともに破碎したものと考えられる。

第364号住居跡 (第115～117図)

N-33・34グリッドの、第16号方形周溝墓の方台部内で検出された。第346・347・360・362・370号住居跡、第713・714号土坑、第729号溝跡と重複していた。新旧関係は、重複する遺構の中で本遺構が一番古かった。

規模は、南北6.5m、東西6.6m、深さが0.21mで、平面形態は整った正方形をしていた。主軸方位は、N-67° - Eであった。

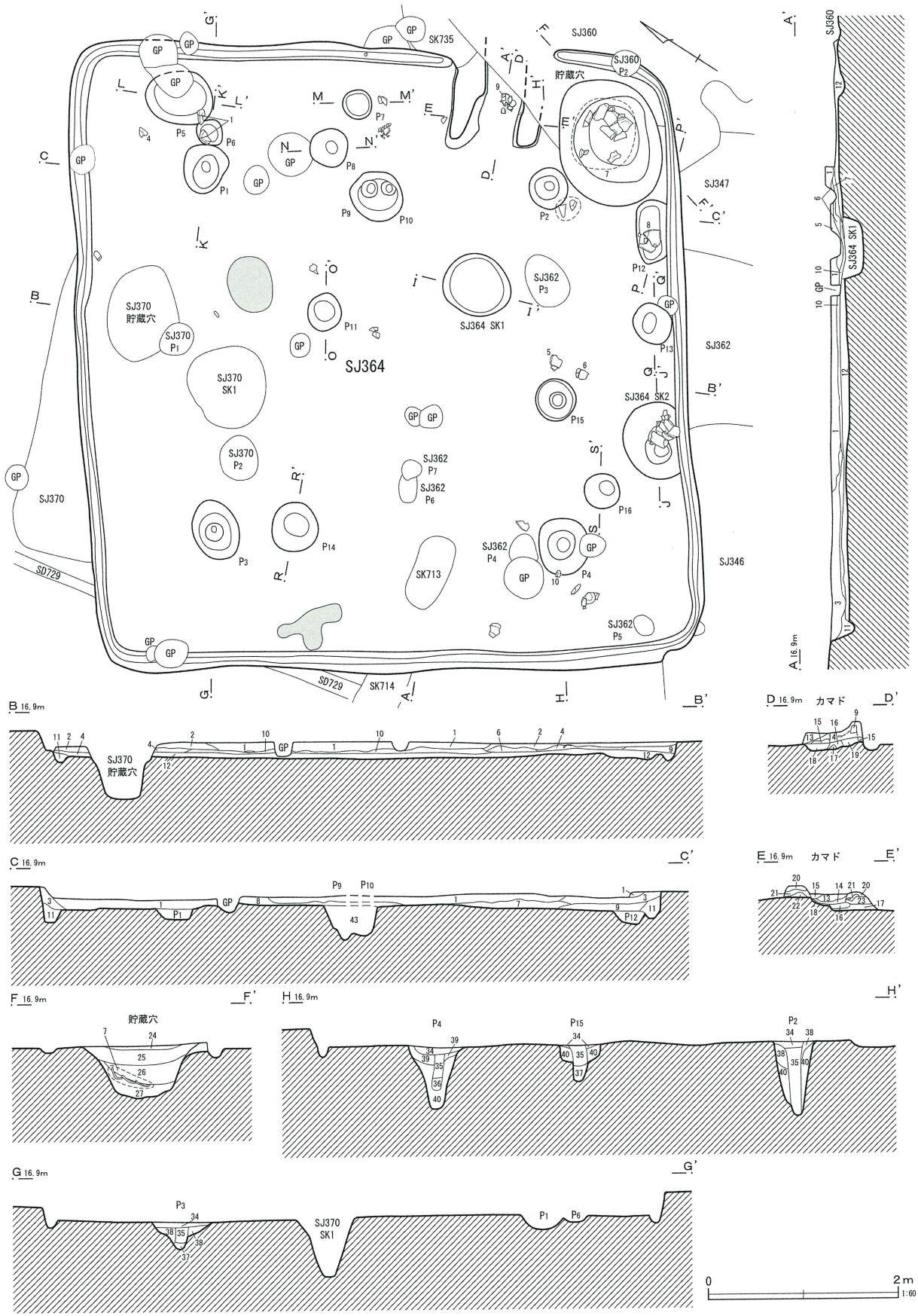
カマドは、住居跡北壁の東寄りで検出された。煙道部は、第360号住居跡に大半を壊されて、残りがよくなかった。カマド袖は暗灰色のしまりある土で構築されていた。燃焼部は、検出長85cm、幅44cm、深さ20cmであった。カマド内からは、土師器甕の破片と共に土製の支脚が出土している。

壁溝は、全周しており、幅9～23cm、深さが7～13cmであった。

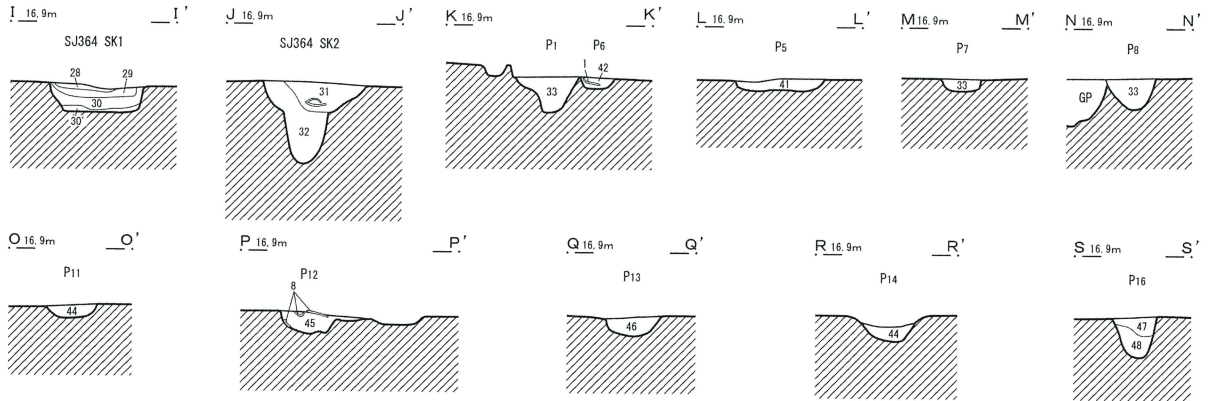
貯蔵穴は、カマド右脇の北東コーナー部で検出された。規模は、長軸135cm、短軸108cm、深さが51cmで、平面形態は南北に長い楕円形をしていた。貯蔵穴の下層からは、土師器の大型甕が出土している。

住居跡内からは平面形態が円形をしていた土坑が2基検出された。土坑1は、長径75cm、短径65cm、深さが21cmで、底面が平坦であった。土坑2は、南壁際で検出され、長径81cm、短径56cm、深さが64cmであった。2基とも性格は不明である。

ピットは16本を検出した。柱痕の有無や配置から、P1～4が主柱穴であったと考えられる。また、P15は主柱穴の中間に位置し、柱材の痕跡が認められ、



第115図 第364号住居跡 (1)



第364号住居跡

- 1 暗灰黄色土 2.5Y5/2 黄褐色土ブロック主体 暗灰色のしまりある土 暗茶褐色土粒子(φ2mm) 多量 しまりあり 粘性なし
- 2 褐色土 10YR4/1 黒っぽい暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2~5mm) 少~中量 焼土粒子(φ2mm) 微量 しまりあり 粘性なし
- 3 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2mm)・暗茶褐色土粒子(φ2mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし
- 4 灰色土 2.5Y4/1 黄褐色土粒子多量 灰色粘質土少量 7層の土少量 しまりあり 粘性弱い
- 5 黒褐色土 10YR3/1 しまりややあり 粘性なし
- 6 暗灰黄色土 2.5Y4/2 黄褐色土主体(ブロック状ではない) 暗灰色のしまりある土 少量 しまりあり 粘性なし
- 7 褐色土 10YR4/1 2層とほぼ同じ+黄褐色土粒子(φ5mm) 斑を含む 焼土粒子(φ1~5mm) 少量 黒色灰少量 帯状に混入 炭化物微量
- 8 黒褐色土 10YR3/1 やや粘性のある灰色がかかった黒褐色土 しまりあり 粘性ややあり
- 9 褐色土 10YR4/1 暗灰色でしまりあり、粘性のややある土 黄褐色土粒子(φ3mm) 少量 焼土粒子(φ2~10mm) 微量 しまりあり 粘性弱い
- 11 褐色土 10YR4/1 2層とほぼ同じ+暗灰色粘質土少量 しまりあり 粘性弱い
- 10 黒褐色土 10YR3/2 暗茶褐色のやや粘性のある土 暗灰色粘質土斑を含む 黄褐色土粒子(φ5mm) 少量 しまりあり 粘性弱い
- 12 暗灰黄色土 2.5Y5/2 褐色のしまりあるローム土主体 茶褐色土ブロック(φ10mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし(掘り方)

カマド

- 13 褐色土 10YR4/1 暗灰色(やや暗め)のしまりある土主体 黄褐色土ブロック(φ5~10mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし
- 14 暗茶褐色土 10YR4/2 暗茶褐色のしまりある土 焼土ブロック(φ5~10mm) 斑を含む 黄褐色土ブロック(φ3mm) 少量 暗灰色の灰微量 しまりあり 粘性なし
- 15 暗黒茶色土 10YR3/1 暗灰色の灰多量(灰が主体) 焼土ブロック(φ8mm) 少量~中量 暗黒茶色の粘性のややある土少量 しまり・粘性ややあり
- 16 黒褐色土 10YR3/1 黒茶色っぽいしまりある暗灰色土 黄褐色土粒子(φ5~10mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし
- 17 黄茶褐色土 10YR5/2 黄褐色のしまりある土主体 黒褐色の粘性のある土ブロック(φ15mm) 少量 暗茶褐色土少量 しまりあり 粘性ややあり
- 18 黄茶褐色土 10YR5/2 黄褐色のしまりある土+暗茶褐色土少量 焼土粒子(φ3mm) 炭化物微量 しまりあり 粘性なし
- 19 黒褐色土 10YR3/1 焼土ブロック(φ5~15mm) 含む 4層と同じ土に黄褐色土粒子(φ5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 20 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 しまりあり 粘性なし(カマド袖)
- 21 黒褐色土 10YR3/1 暗灰色に近い黒褐色のしまりある土 しまりあり 粘性なし 20・21層ともに酸化鉄のような暗茶褐色土粒子(φ1~2mm) 多量(カマド袖)
- 22 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土少~中量 灰色シルト少量 しまりあり 粘性なし(カマド袖)
- 23 暗茶褐色土 10YR4/2 暗茶褐色のしまりある土 焼土(φ2~20mm) 多量 しまりあり 粘性なし(カマド袖)

貯蔵穴

- 24 褐色土 10YR4/1 茶色がかかった暗灰色でしまりある土 黄褐色土粒子(φ2~20mm) 少量 しまりあり 粘性なし
- 25 黒褐色土 10YR3/2 やや明るめの茶褐色土でやや粘性のある土 黄褐色土ブロック(φ10~30mm) 多量 焼土粒子(φ3mm) 炭化物粒子(φ2~3mm) 微量 しまり・粘性ややあり
- 26 褐色土 10YR4/1 25層より濃い暗茶褐色土で粘性の強い土 灰色シルト少~中量 層中程より上にかけてまばら 炭化物(20mm角) 少量 層上部に斑 しまりややあり 粘性強い
- 27 褐色土 10YR5/1 灰色粘土層 炭化物ブロック(φ5mm) 少量 しまりなし 粘性強い

土坑 1

- 28 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2mm) 少量 しまりあり 粘性なし
- 29 褐色土 10YR4/1 28層と同じ暗灰色のしまりある土で粘性のややある土 褐色土ブロック(φ20~30mm) 中~多量 しまりあり 粘性ややあり
- 30 暗灰黄色土 2.5Y4/2 暗灰黄色の粘性のややある土主体 黄褐色土粒子(φ2mm) 斑を含む 暗灰色粘質土斑を含む 焼土ブロック(φ10mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
- 30' 暗灰黄色土 2.5Y4/2 暗灰黄色の粘性のややある土主体 暗灰色粘質土斑を含む 焼土ブロック(φ10mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり

土坑 2

- 31 黒褐色土 10YR3/1 黒っぽい暗灰色土で粘性が少しある土 黄褐色土粒子(φ5mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
- 32 褐色土 10YR4/1 暗灰色の粘質土 黄褐色土ブロック(φ10~20mm) 中~多量 しまり・粘性あり
- ビット 1・7・8
- 33 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりあり、粘性のややある土 黄褐色土粒子(φ1~2mm)・黄褐色土ブロック(φ10~20mm) 斑を含む

ビット 2・3・4・15

- 34 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ3mm) 斑を含む 炭化物粒子(φ2mm) 微量 しまりあり 粘性なし ※P2は炭化物・焼土粒子(ともにφ3mm) 少量
- 35 黒褐色土 10YR4/1 34層より黒っぽい暗灰色土で粘性のある土 灰色土粒子(φ2~3mm) 少~中量 しまりややあり 粘性あり ※P2は見た目、暗茶褐色土(10YR4/2) 灰色土粒子ではなく、黄褐色土粒子(φ3mm) 含む
- 36 暗灰色土 N3/1 暗灰色粘土主体 黒色粘土ブロック(φ10mm) 少量 しまりなし 粘性あり
- 37 灰黄色土 2.5Y5/2 灰黄色粘質土主体 暗灰色粘土少量 しまりなし 粘性あり
- 38 暗茶褐色土 10YR4/2 暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック(φ5~15mm) 斑を含む 炭化物粒子(φ2mm) 微量 しまりあり 粘性なし
- 39 褐色土 10YR4/1 38層とほぼ同じで炭化物を含まず しまりあり 粘性なし
- 40 暗灰黄色土 2.5Y5/2 黄褐色土主体 暗灰色土微量 しまりあり 粘性ややあり

ビット 5

- 41 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土ブロック(φ10~20mm) 斑を含む しまりあり 粘性なし

ビット 6

- 42 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 茶黄褐色土粒子(φ5mm) 微量 しまりあり 粘性なし

ビット 9・10

- 43 暗灰黄色土 2.5Y5/2 暗灰黄色のしまりあり、やや粘性のある土(黄褐色土土のぼやっとしたもの) しまりあり 粘性弱い

ビット 11・14

- 44 褐色土 10YR4/1 黄褐色のしまりある土・黒っぽい暗灰色の粘性のある土多量 しまりあり 粘性弱い ※P11はこの土が少量 層上部に帯状に入る

ビット 12

- 45 暗茶褐色土 10YR4/2 暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック(φ10~15mm) 少~中量 層全体に 暗灰色の灰・焼土ブロック(φ10mm) 層左上部と遺物の下を含む

ビット 13

- 46 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ3~10mm) 少~中量 焼土ブロック(φ5~15mm) 少量 層上部にまとまって 暗灰色の灰少量 層上部に帯状に しまりあり 粘性弱い

ビット 16

- 47 褐色土 10YR4/1 暗灰色のしまりある土 灰色シルト少量 しまりあり 粘性なし
- 48 褐色土 10YR4/1 47層より明るい暗灰色土で粘性のややある土 黄褐色土ブロック(φ10mm) 斑を含む 暗灰色粘土少量 しまりややあり 粘性あり



第116図 第364号住居跡 (2)



- ピット17 褐灰色土 10YR4/1 暗灰色の粘性のややある土主体 褐灰色土ブロック (φ10mm) 斑に含む 黒褐色土ブロック (φ5mm) 少~中量 しまりあり 粘性ややあり
 ピット18 褐灰色土 10YR4/1 暗灰色の粘性のややある土主体 黄褐色土粒子 (φ2mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
 ピット19 灰黄褐色土 10YR4/2 茶褐色の粘性のややある土主体 黄褐色土ブロック (φ5mm) 斑に含む しまり・粘性ややあり
 ピット20 灰黄褐色土 10YR4/2 茶褐色の粘性のややある土主体 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量 しまり・粘性ややあり
 53 褐灰色土 10YR4/1 暗灰色の粘質土主体 黄褐色土ブロック (φ10mm) 含む 層上部に 焼土粒子 (φ3mm) 微量 しまりなし 粘性ややあり

第117図 第364号住居跡 (3)

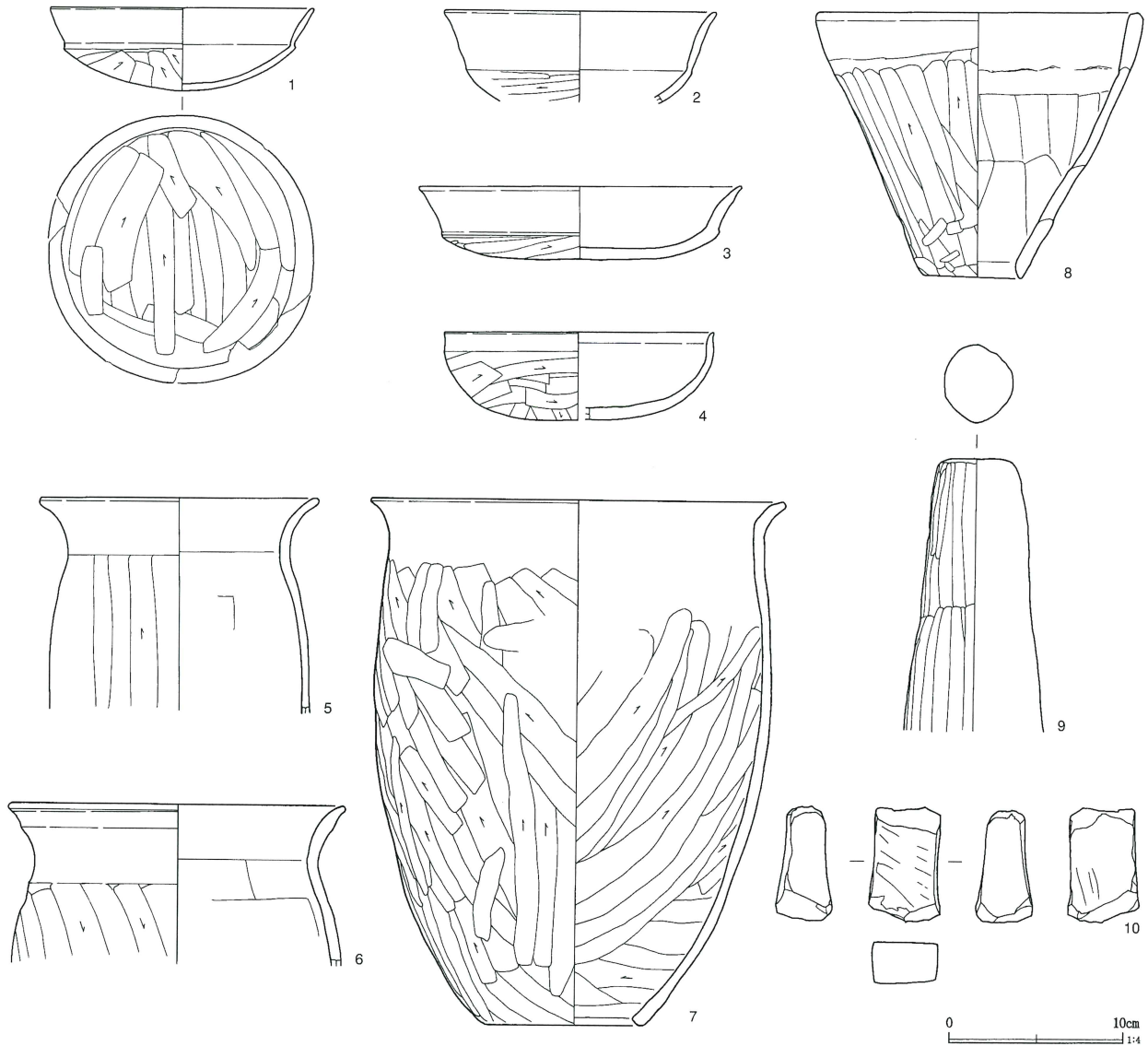
覆土も同じであった。そのことから、支柱穴の1本と考えられ、本住居跡は6本柱であった可能性が考えられる。北側の柱穴については、第370号住居跡の住居内土坑1に壊されており、確認できなかった。各柱穴の規模は、P1が53×27cm、P2が43×78cm、P3が65×41cm、P4が61×45cm、P15が44×39cmであった。

他のピットは形態もばらばらで、浅いものが多く、性格は不明である。P5は73×8cm、P6は28×10cm、P7は33×10cm、P8は41×24cm、P9は18×45cm、P10は16×42cm、P11は40×11cm、P12は68×17cm、

P13は42×14cm、P14は55×19cm、P16は38×31cmであった。

掘り方は、住居跡の中央部分を残し、壁際を一段深くドーナツ状に掘り下げていた。また、小さなピット状の掘り込みが僅かに検出された。

遺物は、古墳時代後期の土師器片が多量に出土している。第118図1~4は、土師器環である。4は貯蔵穴内から出土した比企型環で、内外面に赤彩が施される。7は、貯蔵穴から出土した完形の土師器甕である。8は、P12から出土した小型の土師器甕である。10は、2面に擦痕がみられる砥石である。



第118図 第364号住居跡出土遺物

第365号住居跡 (第119・120図)

N-34・35グリッドにかけて検出された。第346・376・377・389・391号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第764・766号溝跡と重複していた。第376・377・389・391号住居跡より新しく、第346号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第764・766号溝跡より古かった。

規模は、南北5.0m、東西4.8m、深さが0.15~0.23mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-55°-Wであった。

カマドは、北壁のやや西寄りで見出された。カマド袖は、地山の削り出しであった。燃焼部は、南北

69cm、東西53cm、深さが20cmで、浅い掘り込みをもっていた。焚き口部分は、床面が赤く焼けて硬化していた。煙道部は僅かに壁外に延び、長さ24cm、幅33cm、深さが8cmであった。

壁溝は、部分的に巡っており、幅11~40cm、深さが2~6cmであった。

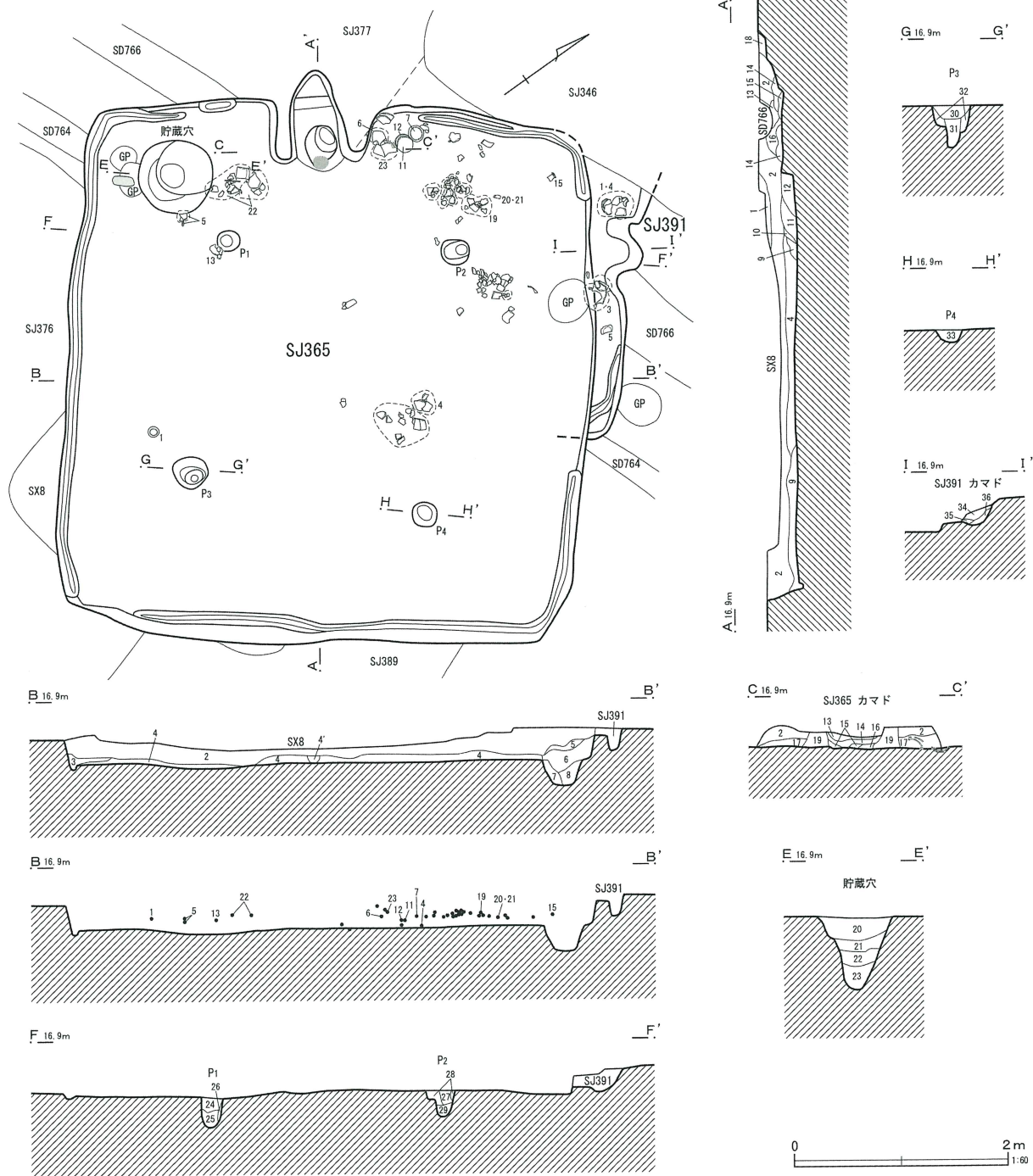
貯蔵穴は、北西コーナー部で見出された。規模は、長軸70cm、短軸68cm、深さが68cmで、平面形態は円形をしていた。

ピットは4本を見出した。配置や土層断面に柱材の痕跡が確認されたことから、P1~3は主柱穴の可能性が高い。各柱穴の規模は、P1が21×28cm、P2

が26×26cm、P 3 が32×41cmで、小規模であった。P 4については、深さが浅く、柱痕が確認できていないため、性格は不明である。規模は、24×14cmであった。

遺物は、床面からやや浮いた覆土上層から古墳時代後期の土師器片が多量に出土している。カマドの右袖脇からは土師器の坏がまとまって出土した。

第121図1は、P 3の北西から出土した須恵器の小蓋である。完形で、天井部につまみが付く。第121図2～第122図12は坏で、有段口縁坏、模倣坏、身模倣坏、比企型坏がある。5の内面には、放射状の暗文が認められる。22は、貯蔵穴の脇から出土した土師器甕である。24は、ややいびつな方形をした土製の玉で、完形である。

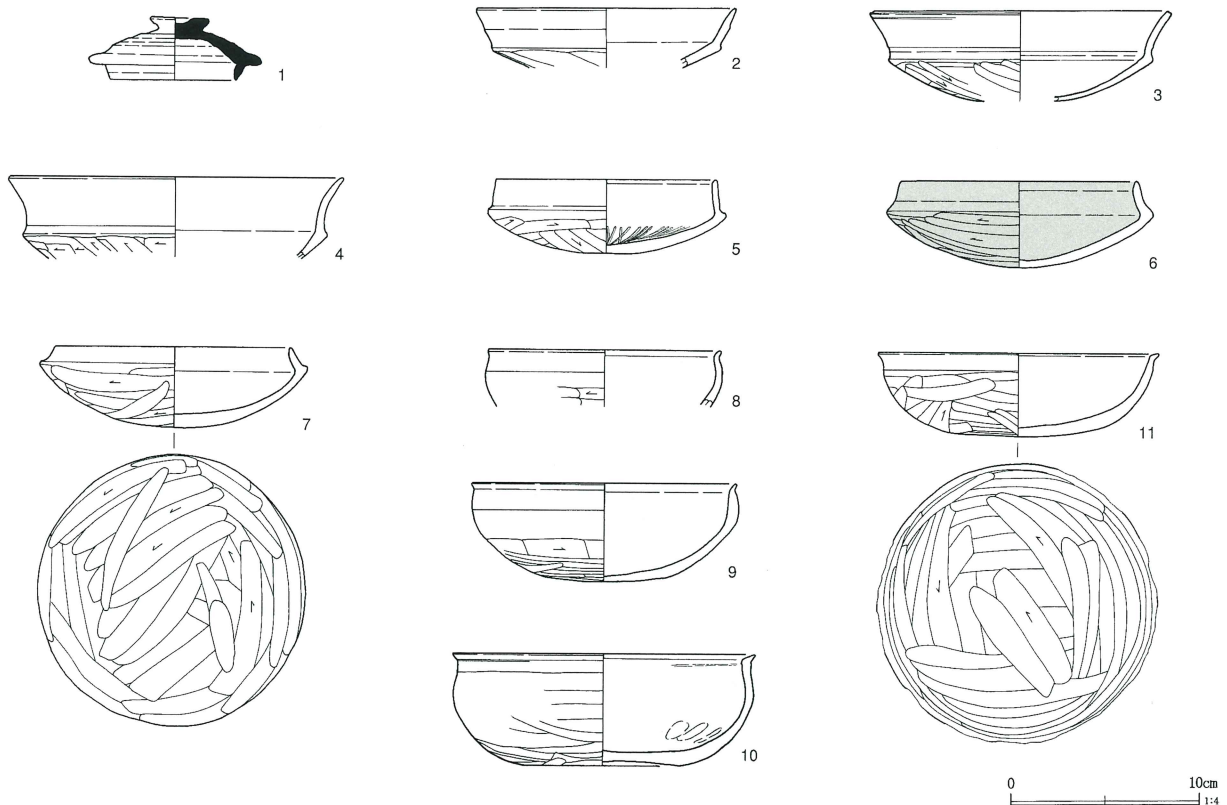


第119図 第365・391号住居跡 (1)

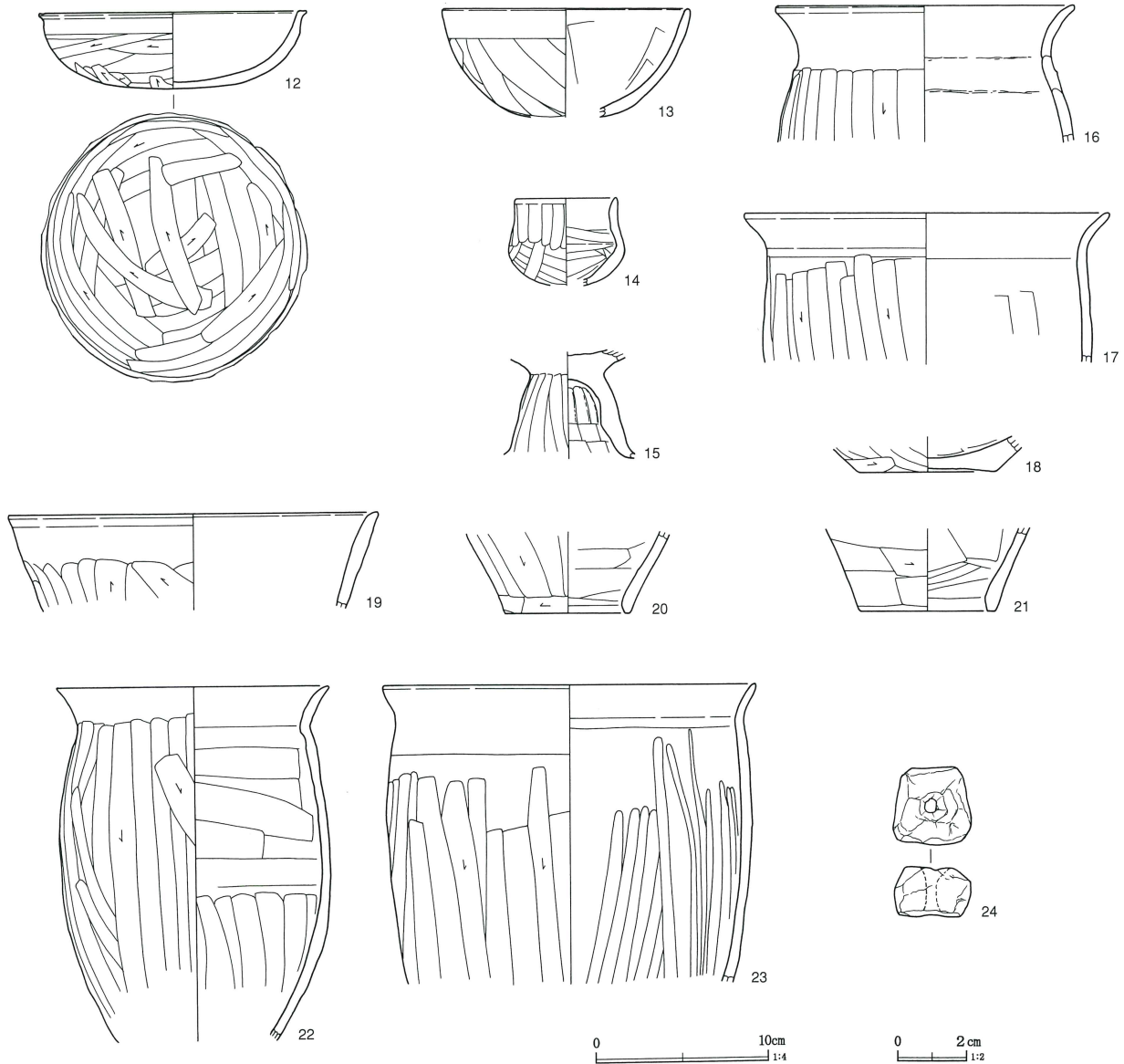
第365号住居跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 多量 部分的に焼土粒子 (φ1~3mm) 集中する	しまりあり 粘性ややあり		
2	褐色土	10YR4/1	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~3mm) 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量	しまりあり 粘性ややあり	
3	黒褐色土	10YR3/1	炭化物粒子 (φ1~2mm) 多量	黄褐色土 (φ1~2mm) 少量	しまり・粘性あり	
4	褐色土	10YR4/1	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に多量	焼土粒子 (φ1~3mm) 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量	しまりあり 粘性ややあり	
4'	4層中に炭化物が集中する部分					
5	褐色土	10YR4/1	2層中に焼土粒子 (φ1~5mm) 多量	しまりあり 粘性ややあり		
6	褐色土	10YR4/1	黄褐色土 (φ1~10mm) 多量	焼土粒子 (φ1~2mm) 炭化物粒子 (φ1~2mm) 含む	しまり・粘性あり	
7	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量	しまり・粘性あり		
8	暗緑灰色土	10GY4/1	暗灰色土を主体	緑灰色土を斑に含む	しまり・粘性あり	
9	褐色土	10YR4/1	4層と同じ	黄褐色土ブロック (φ10mm) 多量		
10	黒褐色土	10YR3/1	9層中に炭化物が集中して多量	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量	しまりなし	
11	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む	しまり・粘性あり		
12	にぶい黄褐色土	10YR6/4	ロームを主体とする			
カマド						
13	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒子 (φ1~5mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量	しまり・粘性あり	
14	黒褐色土	10YR3/1	灰を主体的に含む層	焼土 (φ1~10mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 含む	しまり・粘性弱い
15	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 含む	灰・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量	しまり・粘性あり	
16	褐色土	10YR4/4	黄褐色土 (φ1~10mm) 多量	灰・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
17	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 少量	焼土粒子 (φ1~2mm) 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
18	13層中に焼土粒子 (φ1~5mm)		多量	炭化物粒子 (φ1mm) 微量		
19	にぶい黄褐色土	10YR5/4	地山土の削り出し袖	しまりあり 粘性ややあり	(カマド袖)	
貯蔵穴						
20	褐色土	10YR4/1	地山土 (φ3~5mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
21	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土・青灰色砂ブロック (φ5~10mm) 多量	しまり弱い 粘性あり		
22	黒色土	10YR2/1	青灰色砂斑状に混入	しまり弱い 粘性強い		
23	オリーブ黒色土	5Y3/1	青灰色砂少量	しまり弱い 粘性強い		
ビット1						
24	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
25	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	青灰色砂 (φ1~5mm) 斑に含む	しまり弱い 粘性あり		
26	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	青灰色砂 (φ5~10mm) 多量	しまり弱い 粘性あり		
ビット2						
27	黒褐色土	2.5Y3/2	焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 多量	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 均等に含む	しまり・粘性あり	
28	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	黄褐色土・青灰色砂粒子 (φ1~5mm) 均等に多量	しまりあり 粘性ややあり		
29	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	青灰色砂 (φ1~5mm) 均等に含む	しまり弱い 粘性ややあり		
ビット3						
30	緑黒色土	7.5GY2/1	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 少量	しまり・粘性あり		
31	暗緑灰色土	7.5GY3/1	緑灰色砂を主体	黒褐色粘土少量	しまり弱い 粘性強い	
32	暗緑灰色土	2.5Y3/1	緑灰色砂を主体	黒褐色粘土斑状に含む	しまり弱い 粘性強い	
ビット4						
33	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む	しまり・粘性あり		
第391号住居跡カマド						
34	黒褐色土	5YR3/1	焼土ブロック (φ5~20mm) 極多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量	しまりあり 粘性ややあり	
35	黒色土	N2/0	灰主体	焼土ブロック (φ5~20mm) 含む	しまり・粘性ややあり	
36	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) ・焼土粒子	炭化物粒子 (φ1~5mm) ・灰少量	しまり・粘性あり	

第120図 第365・391号住居跡 (2)



第121図 第365号住居跡出土遺物 (1)



第122図 第365号住居跡出土遺物(2)

第366号住居跡(第123・124図)

0-34・35グリッドにかけて検出された。第17号方形周溝墓、第348・375号住居跡、第726・727・728号土坑、第765・767・768号溝跡と重複していた。新旧関係は、第17号方形周溝墓、第767号溝跡より新しく、第348・375号住居跡、第726・727・728号土坑、第765・768号溝跡より古かった。

規模は、南北4.8m、東西5.2m、深さが0.13mで、平面形態は方形をしていた。主軸方位は、N-54°-Wであった。

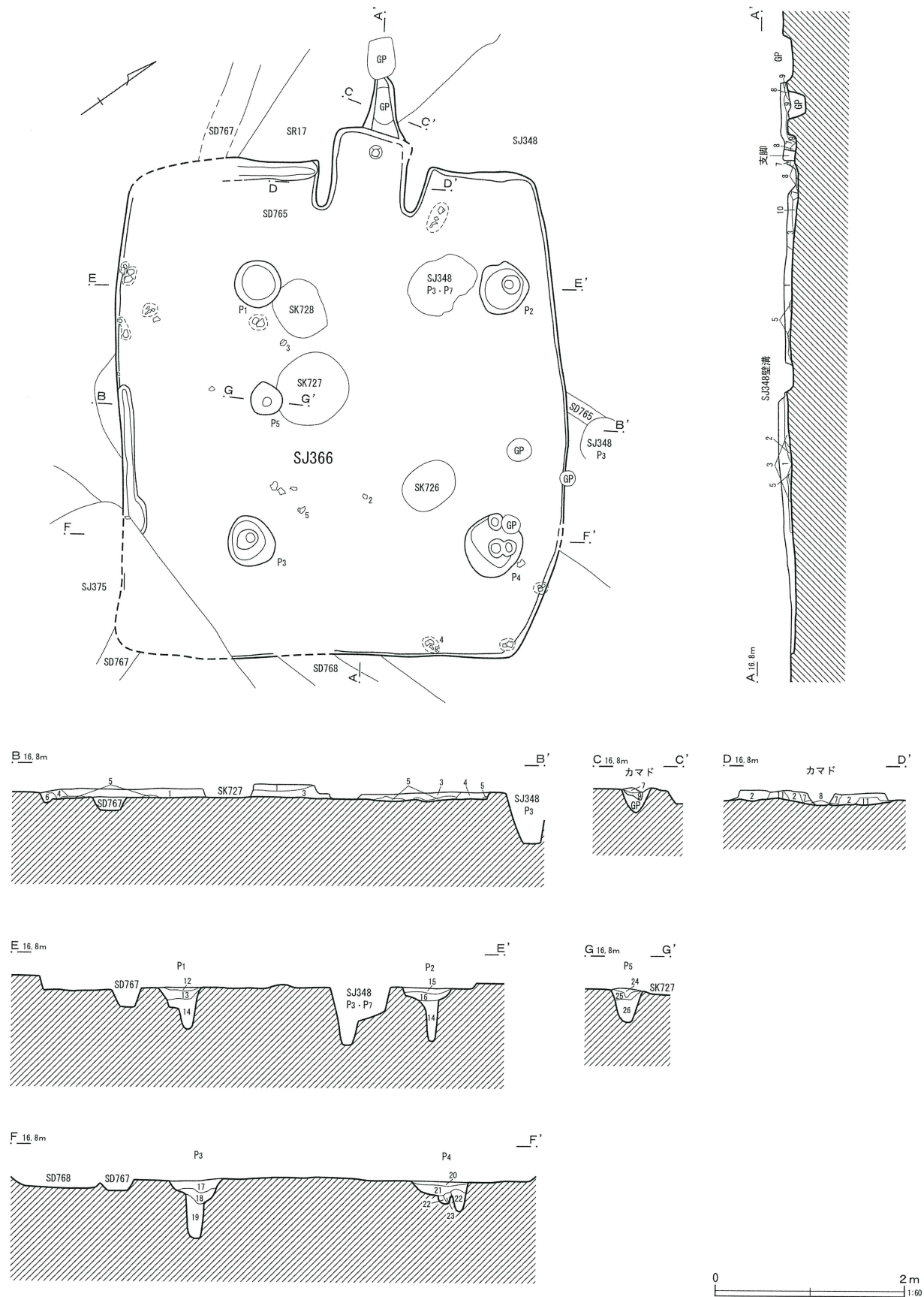
カマドは、北壁のほぼ中央で検出された。カマドの袖は、粘質の強い黒褐色土で構築されていた。燃

焼部は、南北92cm、東西80cm、深さが9cmで、床面からの掘り込みはほとんど確認できなかった。最下層には薄い灰層を検出することができた。また、煙道部は壁外に延び、先端は後世のピットで壊されていた。長さ62cm、幅42cm、深さが7cmであった。

燃焼部内からは、土製の支脚が出土している。

壁溝は、北・西壁の一部にのみ巡っており、幅13~24cm、深さが2~5cmであった。

ピットは5本を検出した。配置からP1~4が主柱穴であった可能性が高い。各柱穴の規模は、P1が48×44cm、P2が56×57cm、P3が54×62cm、P4が68×33cmであった。



第123図 第366号住居跡 (1)

第366号住居跡

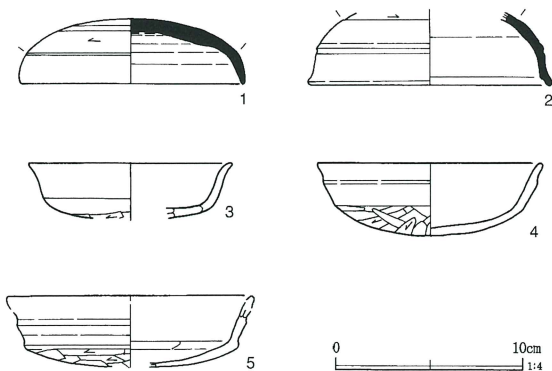
1	暗灰褐色土	10YR4/1	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1mm)・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
2	3層に炭化物が集中して含まれる部分					
3	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土 (φ1~5mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量	しまり・粘性あり	
4	3層中に焼土 (φ1~5mm) が集中して含まれる					
5	黄褐色土	2.5Y5/3	ローム主体 2層土を含む	しまり・粘性あり		
6	黒色土	10YR2/1	炭化物粒子 (φ1~2mm) 多量 地山土 (φ1~2mm) 少量	焼土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
カマド						
7	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒子 (φ1~10mm)・黄褐色土ローム (φ1~3mm) 少量	しまり・粘性あり		
8	黒褐色土	10YR3/1	灰多量 焼土粒子 (φ1~10mm) 均等に少量	炭 (φ1~2mm) 少量	しまり弱い	
9	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ローム (φ2~10mm) 含む	焼土ブロック (φ5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量	しまり・粘性あり	
10	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土 (φ1~10mm) 多量	焼土粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
11	黒褐色土	10YR3/1	3層土中に黄褐色土ブロック (φ5~10mm) が含まれる層	焼土ブロック (φ5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり(カマド袖)	
ピット1・2						
12	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム (φ1~5mm) 少量	焼土粒子 (φ1mm)・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
13	黒褐色土	10YR3/2	地山土 (φ1~10mm) 多量	焼土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
14	暗青灰色土	10BG4/1	粘質土 黒褐色土 (13層土) を斑に含む	しまりあり	粘性強い	
15	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム (φ1~5mm) 少量	焼土・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	ローム (φ5~10mm) 含む	しまり・粘性あり
16	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土・15層土を斑状に多量	焼土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまりあり	粘性強い
ピット3						
17	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム (φ1~5mm) 均等に多量	しまり・粘性あり		
18	黒褐色土	10YR2/2	2層土少量含む	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまりあり	粘性強い
19	青黒色土	10B2/1	粘質土 炭化物粒子 (φ1~5mm) 底近くで多量	青灰色砂 (φ1~2mm) 少量	しまり弱	粘性強い
ピット4						
20	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム (φ1~5mm) 斑状に含む	焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量	しまり・粘性あり	
21	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム・青黒土多量	しまりあり	粘性強い	
22	青黒色土	10BG2/1	粘質土 青灰色砂 (φ1~2mm) 少量	しまりあり	粘性強い	
23	青灰色土	10BG5/1	青灰色砂と2層をほぼ同量に含む	しまりあり	粘性強い	
ピット5						
24	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ローム (φ1~2mm) 少量	焼土粒子微量	しまり・粘性あり	
25	黄褐色土	2.5Y5/3	ロームを主体として24層土とまじり合う	焼土粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
26	黒褐色土	10YR2/2	地山土 (ローム (φ1~5mm))・青灰色粘土粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり	粘性強い	

第124図 第366号住居跡 (2)

P5は、P1とP3のほぼ中間に位置し、深さは他のピットと比べ浅めであった。主柱穴を補助するためのピットであった可能性が考えられる。対になるピットは、第348号住居跡に壊されて検出できなかった。規模は、36×29cmであった。

遺物は、古墳時代後期の須恵器、土師器の小片が少量出土している。

第125図1・2は、須恵器の蓋である。2点とも天井部にヘラケズリが施される。3～5は、土師器の坏である。3は比企型坏で、口縁部外面から内面にかけて赤彩が施される。4・5は、有段口縁坏である。



第125図 第366号住居跡出土遺物

第367号住居跡 (第126・127図)

N・O-33グリッドにかけて検出された。第332・333・342・356号住居跡、第400号井戸跡、第692・711・716号土坑、第752・779号溝跡と重複していた。新旧関係は、第332・333・342号住居跡、第400号井戸跡、第692・711・716号土坑、第779号溝跡より本遺構の方が古かった。第356号住居跡、第752号溝跡との関係は不明である。

規模は、南北6.2m、東西6.6m、深さが0.15~0.23mで、平面形態は整った正方形をしていた。主軸方位は、N-52°-Eであった。

覆土は、4層からなる自然堆積であった。カマド前面の床面直上では、灰が互層になった黒褐色土の薄い堆積を確認した。

カマドは、住居跡南壁の東寄りで見出された。カマド袖は、細く長いもので、作り付けであった。袖の内壁は、被熱のために赤く硬化していた。燃焼部は、南北113cm、東西42cmで、明瞭な掘り込みは検出できず、床面より僅かに低くなっていた。底面には暗灰色の灰層を確認できた。煙道部は大きく壁外に延びており、長さ113cm、幅28cm、深さが7cmであった。先端部には、浅い小ピットを検出することができた。



第126図 第367号住居跡 (1)

第367号住居跡		
1	暗茶褐色土 2.5Y3/2	暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子(φ5mm)少～中量 灰色土粒子(φ3mm)少量 焼土粒子(φ5mm)微量 しまりあり 粘性ややあり
2	暗灰黄色土 2.5Y4/2	暗灰黄色のしまりある土 青灰色土ブロック(φ10～20mm)多量 暗灰色土少量 しまりあり 粘性ややあり 黒褐色に近い灰色の灰層 灰層が2層帯状に混入 黄褐色土ブロック(φ10～20mm)灰層と灰層の間に斑に含む 焼土粒子(φ2mm)微量 しまり・粘性ややあり
3	黒褐色土 2.5Y3/1	ほぼ3層と同じで灰と焼土を含まず ロームブロックは青灰色(φ10～20mm)少量
4	褐灰色土 10YR4/1	暗灰色のやや粘性のある土 黄褐色土ブロック(φ10～20mm)斑に含む(それぞれ50%ずつくらい混入) しまりあり 粘性ややあり
カマド		
5	黒褐色土 10YR3/1	黒褐色のしまりある土 焼土ブロック(φ10～20mm)多量 黄褐色土粒子(φ5mm)層下部に少量 しまりあり 粘性なし
6	黒褐色土 10YR3/2	暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2mm)斑に含む 焼土粒子(φ3mm)微量 しまりあり 粘性なし 茶褐色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ5mm)・焼土粒子(φ3mm)斑に含む 炭化物粒子(φ3mm)少量 しまりあり 粘性なし
8	暗灰色土 2.5Y4/1	暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2mm)・焼土粒子(φ2～5mm)少量 灰色の灰少量 しまりあり 粘性なし
9	暗黄褐色土 2.5Y3/2	暗黄褐色のロームブロック主体 焼土ブロック(φ5～10mm)少～中量(特にカマド奥部の方に多く含まれる) 層下部が焼けた赤褐色に変色している しまりあり 粘性なし
9'	暗赤褐色土 7.5YR3/3	9層が焼けた暗赤褐色に変色している しまりあり 粘性なし
10	暗灰黄色土 2.5Y4/2	見た感じ暗緑灰色(黄褐色土の変色したもの) 黄褐色土ブロック主体の土 しまりあり 粘性なし
11	暗黄灰色土 2.5Y3/2	黄褐色土ブロック主体 灰色土粒子(φ5mm)少量 しまりあり 粘性なし
12	黒褐色土 10YR3/1	暗灰色の灰を多量 暗灰色のシルト質土少量 しまり・粘性なし

ピット1・2・5		
13	黒褐色土 10YR3/1	黒褐色のしまりある土 黄褐色土粒子(φ2mm)少量 しまりあり 粘性なし
14	褐灰色土 10YR4/1	黒褐色に近い暗灰色のやや粘性のある土 黄褐色土粒子(φ3～5mm)少～中量 焼土ブロック(φ5mm)微量 しまりあり 粘性ややあり
15	褐灰色土 10YR5/1	灰色粘質土 灰色シルト斑に含む 黄褐色(灰色)土粒子(φ2～3mm)少量 しまりなし 粘性強い 黒っぽい暗灰色の灰多量 焼土粒子(φ2～5mm)中～多量 黄褐色土粒子(φ3mm)少量 しまり・粘性弱い
16	黒褐色土 10YR3/1	
ピット3		
17	褐灰色土 10YR4/1	暗灰色のしまりある土含む 黄褐色土粒子(φ1mm)多量 しまりあり 粘性なし
18	褐灰色土 10YR4/2	17層とほぼ同じ 17層より明るい 黄褐色土主体 しまりあり 粘性ややあり
19	褐灰色土 10YR4/1	暗灰色粘質土 黄褐色土粒子(φ2mm)斑に含む しまりややあり 粘性あり
ピット4		
20	灰黄オリーブ色土 5Y5/2	灰黄オリーブのしまりある土(ローム主体)灰色土少量 しまりあり 粘性なし
21	暗緑灰色土 5Y4/1	暗緑灰色のやや粘性のある土 青灰色土粒子(φ5mm)多量 灰色粘質土斑に含む しまりあり 粘性ややあり
22	緑灰色土 5G4/1	緑灰色の粘性の強い土 緑灰色シルト斑に含む しまりややあり 粘性強い
23	暗緑灰色土 5G4/1	暗緑灰色の粘性の強い土 暗緑灰色シルト少量 しまりややあり 粘性強い

第127図 第367号住居跡(2)

壁溝は、東壁を除く範囲に全周し、幅12～23cm、深さが4～7cmであった。

ピットは5本を検出した。P1～3の3本が、ピットの堆積状況や位置などから、主柱穴と考えられる。北西部分のピットは、第333号住居跡と重複しており、検出することができなかった。各柱穴の規模は、P1が34×59cm、P2が35×47cm、P3が26×39cmであった。P4は東壁際で検出され、平面形態が楕円形をしていた。規模は、長軸86cm、短軸82cm、深さが78cmであった。ピットの形状だけで考えると、貯蔵穴として使用されていた可能性が考えられる。P5は、P1と接しており、深さも浅く、性格は不明である。規模は、26×22cmであった。

遺物は、遺構の重複がほとんどなかった南東コーナー部に集中して出土している。

第128図1～3は、土師器坏である。1・2は模倣坏である。3は北武蔵型坏で、口縁部外面から内面にかけて赤彩が施される。4は、P4から出土した小型の土師器高坏で、外面と坏部内面が赤彩される。6は、土師器の台付鉢である。P4の下層とカマド左脇から出土した破片が接合している。8～17は、土

師器の甕である。8の内面には、指頭圧痕が明瞭に残る。

第368号住居跡(第129図)

M・N-34グリッドにかけて検出された。第16号方形周溝墓、第352・377号住居跡、第715・751号土坑、第729号溝跡と重複していた。新旧関係は、第16号方形周溝墓、第377号住居跡、第751号土坑より新しく、第352号住居跡、第715号土坑、第729号溝跡より古かった。

本住居跡は、床面が2枚検出できたことから、拡張をしていることがわかった。拡張後の住居跡は、南壁のみ約1m拡張し、床面が一段高くなっていた。

拡張前の住居跡の規模は、南北2.7m、東西4.0m、深さが0.21～0.33mで、平面形態は東西に長い長方形をしていた。

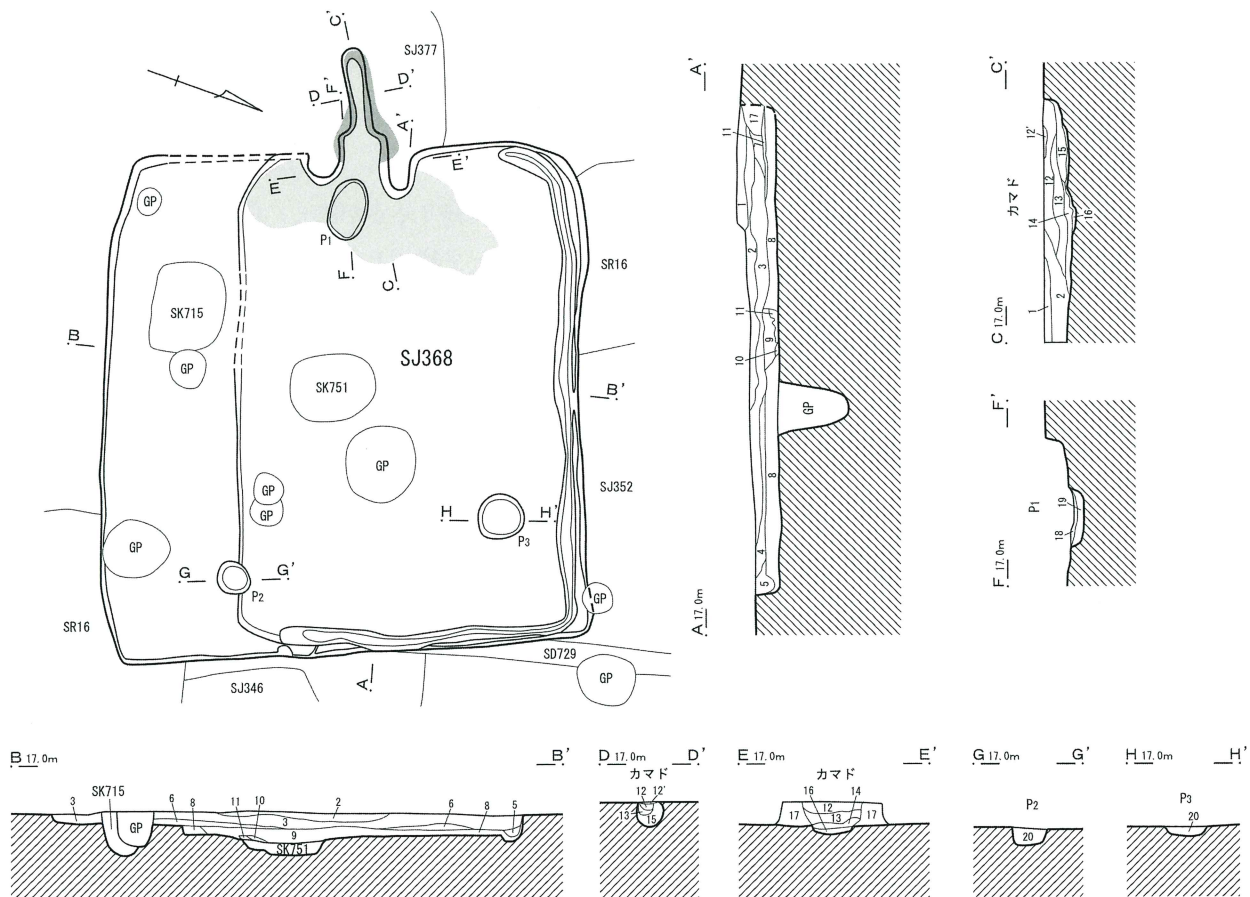
壁溝は、北壁のみ巡り、幅0.17cm、深さが0.07cmであった。

拡張後の住居跡の規模は、南北3.8m、東西4.0m、深さが0.12mで、平面形態は正方形をしていた。

主軸方位は、N-65°-Eであった。



第128图 第367号住居跡出土遺物



第368号住居跡

- | | | |
|------------------------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒褐色のしまりある土 焼土ブロック (φ10mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/2 | 暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ10~30mm) 斑に含む しまりあり 粘性なし |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ2mm) 少~中量 暗灰色シルト少量 焼土粒子 (φ3mm)・炭化物粒子 (φ3mm) 微量 しまりあり 粘性なし |
| 4 黒褐色土 | 10YR3/2 | 暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ20mm) 少~中量 しまりあり 粘性弱い |
| 5 褐灰色土 | 10YR4/1 | 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ3mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 6 褐灰色土 | 10YR4/1 | 暗茶褐色がかかった暗い灰色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 7 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ5~8mm) 斑に含む しまりあり 粘性弱い |
| 8 黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ2mm)・灰色土少量 しまりあり 粘性なし |
| 9 黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 斑に含む 焼土粒子 (φ3mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 10 褐灰色土 | 10YR4/1 | 暗灰色のシルト質土でしまりある土 黄褐色土粒子 (φ1mm) 微量 |
| 11 黒土 | 10YR2/1 | 黒色炭化物層 暗茶褐色土少量 しまり・粘性弱い |
| カマド | | |
| 12 茶褐色土 | 10YR4/2 | やや暗灰色がかかった茶褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 12' 12層と同じ+焼土ブロック (φ10mm) 含む | | |
| 13 黒褐色土 | 10YR3/2 | 暗茶褐色のしまりある土 焼土ブロック (φ10~30mm) 斑に含む 灰色シルト少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 14 黒褐色土 | 10YR3/1 | 暗灰色の灰層多量 焼土粒子 (φ3~5mm) 斑に含む 黄褐色土粒子 (φ5mm) 少量 茶褐色土少量 炭化物・動物の骨を含む しまり弱い 粘性なし |
| 15 褐灰色土 | 10YR4/1 | 暗灰色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ3mm) 多量 暗灰色の灰斑に含む 焼土ブロック (φ5mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 16 褐灰色土 | 10YR4/1 | 15層と似ている 黄褐色土粒子が15層より多い しまりあり 粘性弱い |
| 17 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黒褐色に近い暗灰色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ5~8mm) 少量 灰色シルト斑に含む 焼土粒子 (φ3mm) 微量 しまりあり 粘性なし (カマド袖) |
| ピット 1 | | |
| 18 黒褐色土 | 10YR3/1 | 暗灰色の灰層多量 焼土粒子 (φ3~5mm) 斑に含む 黄褐色土粒子 (φ5mm)・茶褐色土少量 しまり弱い 粘性なし |
| 19 褐灰色土 | 10YR4/1 | 茶褐色がかかった暗灰色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ10~30mm) 多量 しまりあり 粘性なし |
| ピット 2・3 | | |
| 20 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黒褐色のしまりある土 黄褐色土ブロック (φ10mm) 多量 しまりあり 粘性なし |

0 2m
1:60

第129図 第368号住居跡

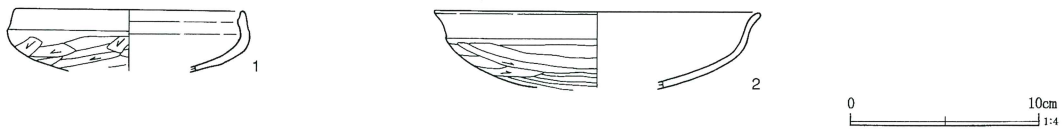
カマドは、住居跡の西壁で検出された。古いカマドが確認できなかったことから、カマドは拡張前後では同じものを使用していたと考えられる。カマド袖は、暗灰色のしまりある土で構築されていた。燃焼部は、東西50cm、南北40cm、深さが18cmであった。煙道部は壁外に細く延び、長さ67cm、幅17cm、深さが18cmであった。燃焼部から煙道部にかけてカマドの内壁は被熱のため赤く硬化していた。また、カマドから前面の床面にかけて灰が大きく広がっていた。覆土下層の灰層（14層）からは、動物の骨片が多量の灰とともに出土している。

壁溝は、北壁から東壁にかけて巡り、幅11~25cm、深さが3~8cmであった。

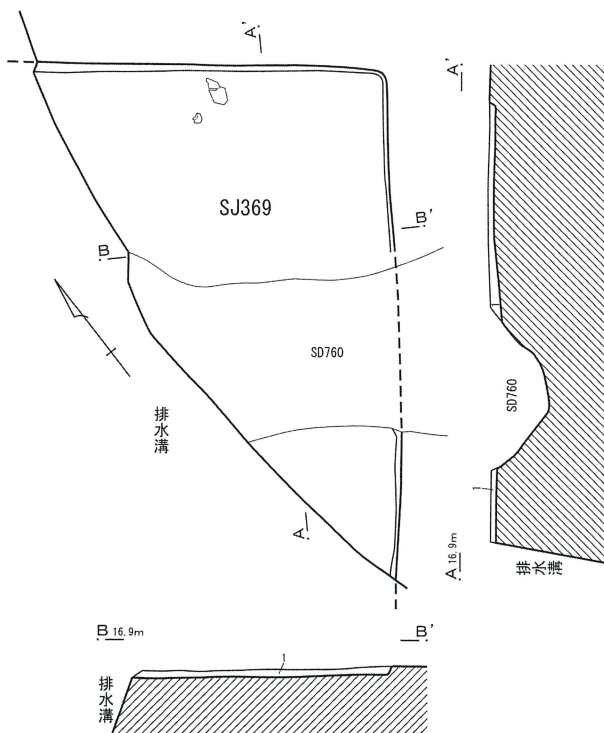
ピットは3本を検出した。P1はカマド燃焼部の前面で検出された。覆土には灰を多量に含み、掘り込みは深くないことから、カマドの灰を処理するための遺構と考えられる。規模は、48×10cmであった。P2・3は、掘り込みが浅く、位置も規則的ではないことから、支柱穴とは考えにくく、その性格は不明である。各ピットの規模は、P2が28×15cm、P3が37×7cmであった。

遺物は、覆土から古墳時代後期の土師器片が少量出土している。

第130図1は、覆土下層から出土した土師器坏である。比企型坏で、口縁部外面から内面にかけて赤彩が施される。2は、大型の土師器模倣坏である。



第130図 第368号住居跡出土遺物



第369号住居跡
1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子(φ1~2mm)・黄褐色土ブロック(φ3~5mm)多量

第131図 第369号住居跡

第369号住居跡（第131図）

K・L-35グリッドにかけて検出された。住居跡の大部分は調査区域外に延びており、全体を調査することができなかった。また、調査開始前に掘削した排水溝により、西側の一部が壊されていた。住居跡の中央部分は、中世の第760号溝跡が走行し、床面が大きく壊されていたため、住居跡の残りがあまり良くなかった。

検出された範囲は、南北3.9m、東西2.8m、深さが0.07mで、平面形態は方形をしていたと思われる。床面は、ほぼ平坦であった。主軸方位は、N-36°-Eであった。

覆土は、1層からなる自然堆積であった。

カマド、壁溝、ピットなどの付属施設は検出できなかった。

遺物は、北壁寄りの床面直上から古墳時代後期の土師器甕が出土している。他に、覆土中から土師器碗、高坏片などが少量出土しているが、図示できるものがなかった。

第370号住居跡 (第108・109図)

N-33・34グリッドにかけての第16号方形周溝墓の方台部内で検出された。第344・347・362・364号住居跡と重複していた。新旧関係は、第364号住居跡より新しく、第347・362号住居跡より古かった。北側で壁を接していた第344号住居跡との関係は不明である。

規模は、南側を第370号住居跡と重複していたため、全体の形状は確認できなかった。検出された範囲は、南北3.8m、東西4.1m、深さが0.01~0.13mで、平面形態は正方形に近い形をしていた。主軸方位は、N-25°-Wであった。

カマドは検出することができなかった。

壁溝は、第364号住居跡と重複して壁面が検出できなかった西壁部分を除いた範囲に全周していた。規模は、幅17~30cm、深さが4~9cmであった。

貯蔵穴は、北東コーナー寄りで検出された。規模は、長軸103cm、短軸75cm、深さが76cmで、平面形態

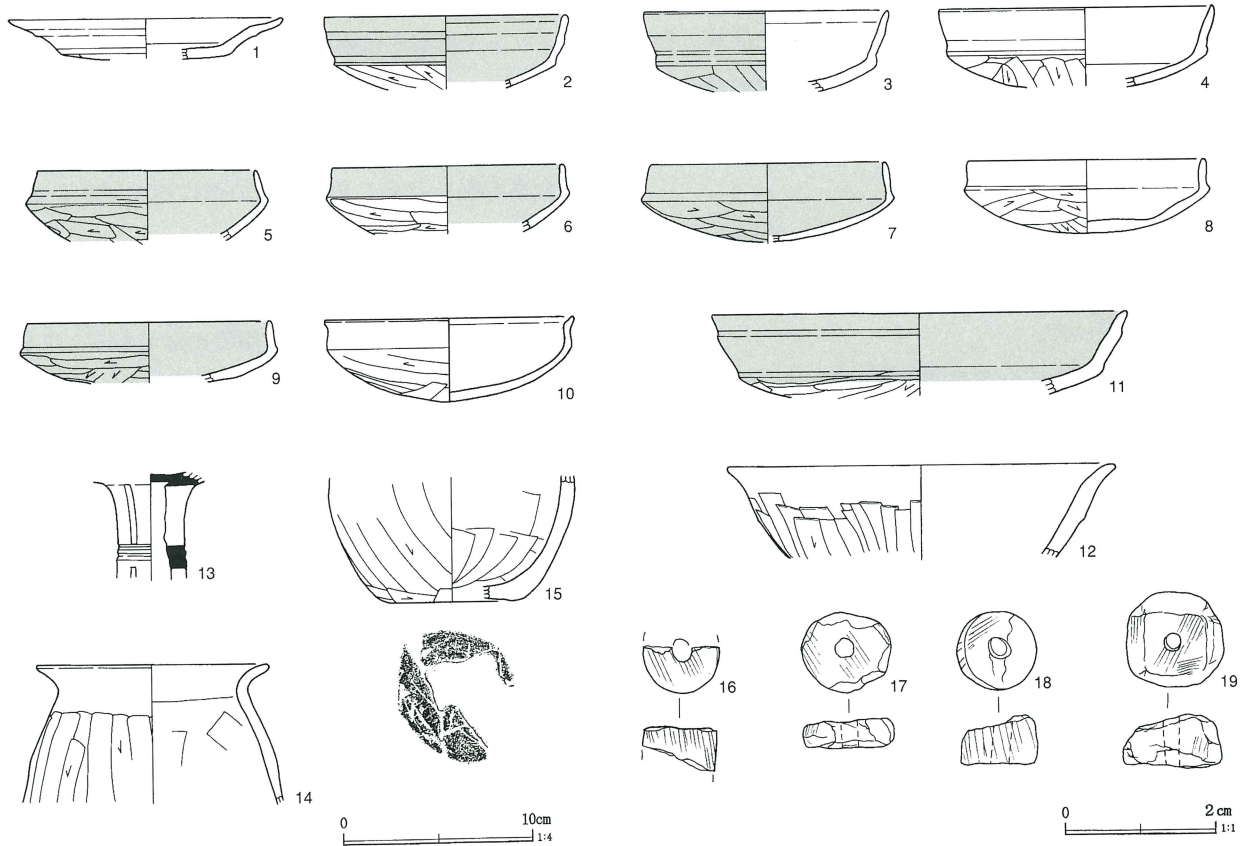
は東西に長い楕円形をしていた。覆土中~下層にかけて、土師器片が少量出土している。

住居跡のほぼ中央部からは、床面から掘り込まれた土坑が1基検出された。長軸30cm、短軸27cm、深さが76cmで、平面形態が楕円形をしていた。断面の形状は、貯蔵穴とほぼ同じであった。性格については不明である。

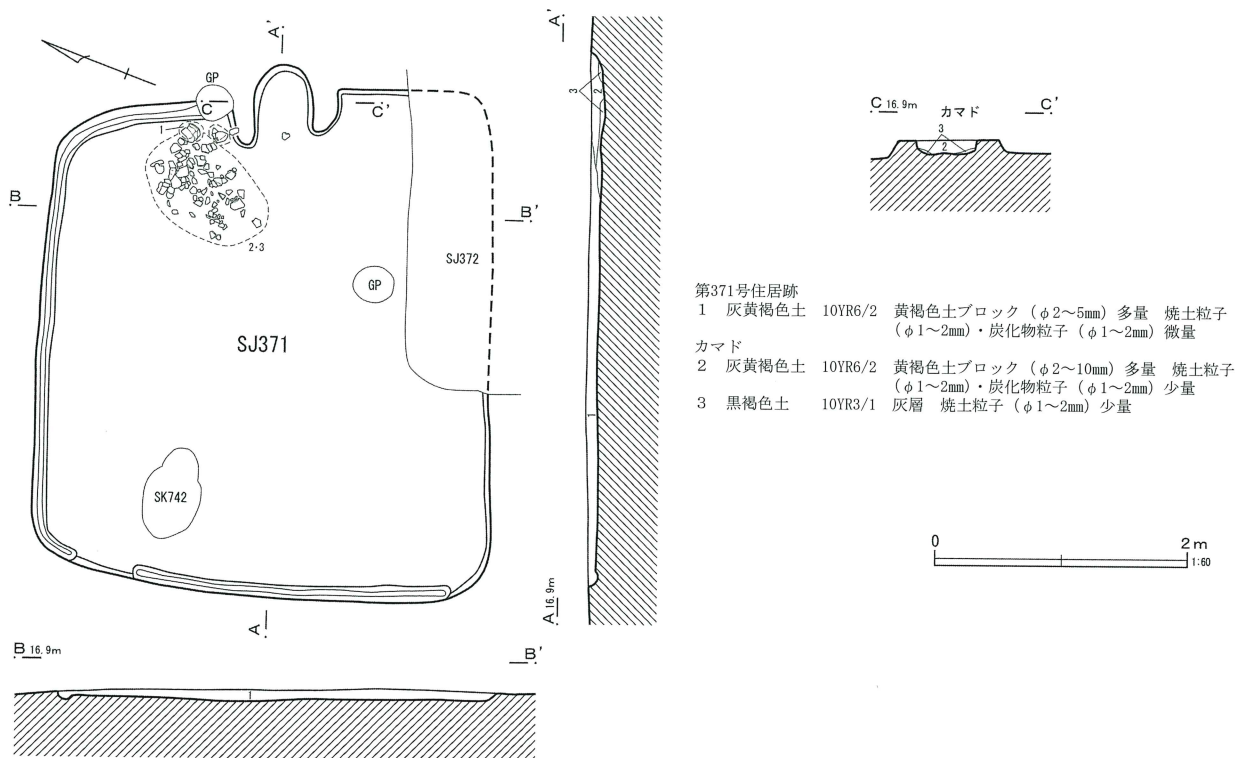
ピットは2本を検出した。P2からは、土層断面で柱材の痕跡が確認できたが、住居跡の中央部分に位置するため、柱穴であるかは不明である。規模は、P1が39×26cm、P2が47×40cmであった。

遺物は、床面から滑石製白玉4点や覆土中から土師器坏片などが多量に出土した。

第132図1は、土師器の皿である。2~11は、土師器の坏である。2・3・5~7・9・11は、黒色処理が施される。13は、須恵器の高坏脚部片で、二段の透かしが残る。15の土師器鉢は、底面に木葉痕が認められる。



第132図 第370号住居跡出土遺物



第133図 第371号住居跡

第371号住居跡 (第133図)

L-35グリッドで検出された。第372号住居跡、第742号土坑と重複していた。新旧関係は、第372号住居跡より新しく、第742号土坑より本遺構の方が古かった。

規模は、南北3.6m、東西4.0m、深さが0.08mで、平面形態は方形をしていた。主軸方位は、N-71°-Eであった。

覆土は、1層からなる自然堆積であった。

カマドは、住居跡の東壁中央部分で検出された。カマド袖は短く、作り付けであった。また、あまり被熱した様子がないため、短期間で廃絶された可能性が高い。燃焼部は、東西62cm、南北47cm、深さが3cmで、床面からの掘り込みはほとんど認められなかった。底面には灰層(3層)が薄く堆積していた。2層の灰黄褐色土は、地山土のブロックを多量に含んでおり、カマドの天井部が崩落した層と考えられる。

床面は、ほぼ平坦であった。

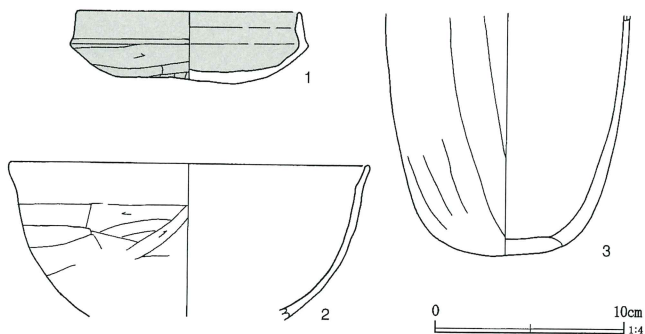
壁溝は、北壁と西壁に部分的に巡り、幅10~17cm、

深さが3~4cmであった。

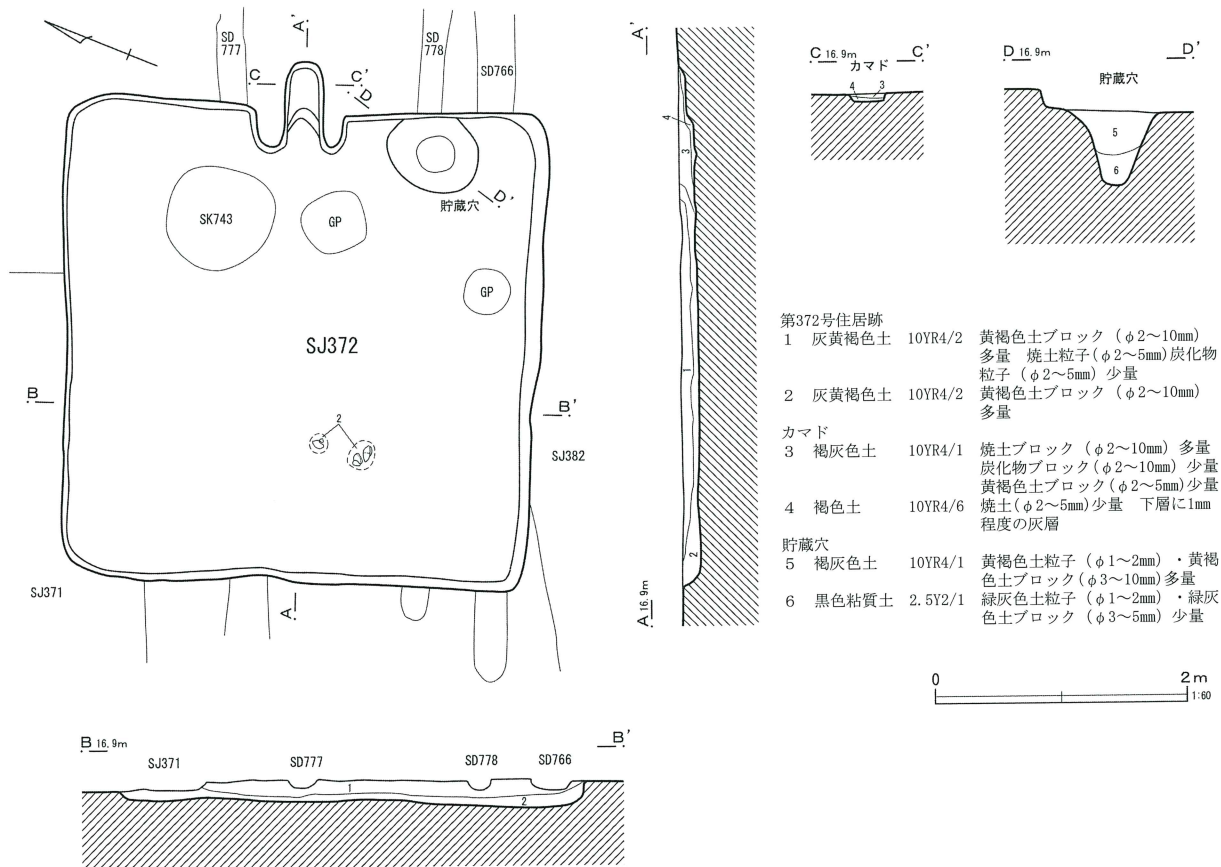
ピットや貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、カマド左袖脇に古墳時代後期の土師器片が固まって出土している。細かく割れた破片が多く、接合率が悪いため、ある程度の形に復元できた遺物は少なかった。

第134図1は、土師器の坏である。身模倣坏で、黒色処理が施される。2は、土師器の鉢である。3は、土師器甕の底部片である。底部は平底ではなく、やや丸味をもち、安定感に欠ける。



第134図 第371号住居跡出土遺物



第135図 第372号住居跡

第372号住居跡 (第135図)

L・M-35グリッドにかけて検出された。第371・382号住居跡、第743号土坑、第766・777・778号溝跡と重複していた。新旧関係は、第382号住居跡より新しく、第371号住居跡、第743号土坑、第766・777・778号溝跡より古かった。

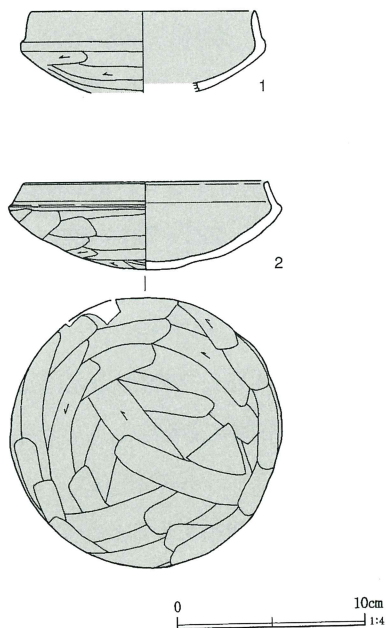
規模は、南北3.8m、東西3.8m、深さが0.12mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-70°-Eであった。

覆土は、2層からなる自然堆積であった。

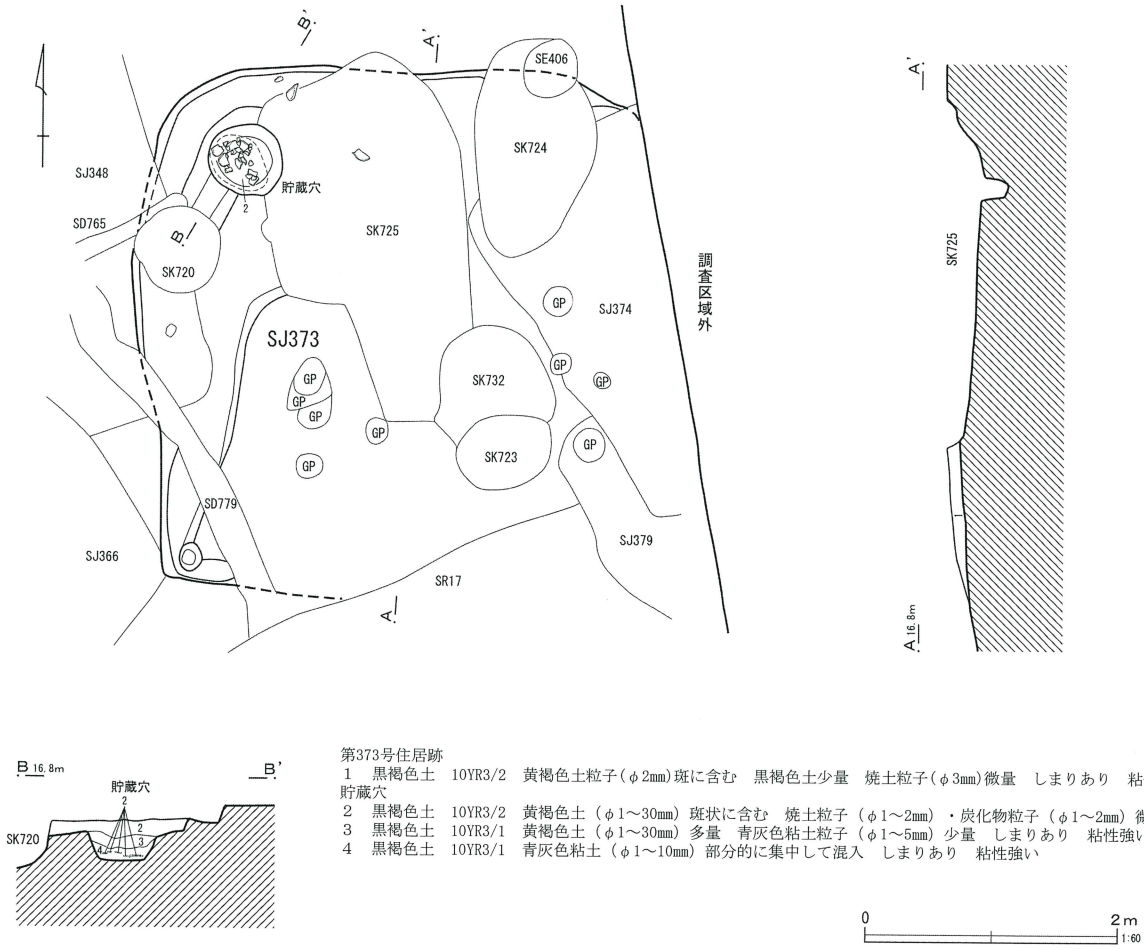
カマドは、東壁のほぼ中央で検出された。燃焼部は、東西37cm、南北32cmで、床面とほぼ同じ高さであった。煙道部は壁外に延び、長さ37cm、幅31cm、深さが6cmであった。

貯蔵穴は、カマド右脇の南東コーナー部寄りで検出された。規模は、長軸74cm、短軸61cm、深さが59cmで、平面形態は南北に長い楕円形をしていた。

第136図1・2は、土師器の坏である。身模倣坏で、黒色処理が施される。



第136図 第372号住居跡出土遺物



第137図 第373号住居跡

第373号住居跡 (第137図)

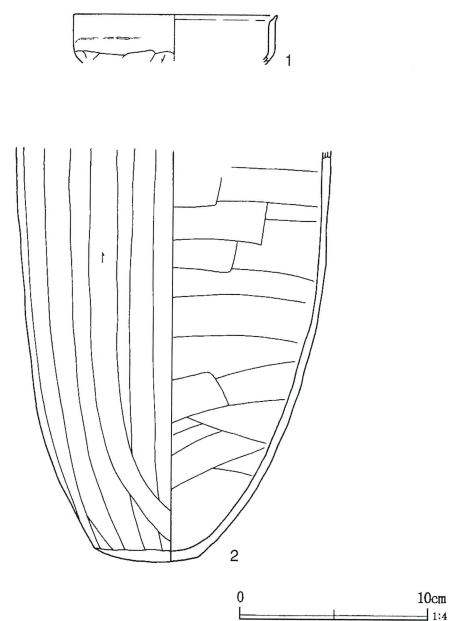
O・P-34・35グリッドにかけて検出された。第17号方形周溝墓、第348・366・374・379号住居跡、第406号井戸跡、第720・723・724・725・732号土坑、第765・779号溝跡と重複していた。新旧関係は、第17号方形周溝墓より新しく、第348号住居跡、第406号井戸跡、第720・723・724・725・732号土坑、第765・779号溝跡より古かった。第366・374・379号住居跡との切り合いは不明であった。

規模は、南北4.1m、東西4.0m以上、深さが0.12~0.14mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-3°-Eであった。

カマド、壁溝は検出することができなかった。

貯蔵穴は、北西コーナー部で検出された。長軸59cm、短軸56cm、深さが33cmで、平面形態は円形をしていた。下層から土師器の甕底部が出土した。

遺物は、古墳時代後期の土師器片が多量に出土しているが、図示できたものは少なかった。



第138図 第373号住居跡出土遺物

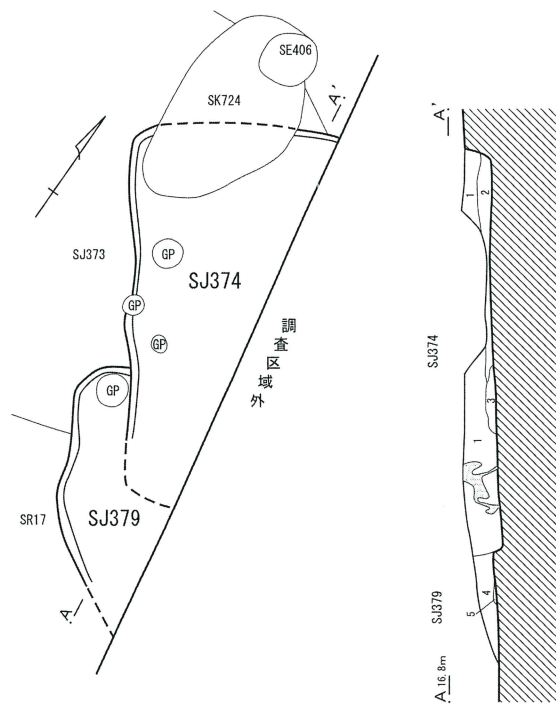
第374号住居跡（第139図）

P-34・35グリッドにかけて検出された。東側は調査区域外に大きく延びていたため、全体を調査することができなかった。第17号方形周溝墓、第373・379号住居跡、第724号土坑と重複していた。新旧関係は、第17号方形周溝墓、第379号住居跡より新しく、第724号土坑より古かった。第373号住居跡との関係は不明である。

規模は、推定南北3.0m、東西1.6m以上、深さが0.24mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-36°-Wであった。

カマド、壁溝などの付属施設は検出することはできなかった。

遺物は、古墳時代後期の土師器模倣坏、比企型坏、鉢、小型甕などの破片が出土しているが、図示できるものがなかった。



- 第374号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土(φ1~10mm)やや斑に含む しまり・粘性あり
 - 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土~緑灰色土(φ1~10mm)斑に含む 焼土粒子(φ1mm)・炭化物粒子(φ1mm)微量 しまり・粘性あり
 - 3 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色~緑灰色土(φ1~20mm)含む しまり・粘性あり
- 第379号住居跡
- 4 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子(φ1~2mm)均等に少量 焼土粒子(φ1~2mm)・炭化物粒子(φ1~2mm)微量 しまり・粘性あり
 - 5 黒褐色土 10YR3/1 炭化物を層状に含む



第139図 第374・379号住居跡

第375号住居跡（第140図）

O-35グリッドの谷部への落ち際で検出された。第17・18号方形周溝墓、第366号住居跡、第740号土坑、第767・768号溝跡と重複していた。新旧関係は、第17・18号方形周溝墓、第366号住居跡、第767号溝跡より新しく、第740号土坑、第768号溝跡より古かった。

規模は、南北3.5m、東西3.9m、深さが0.27~0.35mであった。平面形態は、北東部にやや歪みがあったが、方形をしていた。標高が低い部分で検出されたにも関わらず、床面までの掘り込みが深くまで残存していた。主軸方位は、N-84°-Eであった。

覆土は、8層からなる自然堆積であった。覆土上層には、炭化物を主体とする薄い層(2層)が堆積していた。

カマドは、住居跡西壁のやや南寄りで検出された。カマド袖は作り付けで、黒褐色土(18層)と褐灰色土(19層)で構築されていた。燃烧部は、東西66cm、南北44cm、深さが3cmで、床面からの楕円形の浅い掘り込みがあった。煙道部は、細く壁外に延びており、長さ72cm、幅22cm、深さが9cmであった。

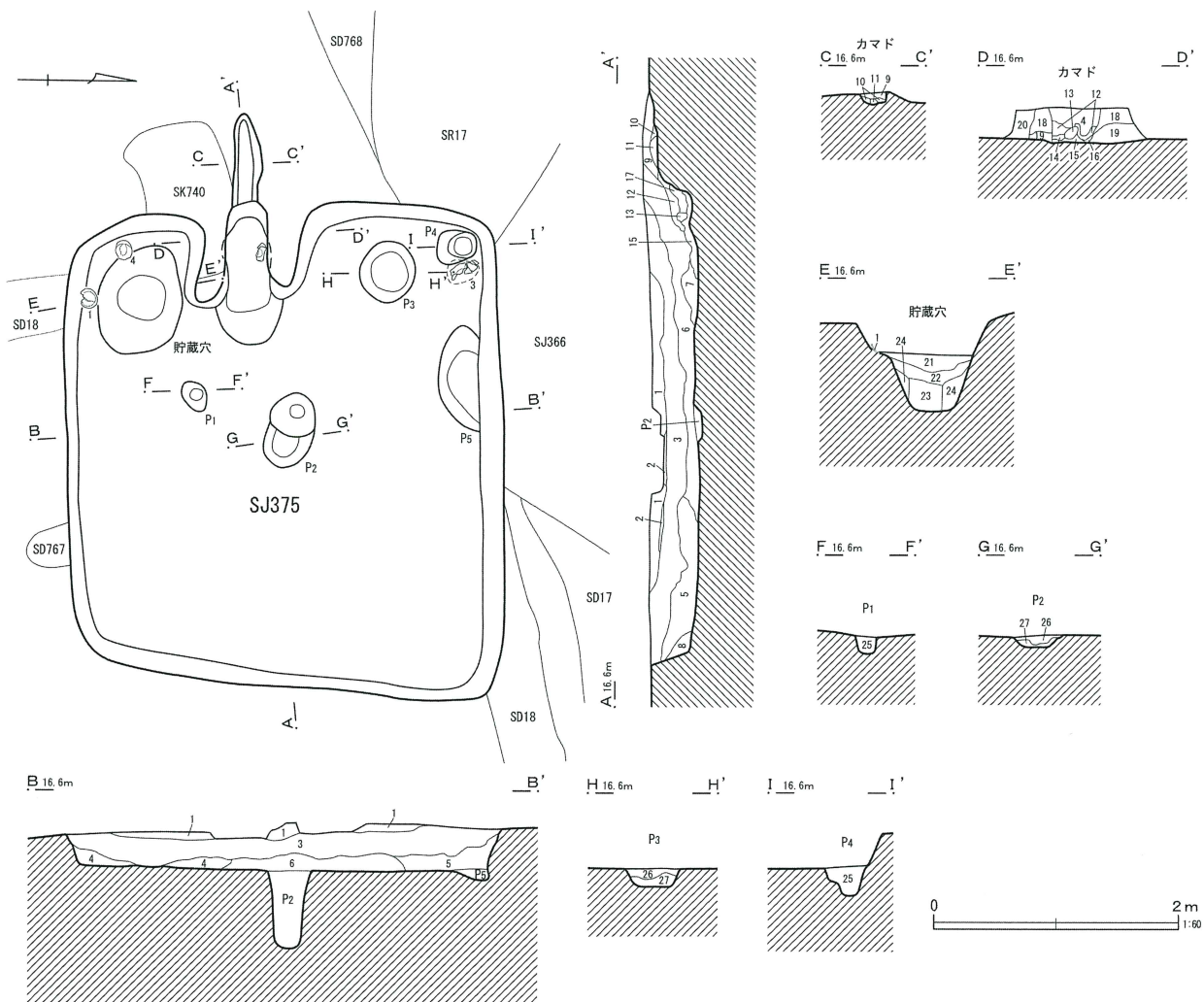
覆土下層には、3枚の薄い灰層(14・15・17層)を検出した。

壁溝は巡らされていなかった。

貯蔵穴は、カマド左袖脇の南西コーナー部で検出された。規模は、長軸93cm、短軸69cm、深さが42cmで、平面形態は東西に長い楕円形をしていた。

ピットは5本を検出した。柱痕は確認できず、形態も一定していなかったことから、主柱穴である可能性は低い。各ピットの規模は、P1が27×24cm、P2が61×67cm、P3が49×16cm、P4が32×23cm、P5が87×9cmであった。

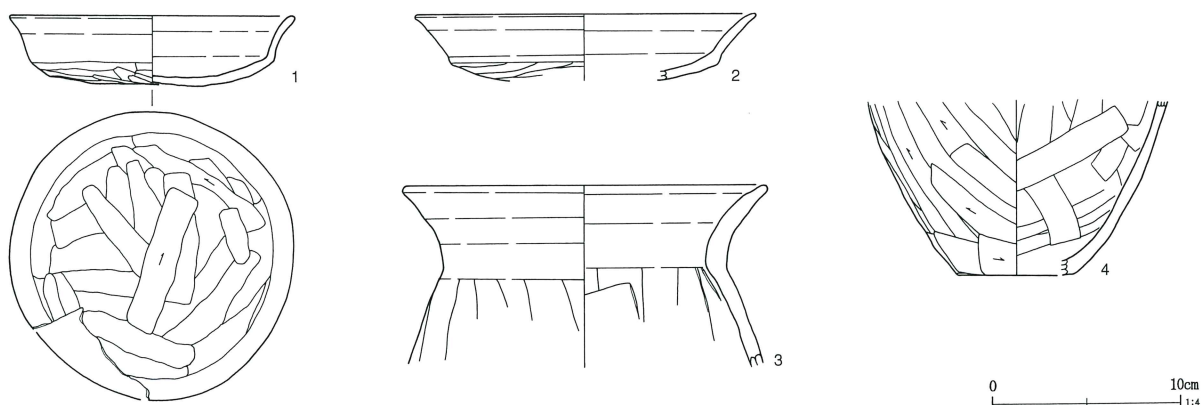
第141図1・2は、大型の土師器坏である。1は、ほぼ完形で、貯蔵穴内から出土している。3は、P4脇から出土した土師器甕の口縁部片である。4は、貯蔵穴脇から出土した土師器甕の底部片である。



第375号住居跡

1 黒褐色土	10YR3/1	炭 (φ1~2mm) 含む 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
2 黒色土	10YR2/1	炭化物を主体とする層 しまり・粘性弱い
3 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土・青灰色粘土 (φ1~20mm) 不均等に含む 炭化物粒子 (φ1~3mm) 部分的微量 しまり・粘性あり
4 暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に多量 しまり・粘性あり
5 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土・青灰色粘土粒子 (φ1~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~10mm) 部分的に含む しまり・粘性あり
6 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土・青灰色粘土 (φ1~10mm) 均等に含む 炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまり・粘性あり
7 黒褐色土	10YR3/1	青灰色粘土 (φ1~5mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1mm) しまりあり 粘性強い
8 黒褐色土	10YR3/1	青灰色粘土 (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性強い
カマド		
9 褐色土	10YR4/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 均等に含む 焼土粒子 (φ1~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
10 黒色土	10YR2/1	炭化物粒子 (φ1mm) 多量 焼土粒子 (φ2~10mm) 部分的に多く含む 緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性弱い
11 緑灰色土	7.5GY6/1	地山を主体とする 9層土を少量 しまり・粘性あり
12 にぶい赤褐色土	5YR5/4	焼土を主体 灰少量 青灰色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量 しまり・粘性あり
13 青灰色土	5BG6/1	粘土ブロック しまりあり 粘性強い
14 青黒色土	5PB1.7/1	灰層中に焼土ブロックが集中して堆積する しまりあり 粘性ややあり
15 青黒色土	5PB1.7/1	灰の純層 しまりない 粘性ややあり
16 青灰色土	5BG6/1	地山土ブロック
17 暗灰色土	N3/	灰を主体 地山土ブロック混入 しまり弱い 粘性ややあり
18 黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土・緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む 焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 しまり・粘性あり
19 褐色土	10YR4/1	緑灰色土 (φ1~10mm) 多量 しまり・粘性あり
20 黒褐色土	10YR3/2	緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
貯蔵穴		
21 オリーブ黒色土	7.5Y3/1	粘質土 緑灰色土 (φ1~2mm) 均等に含む しまり・粘性あり
22 黒色土	10YR2/1	粘質土 緑灰色土 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性強い
23 黒色土	10YR2/1	粘質土 灰色粘土含む 緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性強い
24 オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 多量 しまり・粘性あり
ビット1・4		
25 暗オリーブ灰色土	2.5GY3/1	粘質土 緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む しまりややあり 粘性強い
ビット2・3		
26 暗オリーブ灰色土	2.5GY3/1	粘質土 緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 均等に含む しまりややあり 粘性強い
27 暗オリーブ灰色土	2.5GY3/1	粘質土 緑灰色土 (φ1~10mm) 多量 しまりややあり 粘性強い

第140図 第375号住居跡



第141図 第375号住居跡出土遺物

第376号住居跡 (第142～145図)

N-35グリッドで検出された。南側は谷部へと至るため、標高がやや低くなる地点にあった。第365・389号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第731号土坑、第762・764・780号溝跡と重複していた。新旧関係は、第389号住居跡より新しく、第365号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第731号土坑、第762・764・780号溝跡より古かった。

規模は、南北6.8m、東西6.7m、深さが0.30mであった。平面形態は、隅がやや丸味をもつ正方形をしていた。主軸方位は、N-70° - Eであった。

住居跡の床面近くには、炭化物や焼土が多量に堆積しており、建築部材と考えられる炭化材も検出されたことから、本住居跡は消失して廃棄された可能性が高い。今回報告する住居跡では、消失家屋の可能性が考えられるのは本遺構のみである。そのことから、廃絶の際に人為的に燃やしたのではなく、過失により焼け落ちたものと考えられる。

カマドは、住居跡東壁のやや南寄りで検出された。カマド袖や燃焼部は明確に検出することができず、確認できたのは、壁外に細く延びる煙道部だけであった。煙道部は、長さ79cm、幅31cm、深さが12cmであった。底面に薄い灰層を確認することができた。また、第389号住居跡と重複する部分で、煙出しの天井部分を検出することができた。

壁溝は、部分的に途切れた部分があったが、ほぼ全周していた。規模は、幅11～30cm、深さが5～22

cmであった。

貯蔵穴は、南東コーナー部で検出された。規模は、長軸111cm、短軸77cm、深さが64cmで、平面形態は不整楕円形をしていた。

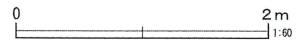
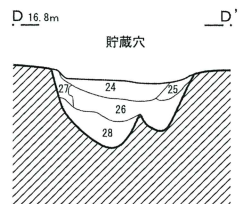
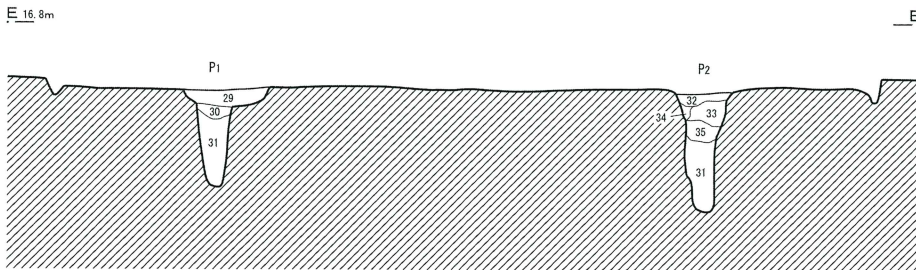
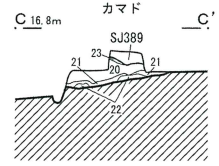
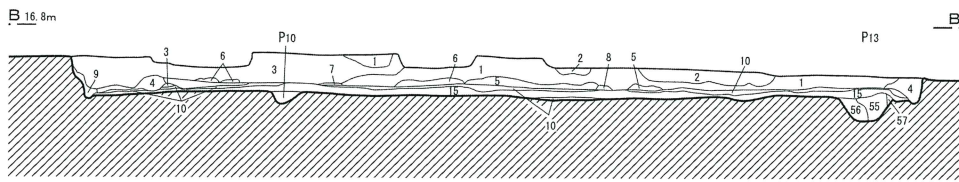
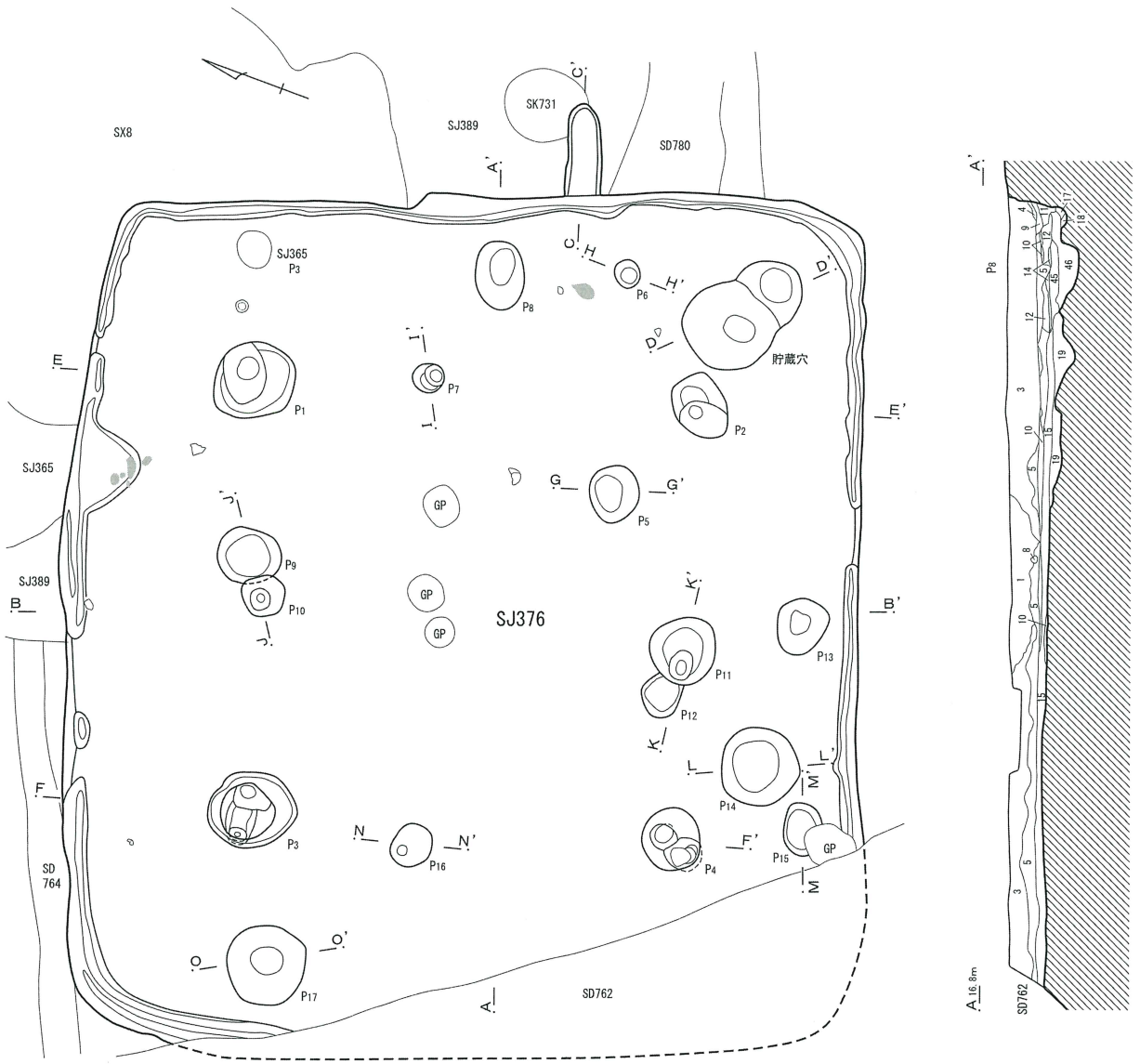
ピットは17本を検出した。P1～4が主柱穴と考えられる。P1が67×78cm、P2が57×95cm、P3が75×73cm、P4が52×72cmで、全てに柱材の痕跡を確認することができた。

他のピットの規模は、P5が50×140cm、P6が24×26cm、P7が26×59cm、P8が57×61cm、P9が54×8cm、P10が37×16cm、P11は58×19cm、P12は37×7cm、P13は49×34cm、P14は67×17cm、P15は46×8cm、P16は38×40cm、P17は69×50cmであった。

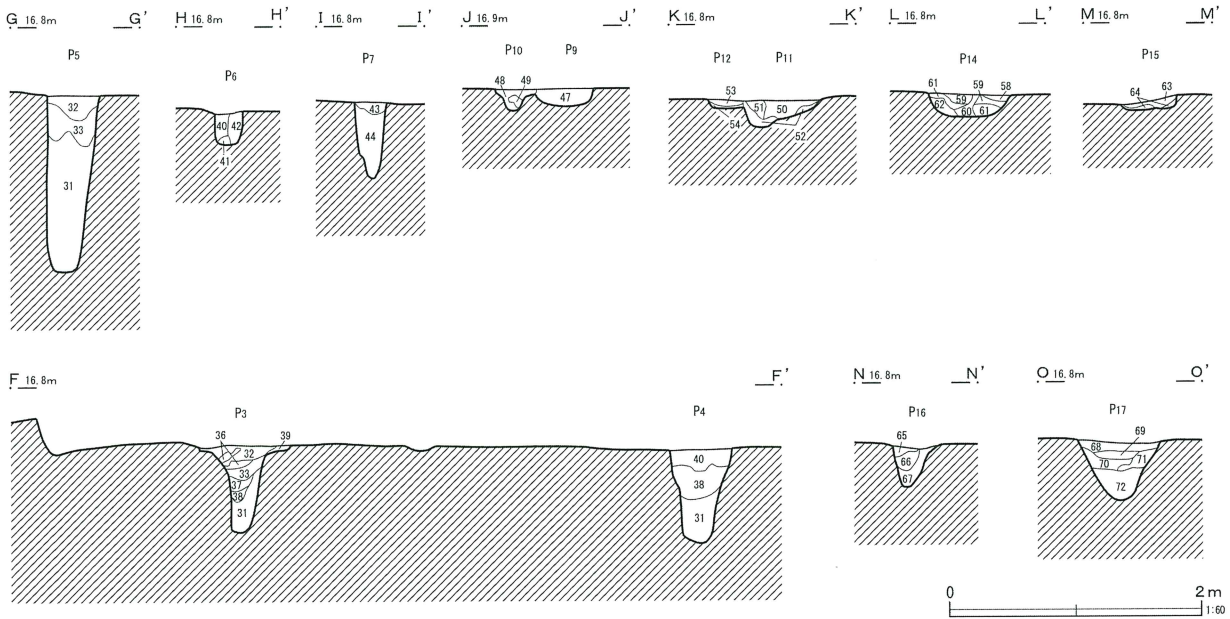
掘り方は、東壁側が他と比べ一段深く掘り下げられており、整然と掘削された感じはなかった。

遺物は、床面に近い高さから多量の須恵器、土師器片が出土している。坏などの小型の遺物が多く、甕や壺などの大型品が少ないのが特徴である。

第146図1～3は、須恵器坏蓋である。4・5は、須恵器の坏身である。6～14は土師器の坏で、6・7は模倣坏、8・9は有段口縁坏、10は比企型坏、11～14は身模倣坏である。6・7・9・11・13・14は黒色処理が、10には赤彩が施される。13・14の内面には、やや雑な放射状暗文が施される。14は、底部外面にも暗文状のミガキが施される。15は、黒色処理された土師器碗である。17～20は、須恵器の壺である。19はP6から出土した壺の口縁部片で、口



第142図 第376号住居跡 (1)



第376号住居跡

- 1 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土 (φ1~10mm) 少量 焼土 (φ1~20mm)・炭化物 (φ1~20mm) を均等に多量 しまり・粘性あり
- 2 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土 (φ1~10mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 3 にぶい黄橙色土 10YR6/4 黄褐色地山土を主体とする層 焼土粒子 (φ1~10mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 4 黒褐色土 10YR3/1 焼土 (φ1~10mm) 集中して多量 炭化物 (φ1~2mm) 少量 黄褐色土 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
- 5 黒褐色土 10YR3/1 焼土 (φ1~10mm)・炭化物 (φ1~10mm) 多量 黄褐色土 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
- 6 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土 (φ1~10mm) 多量 焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 しまり・粘性あり
- 7 褐灰色土 10YR4/1 焼土粒子 (φ1~2mm) 多量 黄褐色土 (φ1~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 しまり・粘性あり
- 8 5層中に焼土ブロックが集中する層
- 9 褐灰色土 10YR4/1 炭化物粒子 (φ1~2mm) 集中して多量 黄褐色土 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
- 10 炭化物を主体とする層 しまり弱く 粘性弱い
- 11 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 多量 黄褐色土 (φ1~2mm) 少量 しまり・粘性あり
- 12 明黄褐色土 10YR6/6 黄褐色土を主体 5層土を含む 炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまり・粘性あり
- 13 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色土を主体 5層土を少量含む しまり・粘性あり
- 14 灰と炭化物を主体とする層 しまり・粘性弱い
- 15 黒褐色土 10YR3/2 明黄褐色土 10YR7/6 灰オリブ 5Y5/3 がほぼ半々にブロック状に堆積する しまり・粘性あり (貼り床)
- 16 15と同じだが焼土 (φ10mm) 微量
- 17 黒褐色土 10YR3/2 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
- 18 灰色土 5Y4/1 粘質土 しまりあり 粘性強い
- 19 オリブ褐色土 2.5Y4/3 黄褐色土 (φ5~20mm) ブロック状に多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり (掘り方)

カマド

- 20 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土 (φ5~20mm) 均等に含む 焼土 (φ5~10mm) 微量 しまり・粘性あり
- 21 灰層 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 しまり・粘性なし
- 22 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土 (φ1~2mm) 少量 炭化物粒子 (φ1mm)・灰少量 しまりややあり 粘性あり
- 23 SJ389の埋土が被熱している範囲 煙道天井が被熱したもの

貯蔵穴

- 24 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土 (φ1~5mm) 均等に多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
- 25 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土 (φ1~5mm) 均等に多量 焼土 (φ1~10mm) 集中して多量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 含む しまり・粘性あり
- 26 オリブ黒色土 7.5Y3/1 粘質土 緑灰色シルト (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性強い
- 27 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土 (φ1~2mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
- 28 黒色土 7.5Y2/1 粘質土 緑灰色土 (φ1~5mm) 少量 しまり弱い 粘性強い

ビット1~5

- 29 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土~緑灰色シルト (地山土) (φ1~5mm) 均等に含む 炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性ややあり
- 30 オリブ黒色土 7.5Y3/1 黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~3mm) 少量 しまり・粘性ややあり
- 31 オリブ黒色土 7.5Y3/1 粘質土 緑灰色シルト少量 しまり弱い 粘性強い
- 32 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土~緑灰色シルト (φ5~10mm) 斑に含む 炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量 しまり・粘性あり
- 33 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~30mm) 含む 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量 しまり・粘性あり
- 34 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~2mm) 含む 焼土 (φ10mm) 少量 しまり・粘性あり
- 35 オリブ黒色土 7.5Y3/1 粘質土 炭化物粒子 (φ1~5mm) 多量 緑灰色シルト (φ1~2mm) 少量 しまりあり 粘性強い
- 36 黒褐色土 7.5Y3/1 焼土粒子 (φ1~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 地山土 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性ややあり
- 37 オリブ黒色土 5Y3/2 粘質土 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 地山土 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性強い
- 38 オリブ黒色土 5Y3/2 緑灰色シルト (φ1~10mm) 斑状に多量 しまりあり 粘性ややあり
- 39 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~10mm) 多量 しまりあり 粘性強い
- 40 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土~緑灰色シルト (φ5~20mm) 斑状に多量 焼土 (φ1~10mm) 少量 しまり・粘性あり

ビット6

- 41 オリブ黒色土 5Y3/1 黄褐~緑灰色土 (φ1~5mm) 均等に含む しまり弱い 粘性あり
- 42 オリブ黒色土 5Y3/2 緑灰色土 (φ5~10mm) 多量 しまりなし 粘性あり
- 43 灰オリブ色土 7.5Y4/2 緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 多量 しまり・粘性あり

ビット7

- 44 黒褐色土 2.5Y3/2 黄褐~灰白色土 (φ5~10mm) 多量 焼土 (φ10~20mm) 少量 炭化物粒子 (φ5mm) 微量 しまり・粘性あり
- 45 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐~灰白色土 (φ1~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり

ビット8

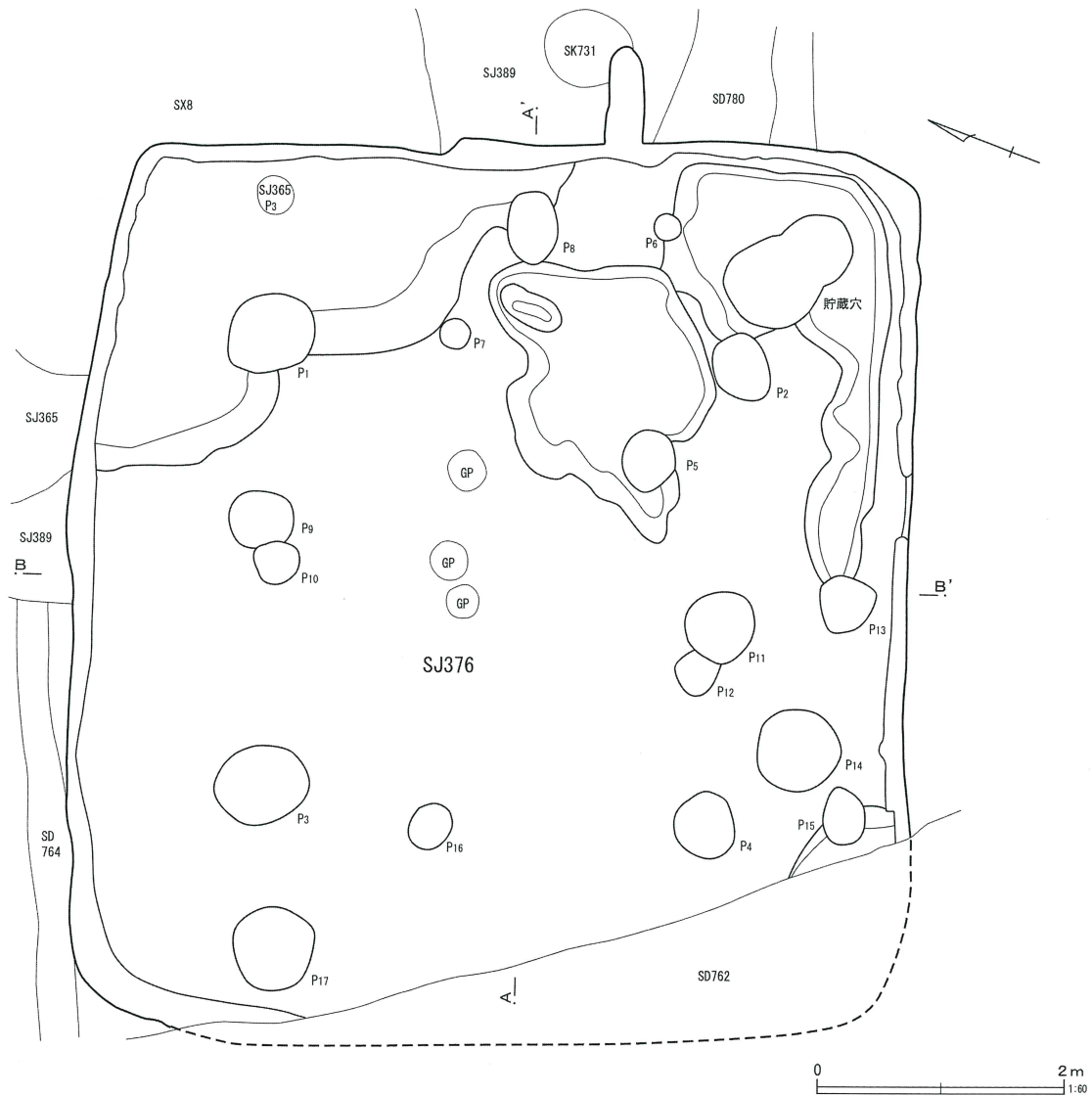
- 46 オリブ黒色土 5Y3/1 灰オリブ地山土 (φ3~20mm) 多量 しまり・粘性あり
- 47 灰オリブ色土 5Y5/3 灰オリブ土を主体 47層土混入 しまり・粘性あり

ビット9

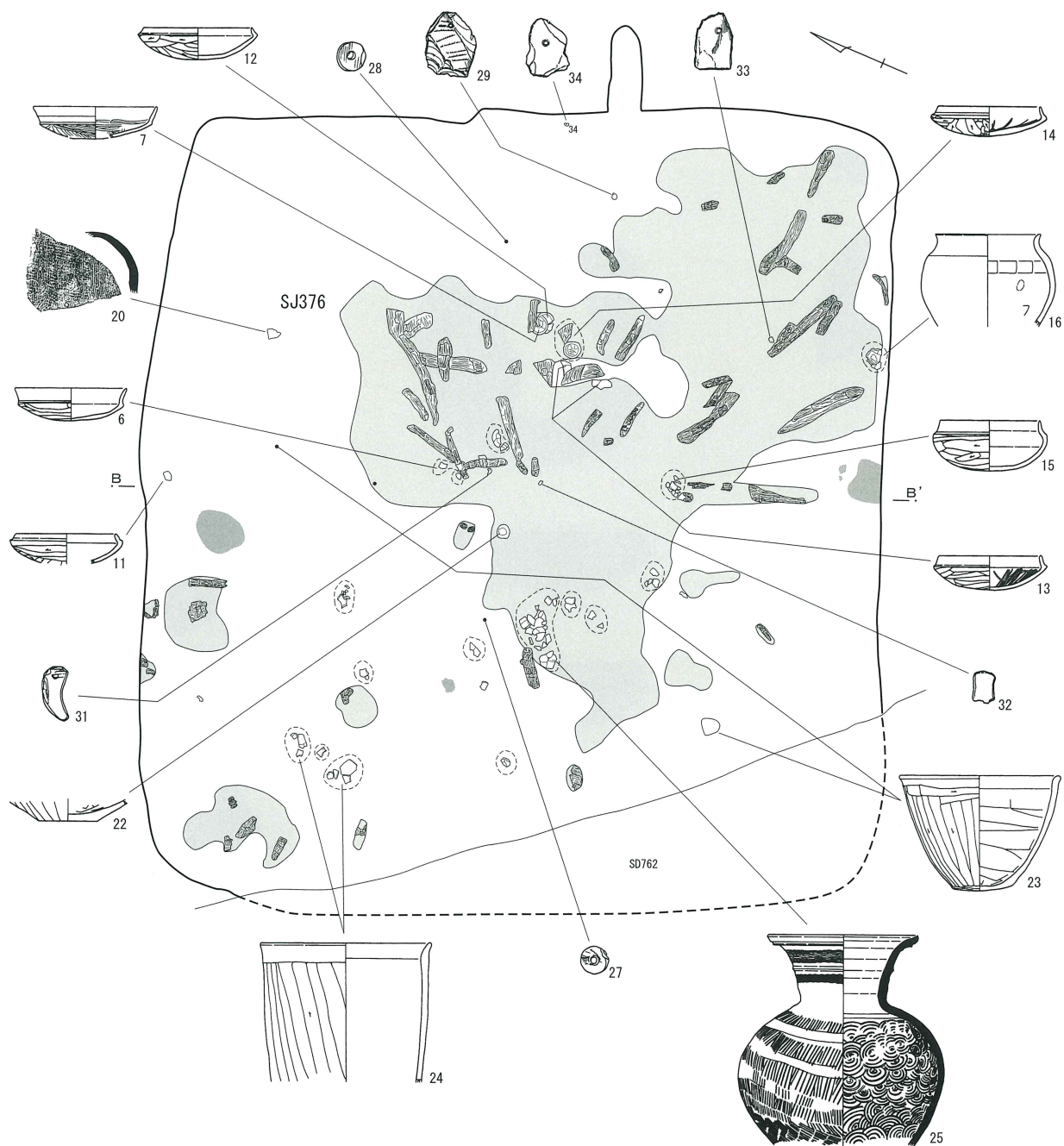
- 48 オリブ褐色土 2.5Y4/3 黄褐色土 (φ5~20mm) ブロック状に多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり

第143図 第376号住居跡 (2)

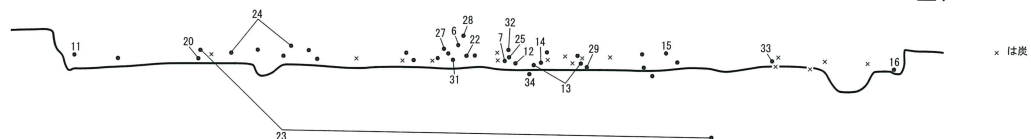
ピット10				
48 黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物ブロック (φ5mm) 微量	しまり・粘性あり
49 暗灰黄色土	2.5Y4/2	黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 多量	炭化物粒子 (φ1mm) 少量	しまり・粘性あり
ピット11				
50 黒褐色土	2.5Y3/1	灰白色土粒子 (φ1~5mm) 微量	焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 微量	しまり・粘性あり
51 黒褐色土	2.5Y3/1	灰白色土 (φ1~10mm) 多量		しまり・粘性あり
52 暗オリーブ褐色土	2.5Y3/3	灰白色土ブロック (φ5~20mm) ブロック状に多量		しまり・粘性あり
ピット12				
53 黒褐色土	2.5Y3/1	灰白色土粒子 (φ1~3mm) 少量	焼土粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり
54 黒褐色土	2.5Y3/2	灰白色土ブロック (φ5~10mm) 多量		しまり・粘性あり
ピット13				
55 黒褐色土	2.5Y3/1	灰オリーブ土粒子 (φ1~5mm) 均等に少量		しまり・粘性あり
56 黒褐色土	2.5Y3/2	灰オリーブ土粒子 (φ5~10mm) 多量		しまり・粘性あり
57 オリーブ褐色土	2.5Y4/3	灰オリーブ土多量		しまり・粘性あり
ピット14				
58 黒褐色土	2.5Y3/2	灰白色土ブロック (φ5~10mm) 多量		しまり・粘性あり
59 黒褐色土	2.5Y3/1	灰白色土粒子 (φ1~3mm) 少量	焼土粒子 (φ1mm)・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり
60 黒褐色土	2.5Y3/2	灰白色土粒子 (φ1~2mm) 少量		しまりあり 粘性強い
61 黒褐色土	2.5Y3/2	灰白色土 (φ1~10mm) 含む		しまり・粘性あり
62 黒褐色土	2.5Y3/1	灰白色土 (φ1~10mm) 含む		しまり・粘性あり
ピット15				
63 黒褐色土	2.5Y3/2	緑灰~灰白土 (φ1~3mm) 均等に少量		しまり・粘性あり
64 暗オリーブ褐色土	2.5Y3/3	緑灰~灰白土 (φ5~10mm) 多量		しまり・粘性あり
ピット16				
65 黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土~緑灰色シルト (φ5~10mm) 斑に含む	炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量	しまり・粘性あり
66 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~30mm) 含む	焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量	しまり・粘性あり
67 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~5mm) 少量	焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 微量	しまりあり 粘性ややあり
ピット17				
68 黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~2mm) 均等に含む		しまりあり 粘性ややあり
69 黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量		しまり・粘性あり
70 黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~5mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量	しまり・粘性あり
71 黒褐色土	2.5Y3/1	炭化物粒子 (φ1~5mm) 極多量	焼土粒子 (φ1~5mm) 少量	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~2mm) 微量
72 黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土~緑灰色シルト (φ1~3mm) 少量	焼土 (φ1mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり



第144図 第376号住居跡 (3)

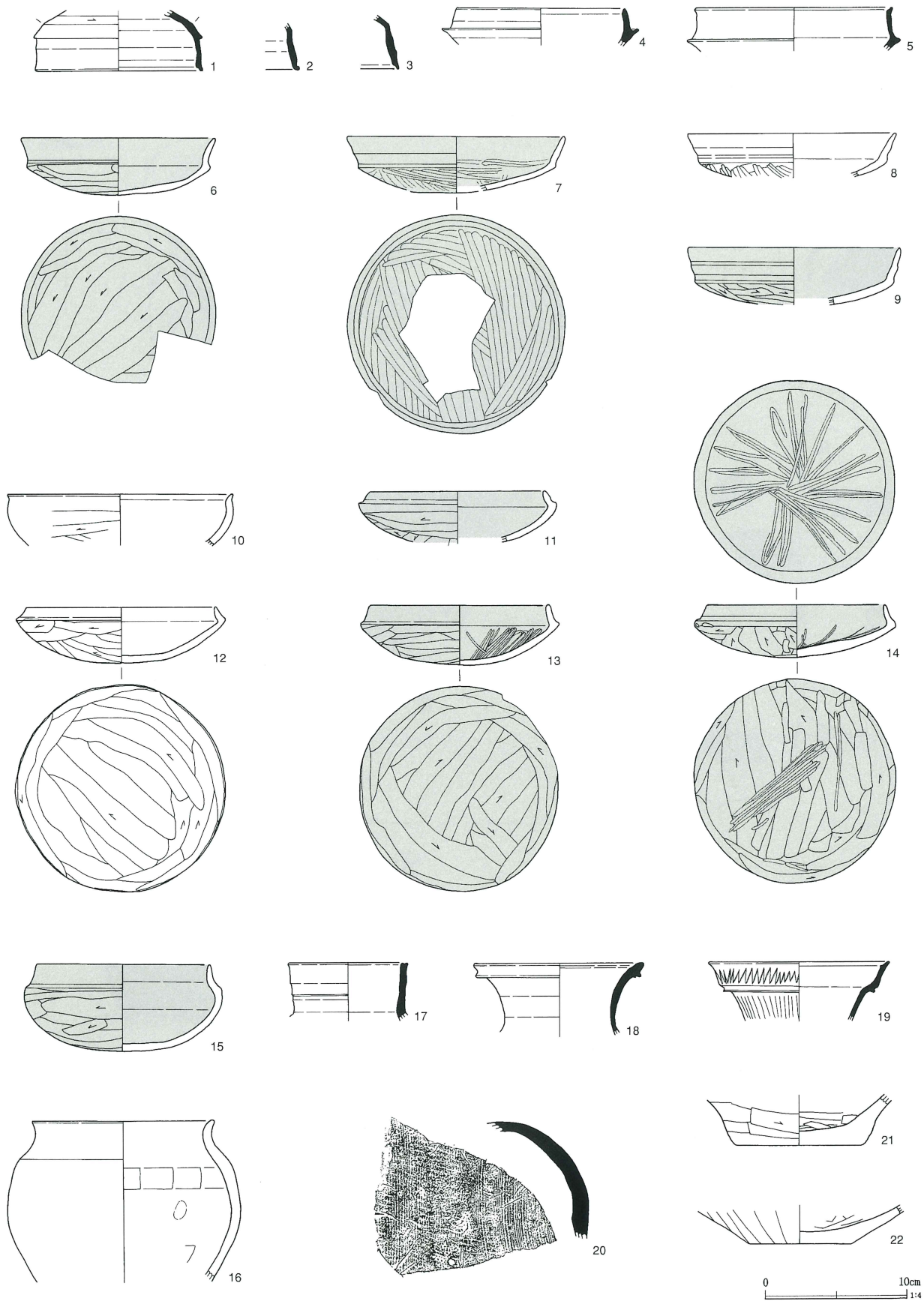


B 16.8m

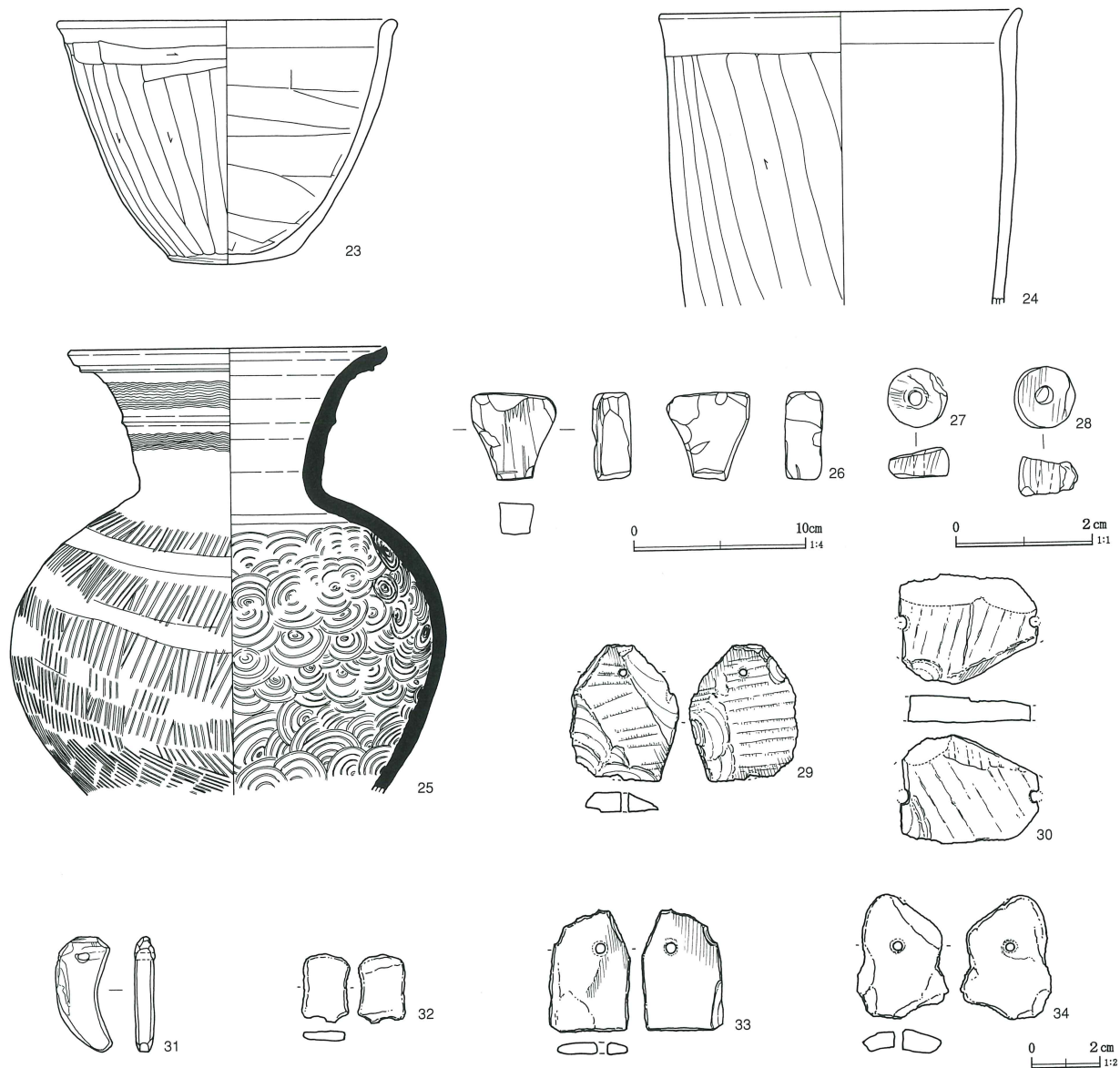


0 2m 1:60

第145图 第376号住居跡遺物出土状況



第146图 第376号住居跡出土遺物 (1)



第147図 第376号住居跡出土遺物 (2)

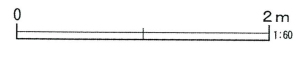
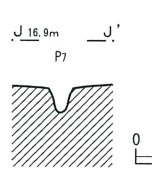
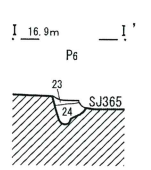
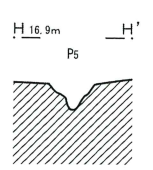
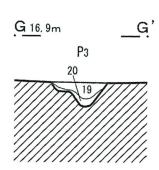
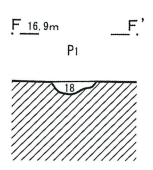
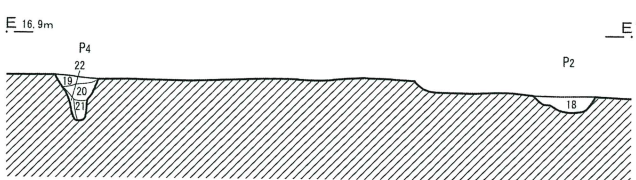
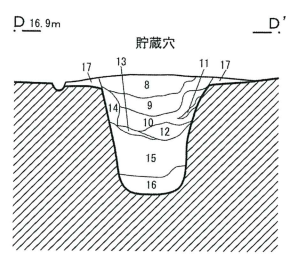
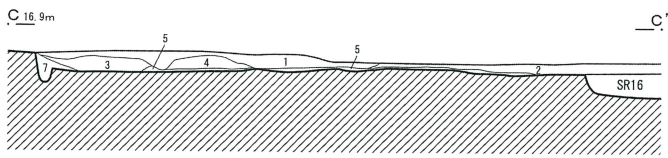
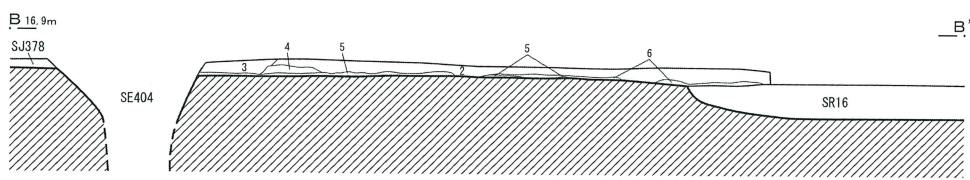
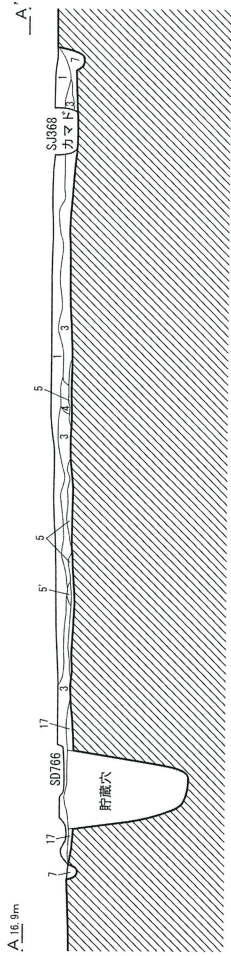
縁部に波状文が施文される。末野産で、甗である可能性も考えられる。23は、土師器の鉢である。24は土師器の甗で、直線的に胴部へと至る。25は須恵器の壺で、頸部に波状文が二段巡る。胴部外面は平行タタキ、内面は青海波文が認められる。26は、小型の砥石である。27・28は、滑石製の白玉である。29～34は、石製模造品である。29は剣形、30は有孔円板である。31は、定形化した形状をしておらず、牙形に近い形態をした勾玉形である。32～34は、何れも穿孔が認められるもので、形態は不明である。未製品である可能性もある。

第377号住居跡 (第148・149図)

M・N-34・35グリッドで検出された。第16号方形周溝墓、第346・365・368・378・385・389号住居跡、第404号井戸跡、第715・751号土坑、第729・764・766号溝跡と重複していた。新旧関係は、第16号方形周溝墓、第378・385号住居跡より新しく、第346・365・368号住居跡、第404号井戸跡、第715号土坑、第729・764・766号溝跡より古かった。

規模は、南北6.5m、東西6.0m、深さが0.01～0.16mで、平面形態はやや南北が長い正方形をしていた。主軸方位は、N-16°-Wであった。

覆土は、7層からなる自然堆積であった。床面に



第148図 第377号住居跡 (1)

第377号住居跡

1 褐灰色土	10YR4/1	暗灰色のしまりある土 灰色シルト質土ブロック (φ3~5mm) 斑に含む しまりあり 粘性なし
2 黒褐色土	10YR3/1	黒褐色しまりある土主体 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 含む 焼土ブロック (φ5mm) 微量 しまりあり 粘性なし
3 褐灰色土	10YR4/1	褐灰色のしまりある土 灰色土ブロック (φ10~30mm) 中~多量 灰色シルト少~中量 炭化物ブロック (φ30mm)・焼土ブロック (φ30mm) 微量 しまりあり 粘性なし
4 褐灰色土	10YR4/1	暗灰色のやや粘性のある土主体 褐灰色シルトブロック (φ10mm) 斑に含む しまりあり 粘性ややあり
5 黒褐色土	10YR3/1	黒褐色のしまりある土主体 黒色炭化物層が帯状に入る 黄褐色土ブロック (φ10mm) 斑に含む 焼土粒子 (φ3mm)・暗茶褐色土 少量 しまりあり 粘性なし
5' 5層中に焼土ブロック (φ5mm) 多量		
6 黄褐色土	2.5Y5/2	黄褐色のシルト質土主体 1層の土がマーブル状に少量混入 しまり・粘性なし
7 褐灰色土	10YR4/1	暗灰色のしまりある土 灰色土粒子 (φ1~3mm) 多量 炭化物ブロック (φ5mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり
貯蔵穴		
8 にぶい黄褐色土	10YR5/4	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に含む しまりあり 粘性ややあり
9 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性あり
10 褐灰色土	10YR4/1	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量 しまり・粘性あり
11 黒褐色土	10YR3/1	炭化物 (φ1~10mm) 多量 しまり弱い 粘性あり
12 暗灰色土	N3/0	粘質土 黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 微量 しまりあり 粘性強い
13 炭化物の純層		
14 暗灰色土	N3/0	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 含む しまり・粘性あり
15 オリーブ黒色土	7.5Y3/1	粘質土 緑灰色土ブロック (φ5~20mm) 均等に多量 しまりあり 粘性強い
16 緑黒色土	7.5GY2/1	粘質土 炭化物粒子 (φ1~5mm) 層状に含む しまりあり 粘性強い
17 黒褐色土	7.5Y3/2	焼土粒子 (φ1~5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 含む 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
ピット1~4		
18 褐灰色土	10YR4/1	暗灰色粘質土 黄褐色土ブロック (φ10mm) 斑に含む しまりあり 粘性ややあり ※P4は黄褐色土ブロック 層上部と底に斑に少量含む+炭化物の薄い層を層下部に帯状に含む
19 灰黄色土	2.5Y5/2	灰黄色のしまりある土 暗灰色粘土少量 しまりあり 粘性ややあり
20 暗灰黄色土	2.5Y4/2	暗灰黄色の粘質土 焼土粒子 (φ2~5mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 微量 しまりややあり 粘性あり ※P3は全体的にP4より暗めの暗灰黄色土主体 P1は上記黄褐色土ローム粒子 (φ3mm) 含む
21 暗灰色土	2.5Y4/1	暗灰色粘質土・暗灰色シルト多量 しまりなし 粘性強い
22 黄灰色土	2.5Y5/1	灰色シルト主体 灰色粘土少量 しまり・粘性ややあり
ピット6		
23 褐灰色土	10YR4/1	黒っぽい暗灰色の粘性のややある土 焼土粒子 (φ2mm) 斑に含む しまりあり 粘性ややあり
24 褐灰色土	10YR4/1	暗灰色の粘性のややある土 黄褐色土ブロック (φ10mm) 含む 焼土ブロック (φ5mm)・炭化物ブロック (φ5mm) 少量

第149図 第377号住居跡 (2)

は、炭化物層 (5層) が薄く広がっていた。炭化物層には、焼土ブロックを多量に含む層 (5'層) も部分的に検出された。

カマドは、遺構の重複が著しく、本遺跡で多くみられる北壁部分は第368号住居跡に大きく壊されていたため、検出することができなかった。

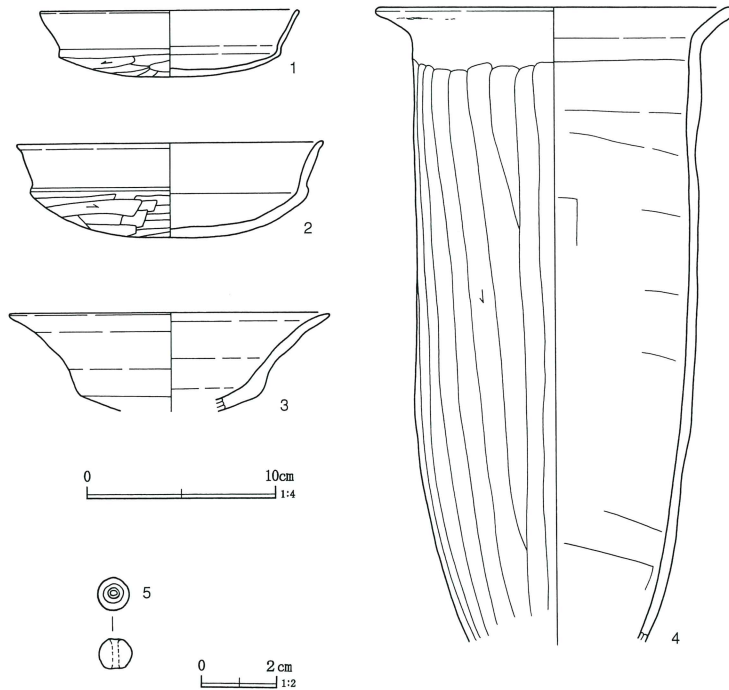
壁溝は、壁が残存している範囲についてはほぼ全周していた。規模は、幅6~21cm、深さが3~11cmであった。

貯蔵穴は、南西コーナー部で検出された。規模は、長軸106cm、短軸76cm、深さが98cmで、平面形態は東西に長い楕円形をしていた。貯蔵穴の中位では、薄い炭化物の純層 (13層) が検出された。

ピットは7本を検出した。P1・4・6は、配置だけを見ると支柱穴と考えられるが、3本とも小規模で、掘り込みも浅いことから、柱穴である可能性は低い。他のピットも同様のことがいえる。各ピットの規模は、P1が37×11cm、P2が56×13cm、P3が46×25cm、P4が41×39cm、P5が38×21cm、P6が29×24cm、P7が19×20cmであった。

遺物は、床面などから多量の古墳時代後期の土師器片が出土したが、接合できた遺物が少なく、図示できた遺物は少なかった。

第150図1・2は、土師器の模倣坏である。3は、土師器の高坏坏部片である。4は、東壁中央部の床面直上から出土した土師器の長甕である。5は、幅0.8cmの小型の土玉である。



第150図 第377号住居跡出土遺物

第378号住居跡 (第151図)

M-34・35グリッドにかけて検出された。第377・385号住居跡、第404号井戸跡、第750号土坑、第762号溝跡と重複していた。新旧関係は、第385号住居跡より新しく、第377号住居跡、第404号井戸跡、第762号溝跡より古かった。北側で重複していた第750号土坑との関係は不明である。

規模は、南北4.0m、東西1.6m以上、深さが0.03～

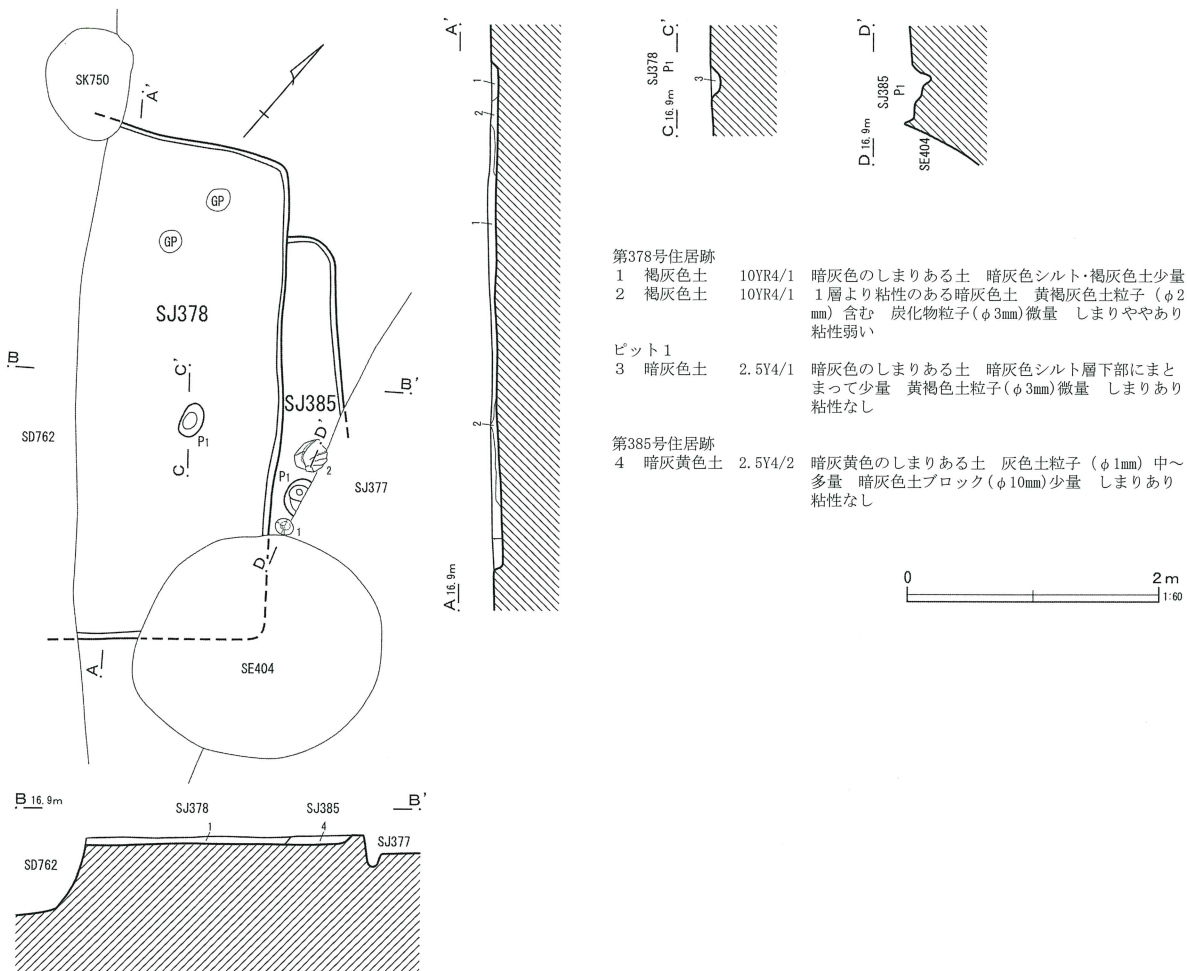
0.07mで、平面形態は不明であった。主軸方位は、N-38°-Wであった。

覆土は、2層からなる自然堆積であった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

ピットは浅い小規模なものを検出した。規模は、27×8cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器甕片などが少量出土したが、図示できるものがなかった。



第151図 第378・385号住居跡

第379号住居跡 (第139図)

P-35グリッドで検出された。東側の大半が調査区域外に大きく延びていたため、全体を調査することができなかった。第17号方形周溝墓、第373・374号住居跡と重複していた。新旧関係は、第17号方形周溝墓より新しく、第374号住居跡より古かった。第373号住居跡との関係は不明である。

調査できたのは、住居跡の北西コーナー部分にあたる範囲のみで、大部分が未調査であるため、本遺構は住居跡ではない可能性もある。

検出できた範囲は、南北2.1m、東西0.9m、深さが0.03mであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器坏、甕片などが少量出土しているが、図示できるものがなかった。

第380号住居跡 (第152図)

M-35・36グリッドにかけて検出された。第381・382・383・387号住居跡、第755号土坑、第764号溝跡と重複していた。新旧関係は、第387号住居跡より新しく、第381・383号住居跡、第755号土坑、第764号溝跡より古かった。

規模は、南北5.1m、東西4.8m、深さが0.18mで、平面形態はほぼ正方形をしていた。主軸方位は、N-6°-Wであった。

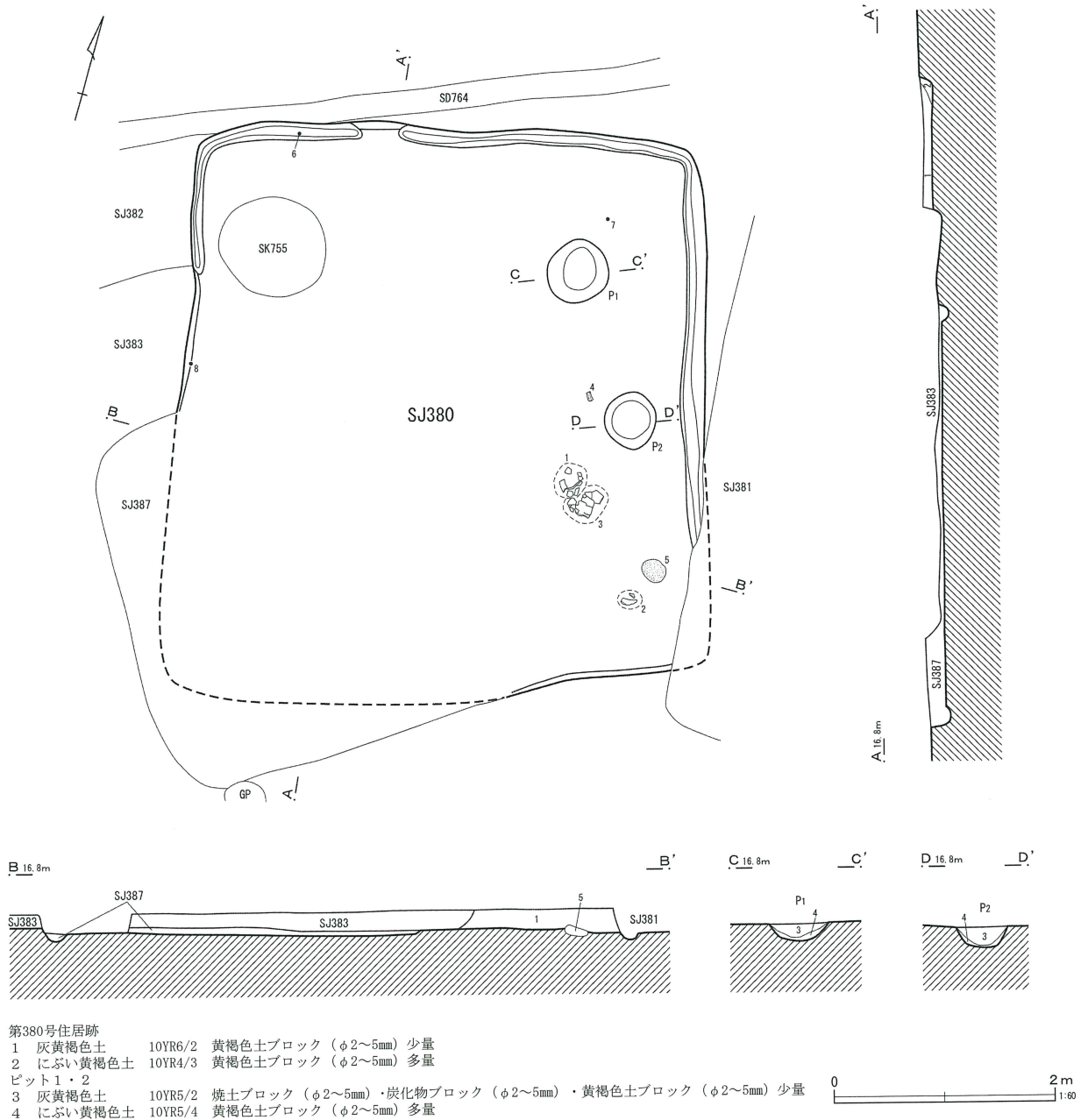
カマドは検出することができなかった。

壁溝は、北壁から東壁にかけて部分的に巡り、幅9~23cm、深さが3~9cmであった。

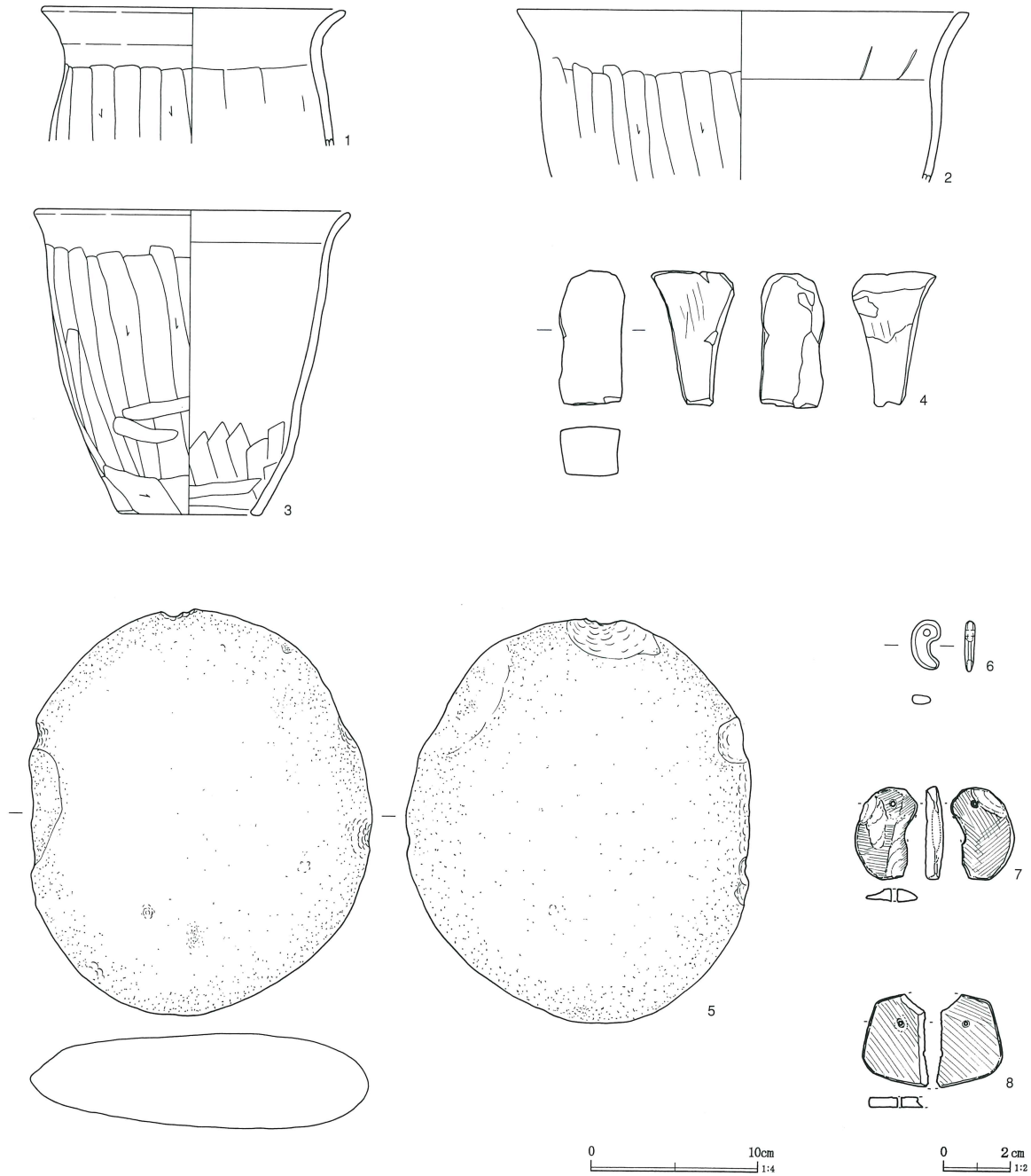
ピットは2本を検出した。規模は、P1が58×17cm、P2が52×17cmであった。

遺物は、床面直上から土師器甕、甑や石製模造品、台石などの石製品などが少量出土している。

第153図6は、完形の石製勾玉である。7・8は、滑石製の模造品である。



第152図 第380号住居跡



第153図 第380号住居跡出土遺物

第381号住居跡 (第154図)

M-35・36グリッドにかけて検出された。南側は谷部へと至るため、標高がやや低くなった地点に位置していた。そのため、南壁部分の平面プランが明瞭ではなかった。住居跡の東側は第762号溝跡と、西側は第380号住居跡と重複していた。新旧関係は、第380号住居跡より新しく、第762号溝跡より古かった。

規模は、南北6.2m、東西5.1m、深さが0.14mであ

った。平面形態は、全体が検出できなかったため不明ではあるが、第762号溝跡の東側で延長部分が検出できなかったことから、南北に長い長方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-5°-Wであった。

覆土は、5層からなる自然堆積であった。住居跡南東部の床面には、厚さ2~3mmの薄い炭化物層が広がっていた。

カマドは検出することができなかった。



第381号住居跡

- | | |
|------------|----------------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 2. 5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量 下層に厚さ2~3mmの炭化物層 |
| 3 褐色土 | 10YR4/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| 4 黄褐色土 | 10YR5/6 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| 5 黒褐色土 | 10YR2/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| ビット1・2 | |
| 6 黒褐色土 | 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・黄褐色土ブロック (φ3mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 7 暗褐色土 | 10YR3/3 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| 8 黒色土 | 5Y2/1 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 |
| ビット3 | |
| 9 黒色土 | 10YR2/1 焼土粒子 (φ2~5mm) ・炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 10 にぶい黄褐色土 | 10YR6/4 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 |
| ビット4 | |
| 11 黒色土 | 10YR2/1 焼土粒子 (φ2~5mm) ・炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 黄褐色土 (φ2~10mm) 少量 |
| 12 褐色土 | 10YR4/1 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 |
| 13 暗緑灰色土 | 10GY4/1 緑灰色土ブロック (φ2~5mm) 多量 |
| ビット5 | |
| 14 黒褐色土 | 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) ・焼土ブロック (φ2~5mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 15 黒色土 | 10YR2/1 焼土ブロック (φ2~3mm) 炭化物 (φ2~3mm) 多量 |

0 2m
1:60

第154図 第381号住居跡

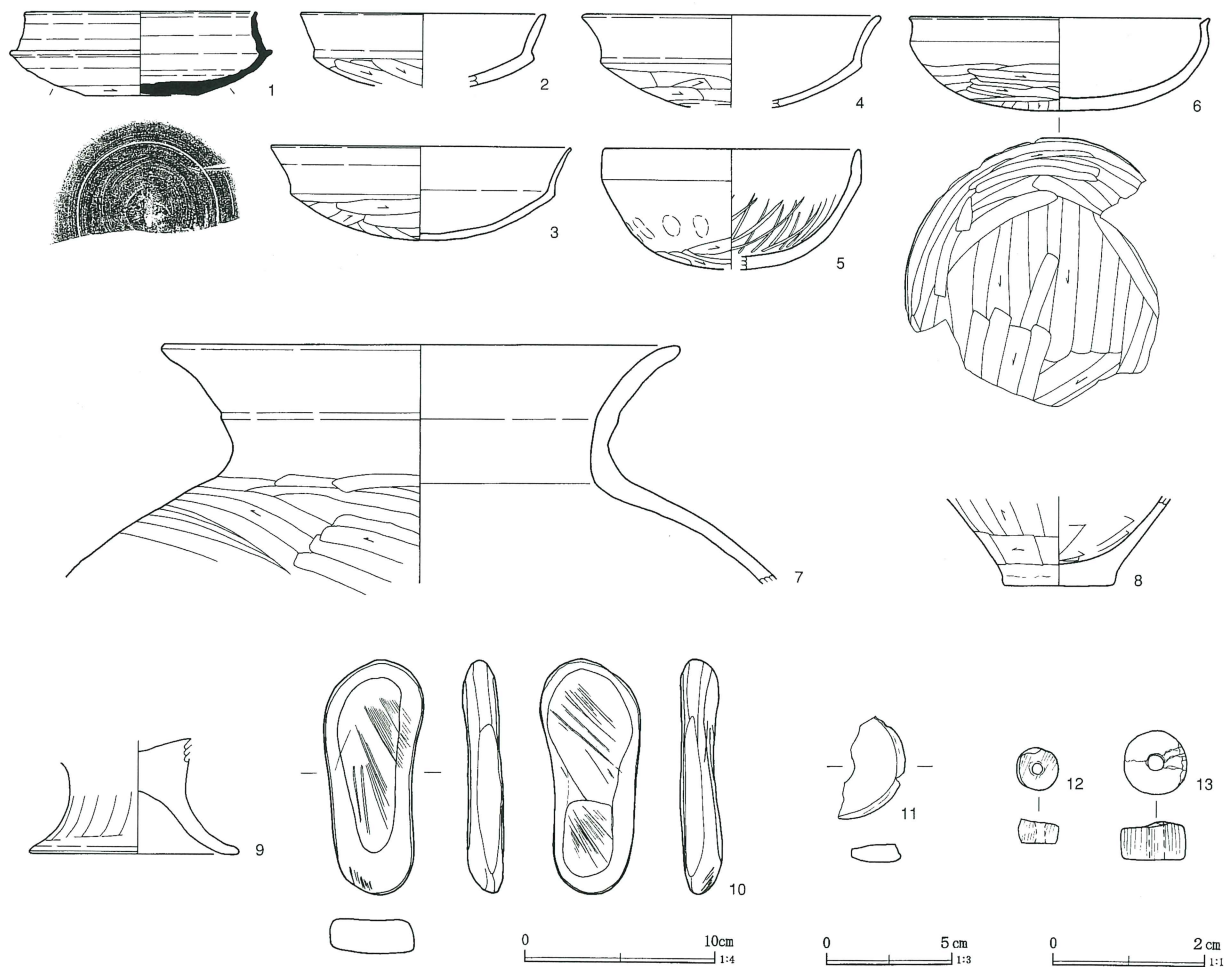
壁溝は全周しておらず、南壁から西壁にかけて部分的に巡っていた。規模は、幅12~25cm、深さが2~6cmであった。

ピットは5本を検出した。柱材の痕跡は確認できなかったが、配置からP1・2が支柱穴である可能性が高い。東側は第762号溝跡に壊されていたため、検出することができなかった。各柱穴の規模は、P1が55×35cm、P2が70×45cmで、平面形態は円形をしていた。その他のピットは、深さも浅く、性格は不明である。規模は、P3が36×13cm、P4が27×30cm、P5が36×11cmであった。P5の下層には、焼土ブロック、炭化物を多量に含んだ黒色土が堆積していた。

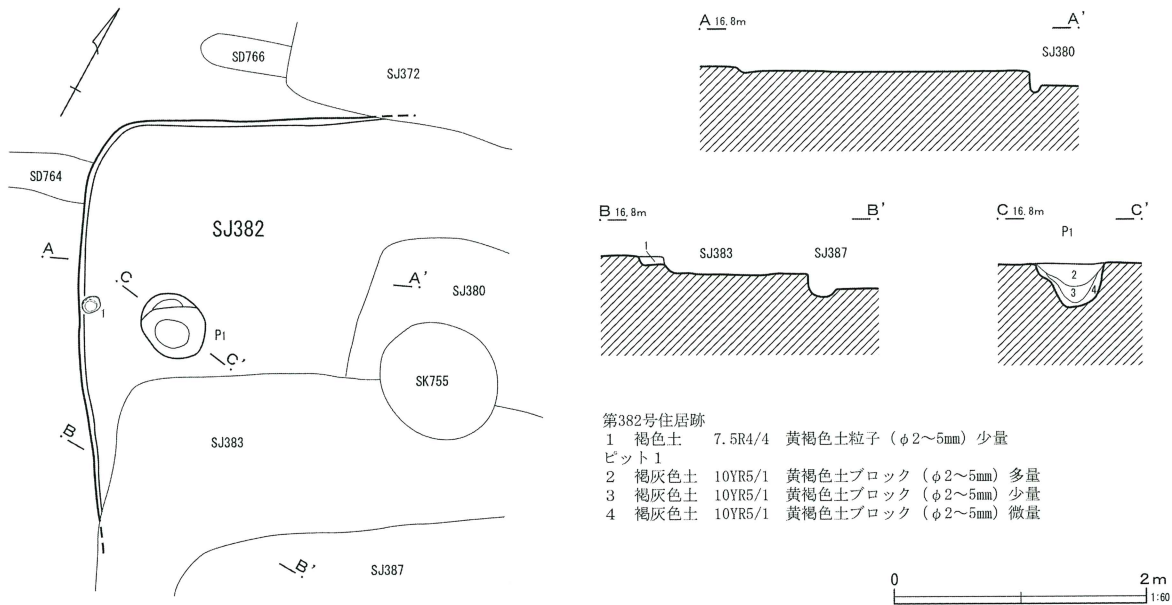
遺物は、床面からやや浮いた高さから古墳時代後期の須恵器坏身、土師器坏、高坏、甕片などが多量

に出土している。南壁寄りからは、白玉、砥石といった石製品が出土している。

第155図1は、須恵器の坏身である。底部は回転ヘラケズリが施され、やや平底状に作られている。2~6は土師器の坏で、2~4が模倣坏、6が比企型坏である。5は、内面に暗文状のヘラミガキが施される。外面には指頭圧痕が部分的に認められる。6は、口縁部外面から内面にかけて赤彩される。7は土師器の大型壺で、口縁部外面の中位に弱い段をもつ。8は、土師器甕の底部片である。9は、土師器高坏の脚部である。10は砥石で、表裏2面ともに無数の擦痕が認められる。11は石製の紡錘車で、大半が欠損している。12・13は、南壁際で出土した滑石製の白玉である。



第155図 第381号住居跡出土遺物



第156図 第382号住居跡

第382号住居跡 (第156図)

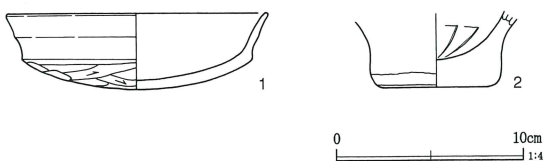
L-35・36、M-35グリッドにかけて検出された。第372・380・383・387号住居跡、第755号土坑、第764号溝跡と重複していた。新旧関係は、第372・383号住居跡、第755号土坑、第764号溝跡より新しく、第380・387号住居跡との関係は不明である。東側は平面プランがはっきりせず、壁を検出することができなかったため、検出できたのは北西コーナー部分のみであった。

規模は、南北3.1m、東西2.3m以上、深さが0.04~0.06mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-30°-Wであった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

ピットは西壁寄りて1本を検出した。規模は、54×35cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器有段口縁坏、甕底部片など少量出土している。



第157図 第382号住居跡出土遺物

第383号住居跡 (第158図)

L・M-35・36グリッドにかけて検出された。第380・382・387号住居跡、第755号土坑と重複していた。新旧関係は、第380・382・387号住居跡より新しく、第755号土坑より古かった。住居跡が複数重複していたため、本住居跡を認識できず、大半の壁面を掘り下げてしまった。住居跡の範囲は、後から土層断面で確認した。

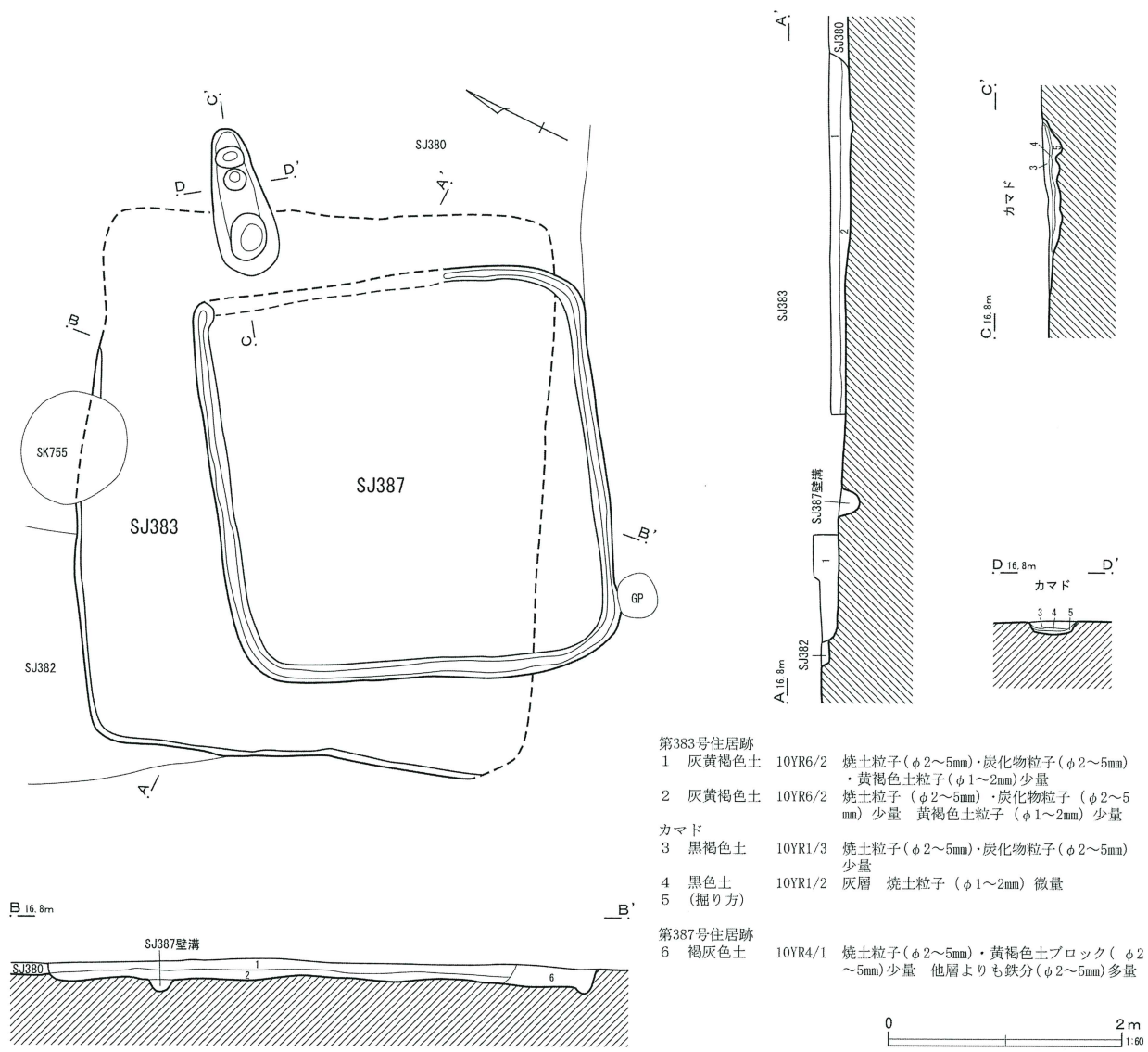
規模は、南北4.0m、東西4.8m、深さが0.10mで、平面形態は東西に長い長方形をしていた。主軸方位は、N-50°-Eであった。

カマドは、住居跡東壁の北寄りて検出された。遺構確認時にカマドを検出できず掘り下げてしまったため、袖を残すことができなかった。燃烧部は、東西128cm、南北51cm、深さが16cmであった。底面には、薄い灰層を検出した。

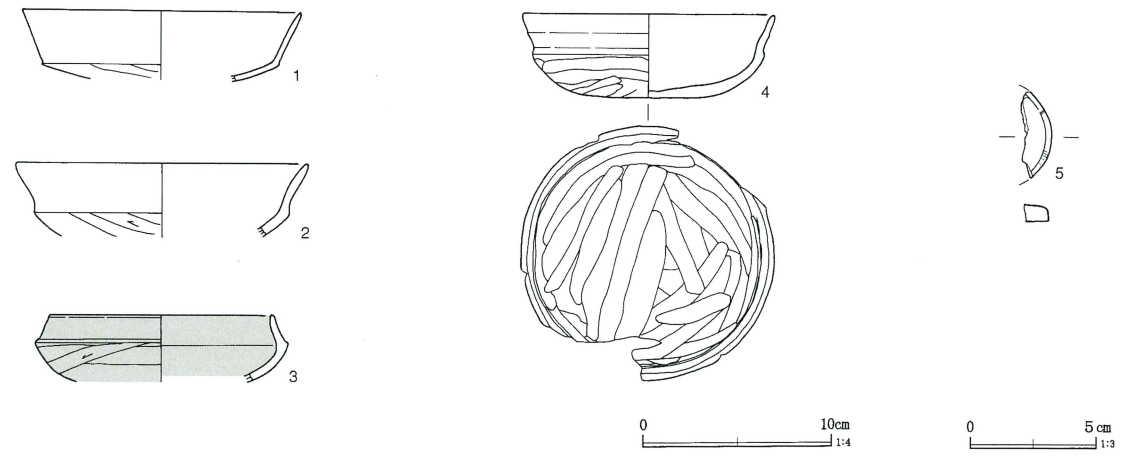
壁溝、柱穴は検出できなかった。

遺物は、古墳時代後期の須恵器、土師器片が多量に出土している。

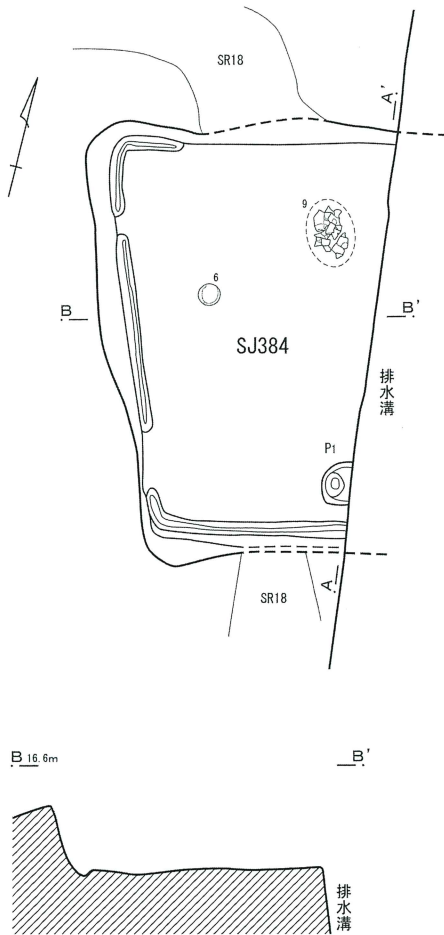
第159図1~4は、土師器の坏である。3は身模倣坏で、黒色処理が施される。5は、大半を欠損する石製の紡錘車である。



第158図 第383・387号住居跡

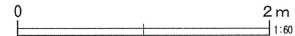


第159図 第383号住居跡出土遺物



第384号住居跡

- | | | | | |
|----|--------------|---------|--------------------------------------|----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ10mm) 少量 | しまりあり 粘性なし |
| 1' | 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 1層と同じで黄褐色土粒子含まず | しまりあり 粘性なし |
| 2 | 暗灰色土 | 2.5Y4/2 | 主体となる土は1層と同じ 黄褐色土ブロック (φ5~15mm) 少~中量 | しまりあり 粘性ややあり |
| 3 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色粘質土でしまりある土主体 淡緑灰色土 (シルト質) 微量 | しまりあり 粘性ややあり |
| 3' | 3層+炭化物を帯状に含む | | | |
| 4 | 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 淡緑灰色土主体 暗灰色粘土少量 | しまりあり 粘性ややあり |
| 5 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色粘質土でしまりある土主体 淡緑灰色土 (シルト質) 少量 | 灰色シルト少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 6 | 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 暗灰色粘土・淡緑灰色土多量 | しまりややあり 粘性あり |
| 7 | 暗灰色土 | N3/1 | 暗灰色粘土主体 淡緑灰色土少量 | しまりなし 粘性あり |
| 8 | 暗灰色土 | N3/1 | しまりのあまりみられない暗灰色粘土層 | しまりなし 粘性あり |
| 8' | 8層+炭化物を帯状に含む | | | |
| 9 | 暗緑灰色土 | 5G4/1 | 暗灰色土主体 淡緑灰色土少~中量 | しまりややあり 粘性あり |
| 10 | 暗灰色土 | N3/1 | | |



第160図 第384号住居跡

第384号住居跡 (第160図)

P-35グリッドの谷部への落ち際に検出された。東側は調査区域外に延びていたため、全体を調査することができなかった。第18号方形周溝墓の東溝を壊して構築されていた。

規模は、南北3.5m、東西2.5m以上、深さが0.47~0.53mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-19°-Wであった。

覆土は、10層からなる自然堆積であった。

カマドは検出できなかった。

壁溝は、北壁を除く範囲に部分的に巡り、幅9~13cm、深さが2~4cmであった。

ピットは1本を検出した。規模が34×24cmで、性格は不明である。

遺物は、古墳時代後期の土師器模倣坏、甕片などが多量出土している。

第161図1~6は、土師器の模倣坏である。6は、内面に赤彩が施される。8は土師器の鉢で、口縁部が赤彩される。9は、土師器の甕である。10は、滑石製の剣形模造品である。

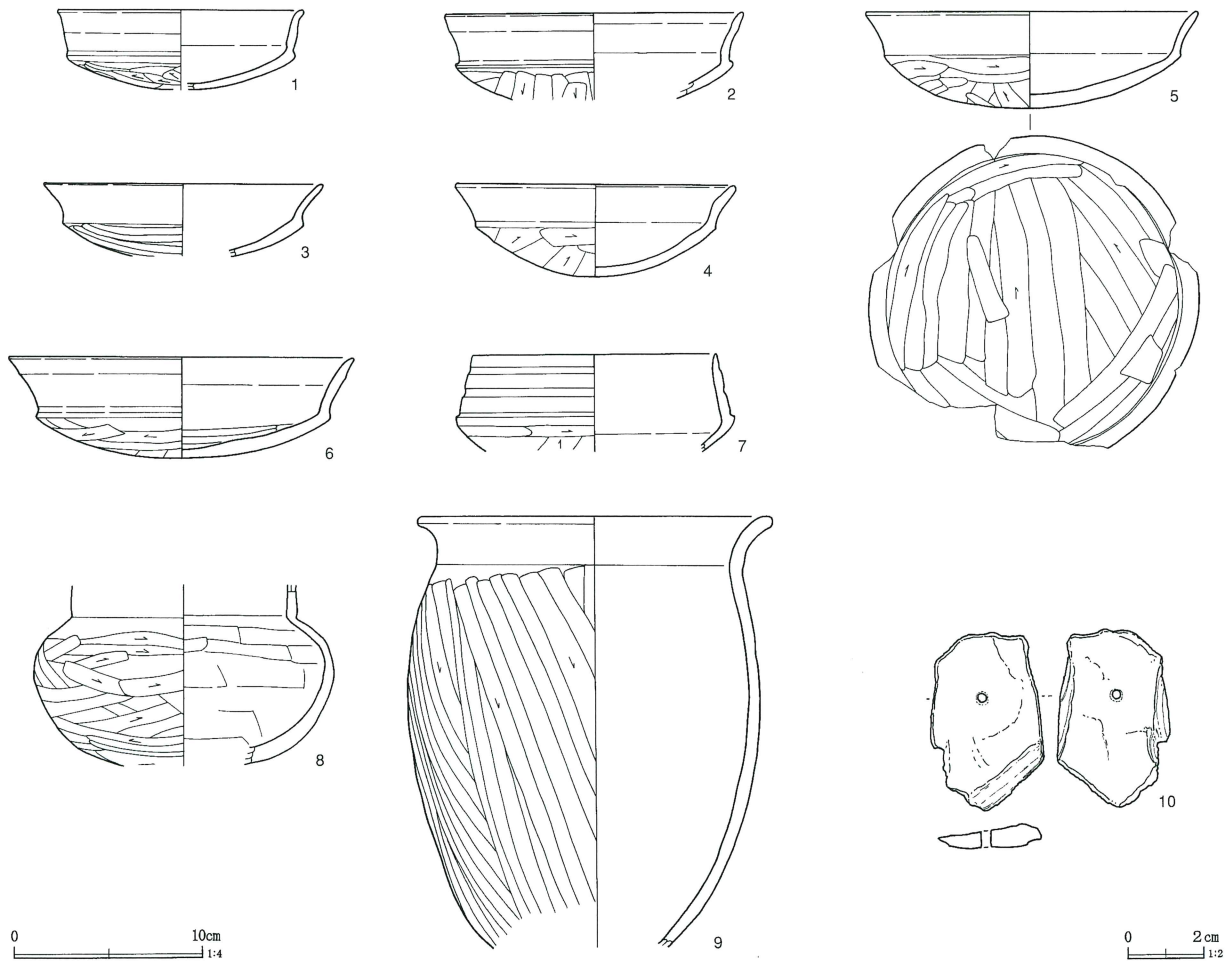
第385号住居跡 (第151図)

M-34・35グリッドにかけて検出された。第377・378号住居跡、第404号井戸跡と重複しており、本遺構が一番古かった。

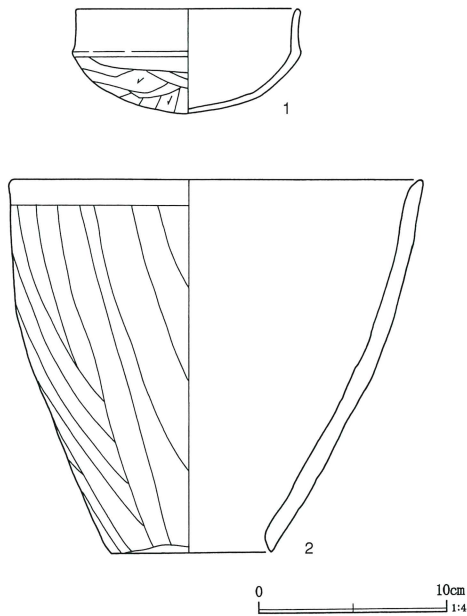
検出された範囲は、南北2.3m、東西0.5m、深さが0.02~0.04mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-44°-Wであった。

ピットは東壁寄り1本を検出した。規模は、30×13cmであった。

遺物は、第162図1の土師器模倣坏、2の甕が床面直上から出土している。



第161図 第384号住居跡出土遺物



第162図 第385号住居跡出土遺物

第386号住居跡 (第163図)

K-36グリッドで検出された。西側は調査区域外

に大きく延びていたため、全体を調査することができなかった。また、調査開始前に掘削した排水溝により壊されていた。調査できたのは東壁の一部と貯蔵穴のみで、覆土がほとんど残存しておらず、全体の形態も不明である。

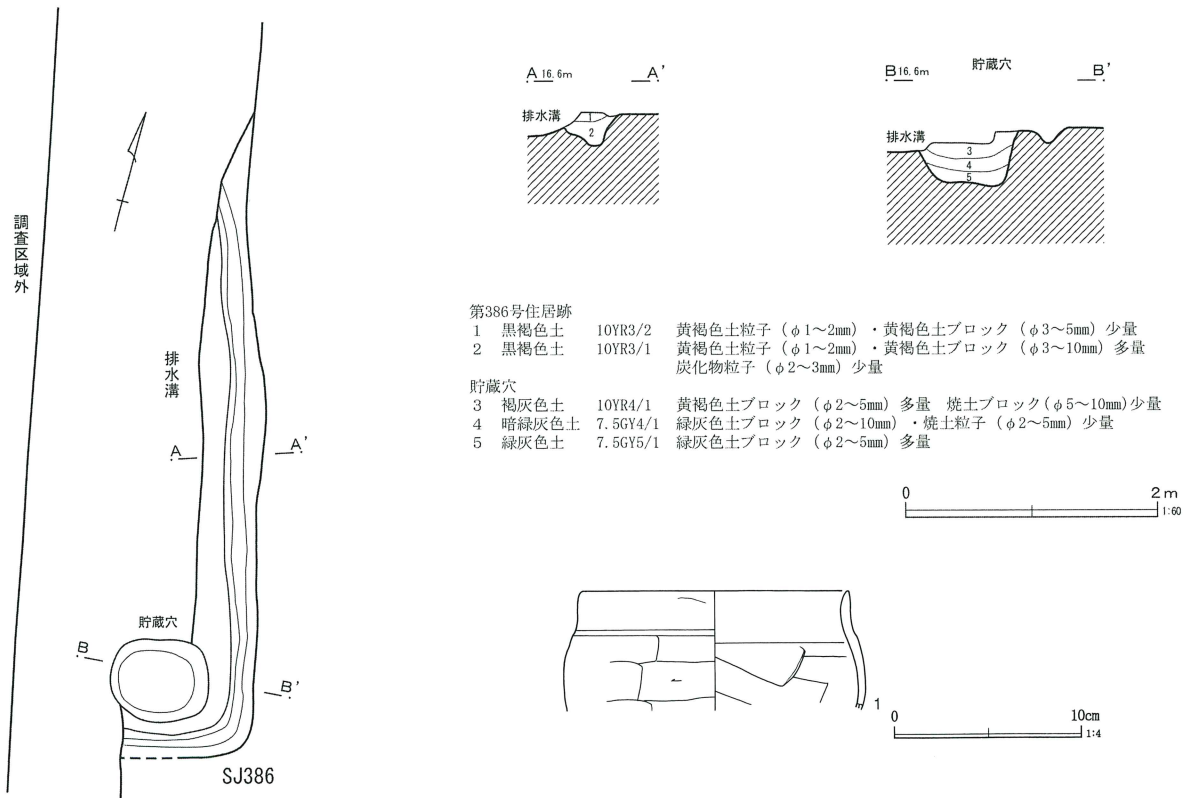
検出された範囲は、南北4.5m、東西1.0m、深さが0.05~0.13mであった。主軸方位は、N-15°-Wであった。

カマドは検出できなかった。

壁溝は、検出した範囲では全周しており、幅20~32cm、深さが2~10cmであった。

貯蔵穴は、南東コーナー部で検出された。規模は、長軸77cm、短軸65cm、深さが42cmで、平面形態は東西に長い楕円形をしていた。

遺物は、第163図1の土師器鉢の他に甕の破片などが少量出土している。



第163図 第386号住居跡・出土遺物

第387号住居跡 (第158図)

M-35・36グリッドにかけて検出された。第380・383号住居跡と重複しており、本遺構の方が古かった。

規模は、南北3.4m、東西3.5m、深さが0.09mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-56°-Eであった。

カマドは検出できなかったが、壁溝が東壁の中央部分で検出できなかったことから、東壁に設置されていた可能性が考えられる。

壁溝は、東壁を除く範囲に全周しており、幅9~18cm、深さが2~10cmであった。

遺物は、本遺構に伴うと考えられるものが出土しなかった。

第388号住居跡 (第165図)

L-36グリッドで検出された。第745・760・783号溝跡と重複し、遺構の大半を壊されていたため、残りが悪かった。新旧関係は、第745・760号溝跡より古く、第783号溝跡との切り合いは不明である。

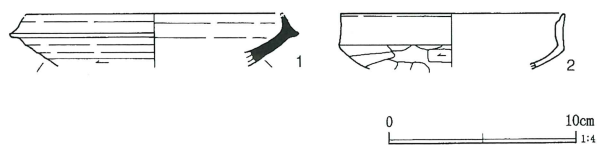
規模は、南北4.3m、東西4.3m、深さが0.24mであった。平面形態はかなり歪みのある不整形をしていて、床面も平坦ではなく、北半に比べ南半部分が低くなっていた。主軸方位は、N-38°-Wであった。

カマドは検出できなかった。

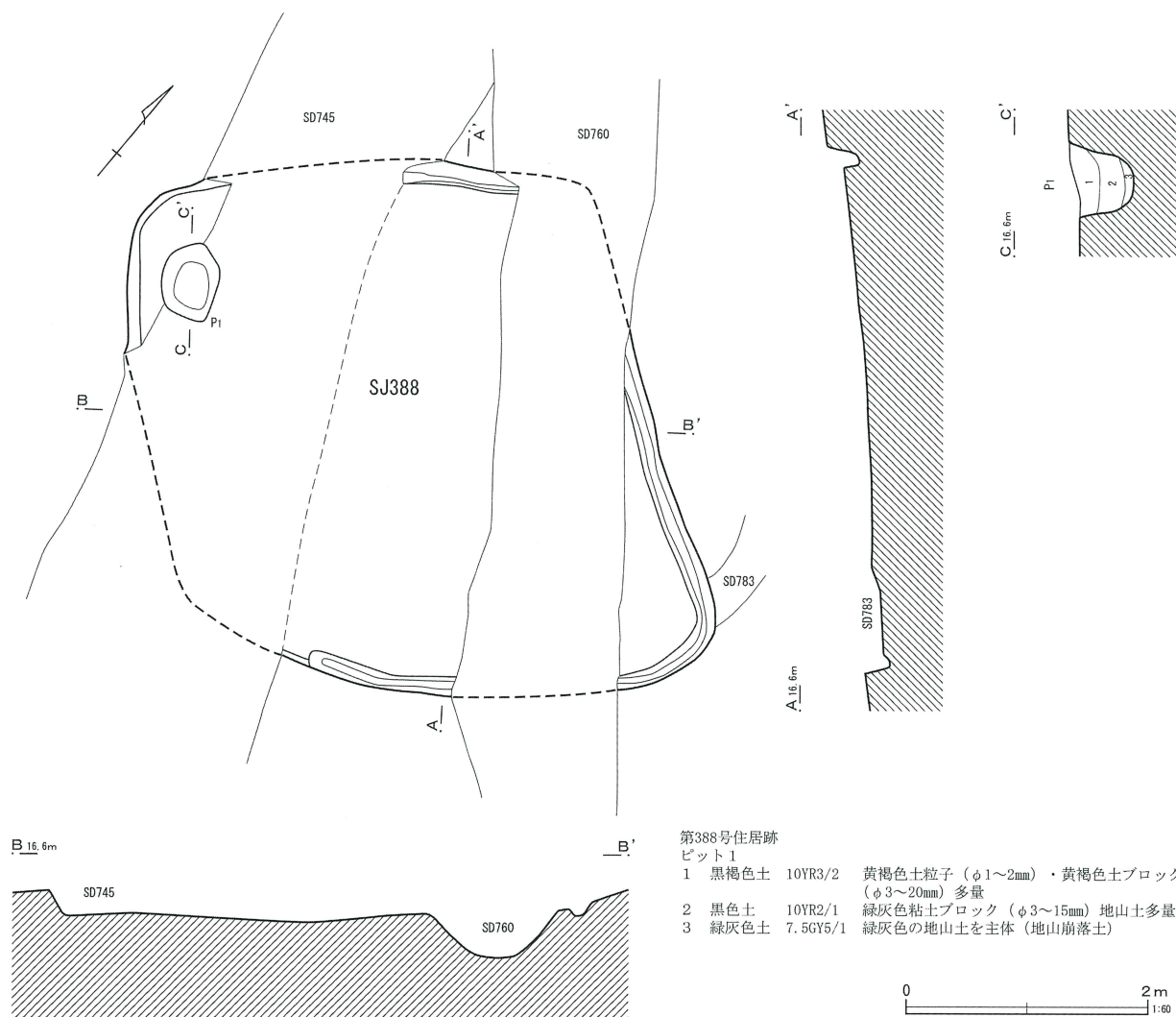
壁溝は、北西コーナー部を除いた範囲に巡っており、幅11~18cm、深さが4~9cmであった。

ピットは壁溝が検出されなかった北西コーナー部で検出された。規模は、63×48cmであった。

第164図1は、須恵器の坏身である。2は土師器の比企型坏で、口縁部外面から内面にかけて赤彩が施される。



第164図 第388号住居跡出土遺物



第165図 第388号住居跡

第389号住居跡 (第166・167図)

N-34・35、O-35グリッドにかけて検出された。第357・365・376・377号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第730・731号土坑、第764・780号溝跡と重複していた。新旧関係は、第365・376号住居跡、第8号竪穴状不明遺構、第730・731号土坑、第764・780号溝跡より本住居跡が古かった。

規模は、南北6.7m、東西6.3m、深さが0.03~0.14mで、平面形態はほぼ正方形に近い形をしていた。主軸方位は、N-72°-Eであった。

カマドは、東壁のやや南寄りで見出された。カマド袖は、黄褐色土を主体にした粘土で構築されていた。燃焼部は、東西83cm、南北50cmで、掘り込みは確認できなかった。燃焼部の中央部には土製支脚が、

浅いピット状の掘り込みの中に据えられていた。

壁溝は、幅8~47cm、深さが14~23cmであった。

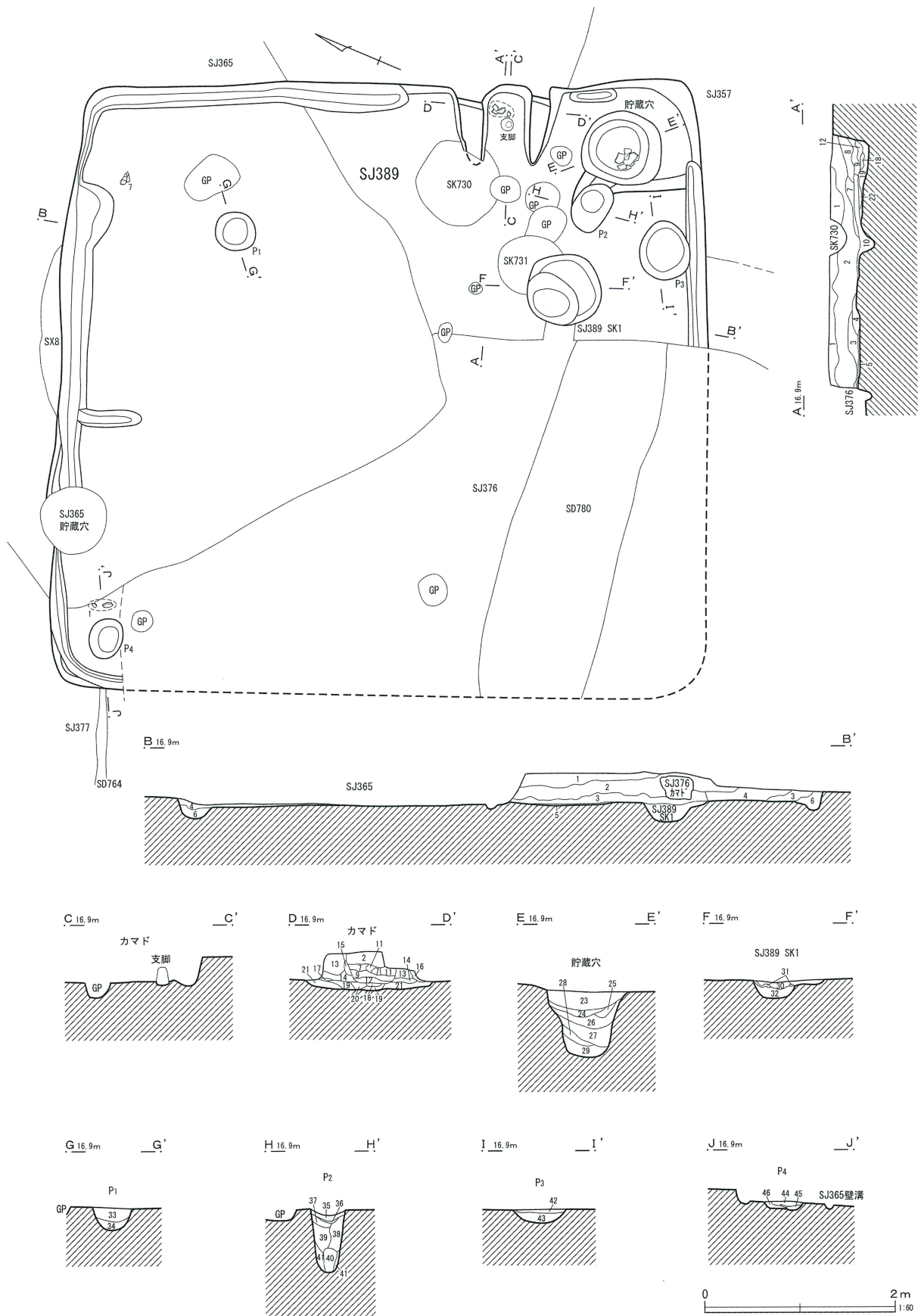
貯蔵穴は、カマド右脇の南東隅で見出された。規模は、長軸85cm、短軸74cm、深さが76cmであった。

カマドの西側では、土坑が1基見出された。規模は、長軸76cm、短軸73cm、深さが21cmであった。

ピットは4本を見出した。各ピットの規模は、P1が41×23cm、P2が53×67cm、P3が61×14cm、P4が44×8cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器片のほかに、前期の吉ヶ谷式の甕片が数点出土している。

第168図1~4は、土師器の坏である。1が黒色処理、4には赤彩が施される。6は、P1から出土した土師器の甕である。

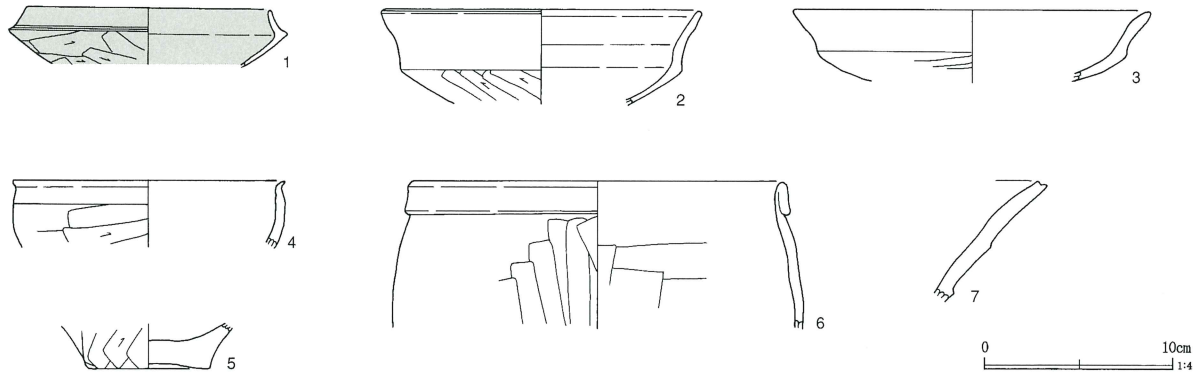


第166図 第389号住居跡 (1)

第389号住居跡

1	オリーブ黒色土	5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり	粘性ややあり
2	オリーブ黒色土	5Y3/2	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に含む 焼土 (φ1~10mm) 微量	しまりあり	粘性ややあり
3	明黄褐色土	2.5Y7/6	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) の堆積を主体	すき間に2層土が充填する	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり
4	黒褐色土	2.5Y7/6	黄褐色土 (φ1~10mm) 少量	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm)	微量 しまり・粘性あり
5	炭化物層	床直の薄い堆積層			
6	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土 (φ1~20mm) 含む	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm)	微量 しまり・粘性あり
カマド					
7	浅黄色土	2.5Y7/4	地山土を主体	焼土粒子 (φ5mm) 微量	炭化物粒子 (φ1~2mm) ・灰少量 しまり・粘性あり
8	オリーブ黒色土	5Y3/2	焼土ブロック (φ5~10mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~5mm) ・灰少量	黄褐色土 (φ1~5mm) ブロック状に含む しまり・粘性あり
9	灰層	焼土粒子 (φ1~5mm) 少量	1層土少量	しまり・粘性なし	
10	炭化物層	(φ1~2mm) を均等に含む	灰少量	しまり・粘性なし	
11	明黄褐色土	2.5Y6/6	地山土を主体とするブロック状の堆積	焼土粒子 (φ1~5mm) 層状に含む	基本的には7層と同じ層 しまりあり 粘性ややあり
12	オリーブ黒色土	5Y3/2	緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 少量	焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) ・灰含む	しまりあり 粘性ややあり
カマド袖					
13	黄灰色土	2.5Y4/1	黄褐色土主体	黒褐色土ブロック (φ3~5mm) 含む	しまり・粘性あり
14	黄褐色土	2.5Y5/3	黄褐色土主体	黒褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量	しまり・粘性あり
15	黄褐色土	2.5Y5/3	黄褐色土主体	焼土粒子 (φ1~5mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりあり 粘性なし
16	オリーブ黒色土	5Y3/1	焼土粒子 (φ1~5mm) 少量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり
17	黒色土	10Y2/1	焼土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり	
カマド掘り方					
18	灰層				
19	黄灰色土	2.5Y4/1	黄褐色土ブロック (φ5~20mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~5mm) 微量	しまり・粘性あり
20	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土粒子 (φ1~5mm) ・焼土 (φ1~10mm) 少量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり
21	黄褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土主体	焼土粒子 (φ1~5mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm)	微量 しまり・粘性あり
22	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) ・焼土ブロック (φ5~20mm)	多量	しまり・粘性あり
貯蔵穴					
23	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土ブロック (φ3~20mm) 均等に含む	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1mm)	微量 しまりあり 粘性ややあり
24	黒褐色土	2.5Y3/1	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量	黄褐色土 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり
25	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量	焼土粒子 (φ1mm) ・炭化物粒子 (φ1mm)	微量 しまりあり 粘性ややあり
26	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量	しまりあり	粘性ややあり
27	黒色土	2.5Y2/1	粘質土	炭化物粒子 (φ1~5mm) 多量	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 微量 しまりややあり 粘性強い
28	オリーブ黒色土	10Y3/2	緑灰色土ブロック (φ5~20mm) 多量	しまり・粘性あり	
29	灰色土	10Y4/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 含む	しまりやや欠ける粘性強い
土坑1					
30	黒褐色土	2.5Y3/2	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 少量	焼土粒子 (φ1mm) ・炭化物粒子 (φ1mm)	微量 しまり・粘性あり
31	黒色土	2.5Y2/1	炭化物粒子 (φ1~5mm) 極多量	しまりややあり	粘性あり
32	オリーブ黒色土	7.5Y3/2	黄褐色土 (φ1~10mm) 均等に多量	焼土 (φ1~10mm) 少量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性ややあり
ビット1					
33	オリーブ褐色土	2.5Y4/4	黄褐色地山土主体	黒褐色土ブロック (φ10mm) 少量	褐色砂ブロック状に少量 しまりあり 粘性ややあり
34	オリーブ褐色土	2.5Y4/4	黄褐色地山土主体	褐色砂微量	しまりあり 粘性ややあり
ビット2					
35	黒褐色土	2.5Y3/2	緑灰色土 (φ1~10mm) 少量	しまり・粘性あり	
炭化物層					
37	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色土 (φ1~10mm) 斑状に含む	焼土粒子 (φ1~2mm) 少量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 層状に含む しまり・粘性あり
38	オリーブ黒色土	5Y3/2	緑灰色土ブロック状に多量	炭化物 (φ1~10mm) 少量	しまり・粘性あり
39	緑灰色土	10G6/1	緑灰色土主体	オリーブ黒色土・炭化物 (φ1~10mm) 少量	
40	オリーブ黒色土	5Y3/1	粘質土	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 少量	焼土粒子 (φ1~2mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり弱い 粘性強い
41	灰色土	10Y4/1	粘質土	緑灰色土ブロック (φ3~5mm)	しまり弱い 粘性強い
ビット3					
42	黒褐色土	2.5Y3/2	緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 少量	焼土粒子 (φ1~3mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm)	少量 しまり・粘性あり
43	黒色土	2.5Y2/1	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 微量	焼土 (φ1~10mm) ・炭化物粒子 (φ1~2mm)	多量 しまりなし 粘性あり
ビット4					
44	オリーブ褐色土	2.5Y4/3	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 多量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまり・粘性あり
45	黒褐色土	2.5Y3/2	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) ・炭化物粒子 (φ1~5mm)	少量	しまり・粘性あり
46	炭化物層				

第167図 第389号住居跡 (2)



第168図 第389号住居跡出土遺物

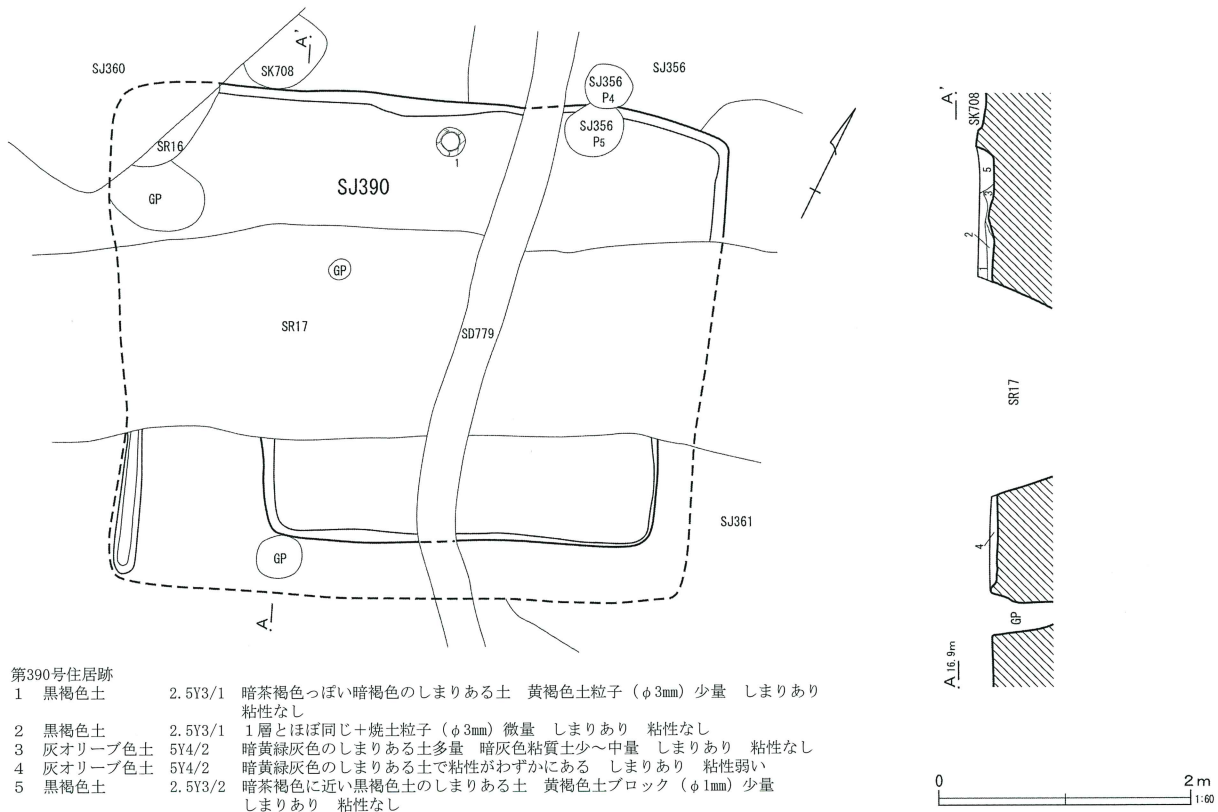
第390号住居跡 (第169図)

O-34グリッドで検出された。第16・17号方形周溝墓、第356・360・361号住居跡、第779号溝跡と重複していた。新旧関係は、第16・17号方形周溝墓より新しく、第779号溝跡より古かった。

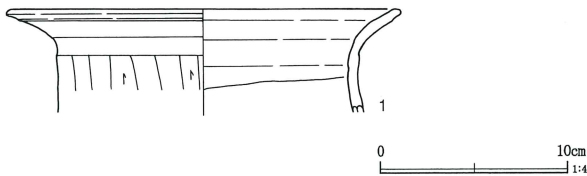
規模は、南北4.0m、東西4.8m、深さが0.13mであった。住居の中央部分が一段深く掘り下げられていた。主軸方位は、N-21°-Wであった。

壁溝は、南西コーナー部のみ検出できた。

遺物は、第170図1の土師器甕などが出土した。



第169図 第390号住居跡



第170図 第390号住居跡出土遺物

第391号住居跡 (第119・120図)

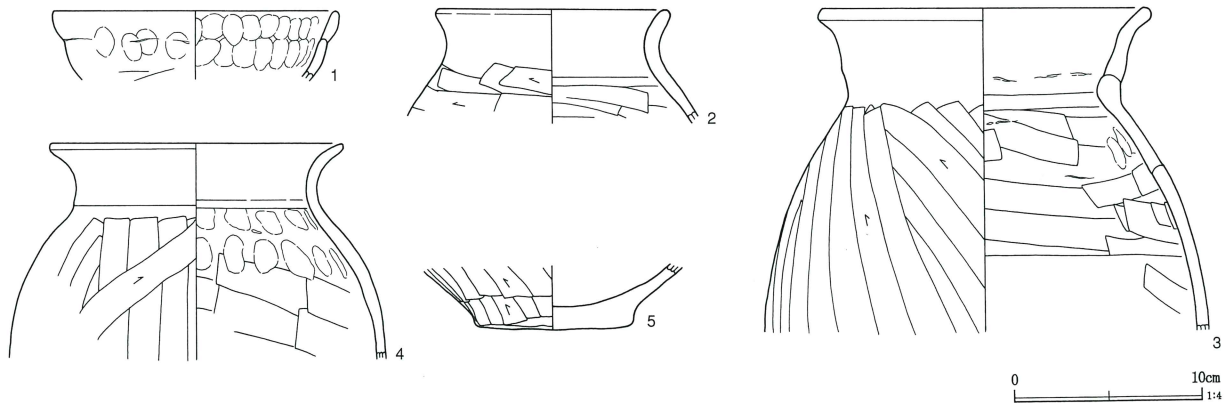
N-34グリッドで検出された。第346・365号住居跡に大部分を壊されていたため、検出できたのがカマドと南東コーナー部のみであった。

検出できた範囲は、南北2.6m、東西0.6m、深さが0.08~0.16mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-32° - Eであった。

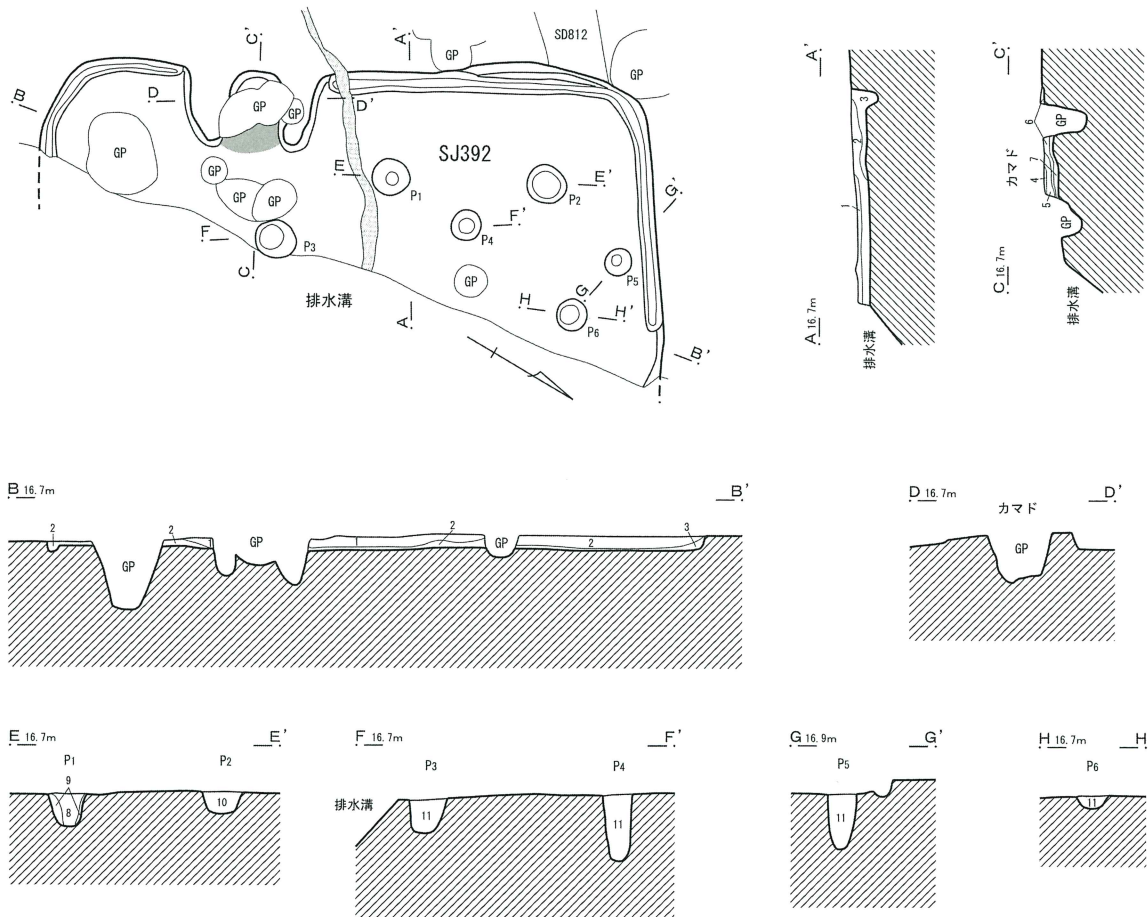
カマドは、東壁で検出された。袖はほとんど確認できなかった。燃烧部は、東西36cm、南北30cm、深さが21cmで、底面には薄い灰層が確認できた。

壁溝は、南東コーナー部で検出できた。

遺物は、カマド周辺から第171図2~5の土師器甕などが少量出土している。



第171図 第391号住居跡出土遺物



第392号住居跡

- | | | | |
|---------|---------|------------------------|----------------------|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 少量 | 下層部に1~2mmの炭化物層 |
| 2 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 | 焼土ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 3 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量 | 炭化物粒子 (φ2~5mm) 微量 |
| カマド | | | |
| 4 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 少量 | 下層部に1~2mmの炭層 |
| 5 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 | 焼土ブロック (φ2~10mm) 少量 |
| 6 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 焼土ブロック (φ2~10mm) 多量 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 |
| 7 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭層 | 焼土粒子 (φ2~3mm) 少量 |

- | | | | |
|------------|---------|----------------------|--|
| ピット 1 | | | |
| 8 黒褐色土 | 10YR5/1 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 微量 | |
| 9 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 微量 | |
| ピット 2 | | | |
| 10 にぶい黄褐色土 | 10YR7/4 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 多量 | |
| ピット 3~6 | | | |
| 11 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 微量 | |



第172図 第392号住居跡

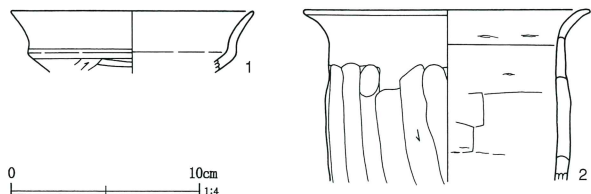
第392号住居跡 (第172図)

Q・R-45グリッドにかけて検出された。東側は調査区域外に大きく延びていたため、全体を調査することができなかった。北西コーナー部では第812号溝跡と重複していたが、新旧関係は不明である。

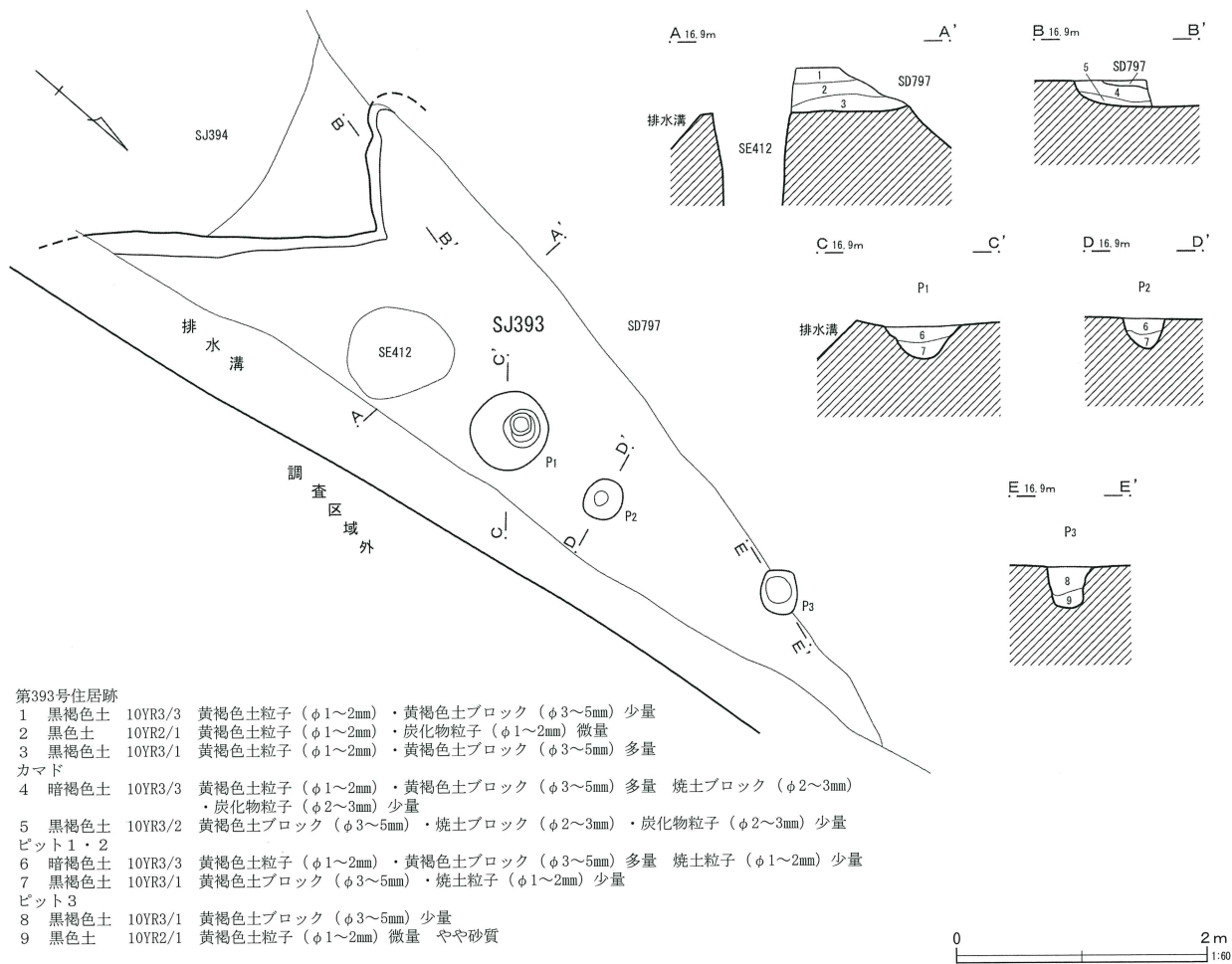
規模は、南北4.8m、東西2.3m以上、深さが0.12mであった。主軸方位は、N-63°-Eであった。

カマドは、西壁の南寄りで見出された。古代以降のピットに壊され、残りが悪かった。カマド袖は、

作り付けであった。燃焼部は、東西64cm、南北50cmで、底面が被熱のため赤く硬化していた。覆土下層では、厚さ1~2mmの薄い炭層が検出された。



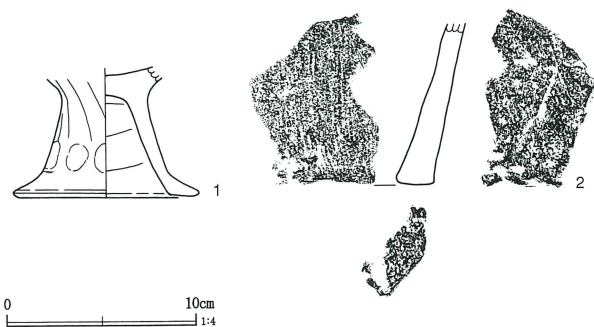
第173図 第392号住居跡出土遺物



第174図 第393号住居跡

壁溝は、幅10~26cm、深さが3~7cmであった。ピットは6本を検出した。P1が29×28cm、P2が32×18cm、P3が33×30cm、P4が25×55cm、P5が23×45cm、P6が26×11cmであった。P1の土層断面には、柱材の痕跡が確認できた。

第173図1は、土師器の模倣坏である。2は、土師器の甕である。



第175図 第393号住居跡出土遺物

第393号住居跡 (第174図)

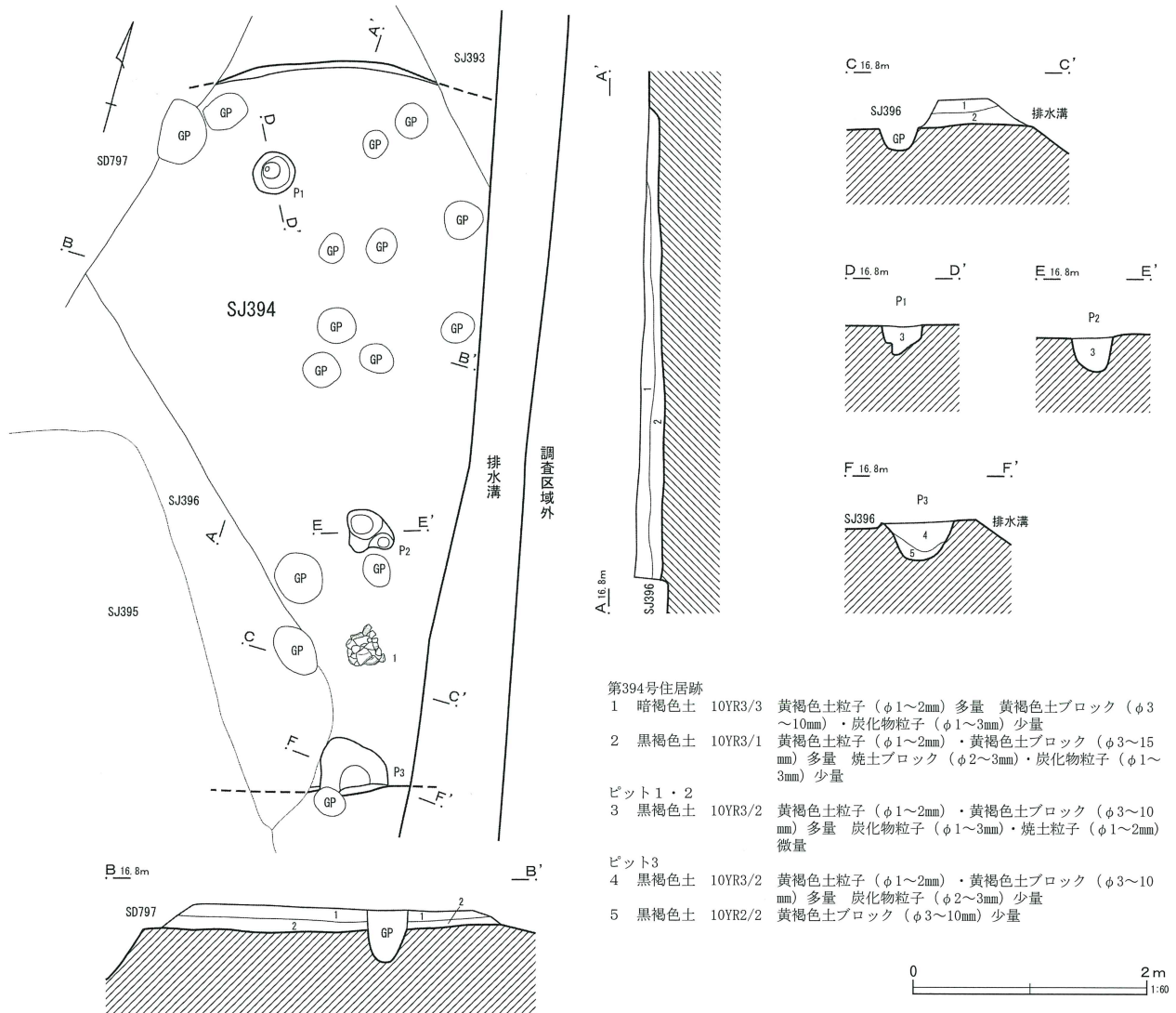
Q-42・43グリッドにかけて検出された。東側は調査区域外のため、全体を検出できなかった。第412号井戸跡、第797号溝跡に切られ、南側では第394号住居跡を切っていた。

検出できた範囲は、南北5.1m、東西5.8m、深さが0.23mで、平面形態は不明であった。主軸方位は、N-41°-Eであった。

カマドは、住居跡の南壁で検出された。カマド袖は確認できなかった。燃烧部の規模は、南北58cmで、灰層は検出できなかった。

ピットは3本を検出した。P1が62×42cm、P2が33×25cm、P3が35×34cmであった。

第175図1は、土師器高坏の脚部である。2は円筒埴輪の底部片で、摩滅が著しい。カマド袖の補強材として転用された可能性も考えられる。



第176図 第394号住居跡

第394号住居跡 (第176図)

Q-43・44グリッドにかけて検出された。東側は調査区域外に延びていたため、全体を調査することができなかった。また、調査前に掘削した排水溝により床面の一部が壊されていた。第393・395・396号住居跡、第797号溝跡と重複していた。新旧関係は、重複する遺構の中で本住居跡が一番古かった。

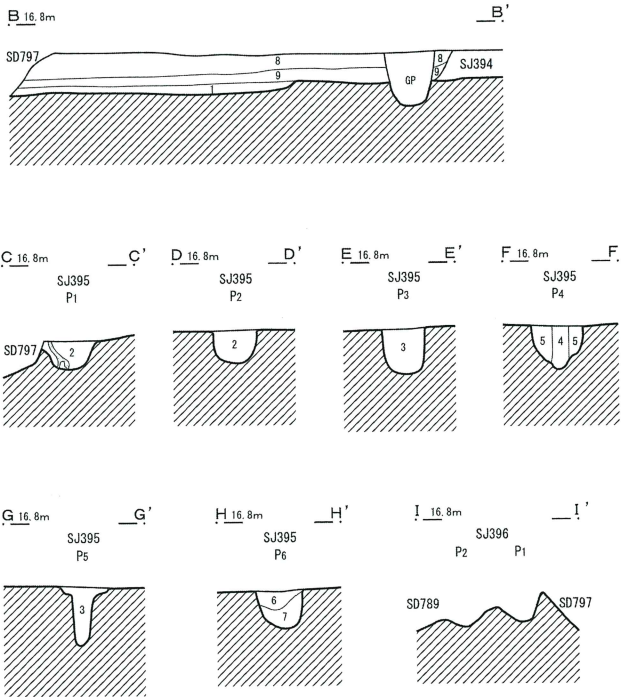
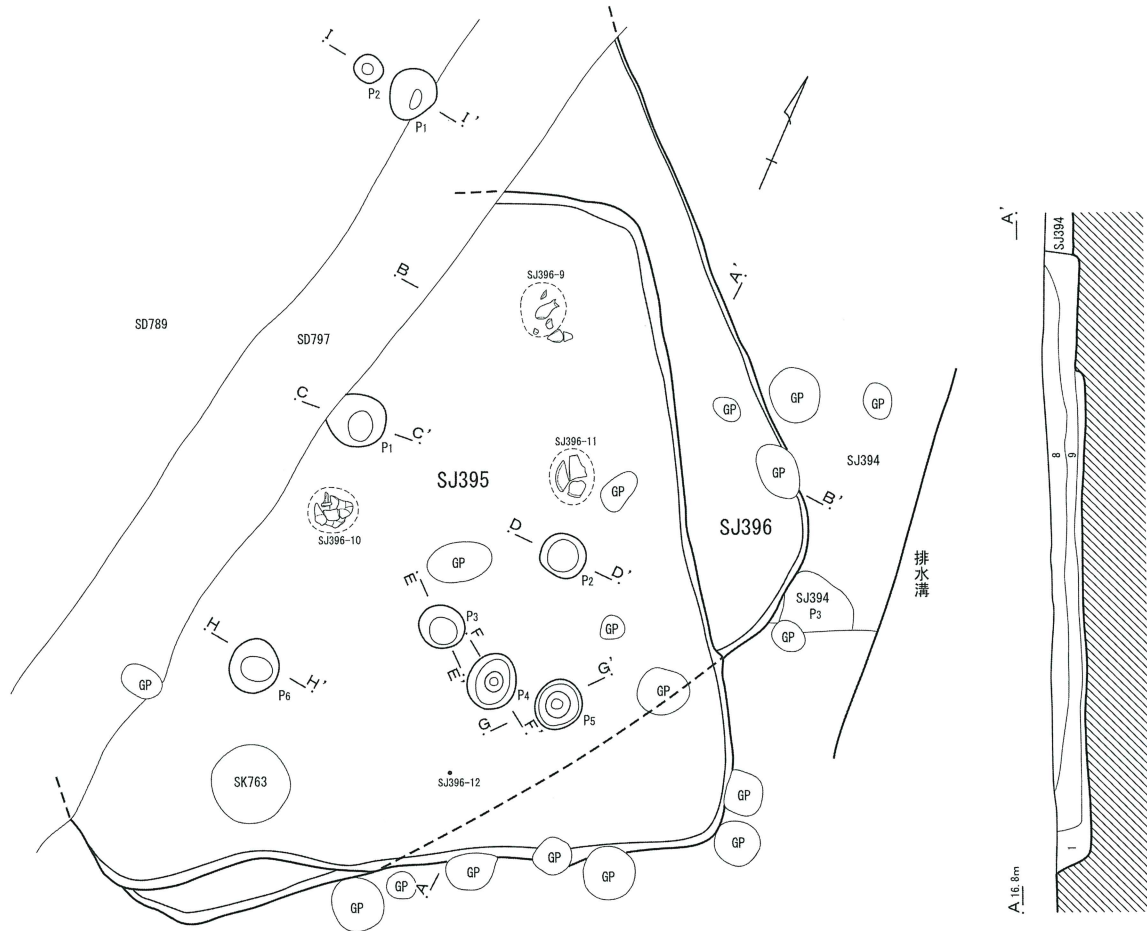
検出された範囲は、南北6.2m、東西3.5m、深さが0.10~0.21mであった。平面形態は不明であるが、北壁がやや弧を描くことから、隅丸の長方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-4°-Wであった。

炉跡、壁溝などの施設は検出できなかった。

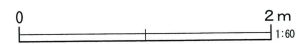
ピットは3本を検出した。各ピットの規模は、P1



第177図 第394号住居跡出土遺物



- 第395号住居跡
- 1 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) 多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
 - ピット 1・2
 - 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
 - ピット 3・5
 - 3 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量
 - ピット 4
 - 4 黒色土 10YR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
 - 5 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量
 - ピット 6
 - 6 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量
 - 7 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~5mm) 微量
- 第396号住居跡
- 8 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量
 - 9 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 焼土ブロック (φ2~3mm) 微量



第178図 第395・396号住居跡

が36×26cm、P2が34×43cm、P3が58×34cmであった。P3は南壁と接しており、柱穴ではなく、貯蔵穴である可能性が高い。

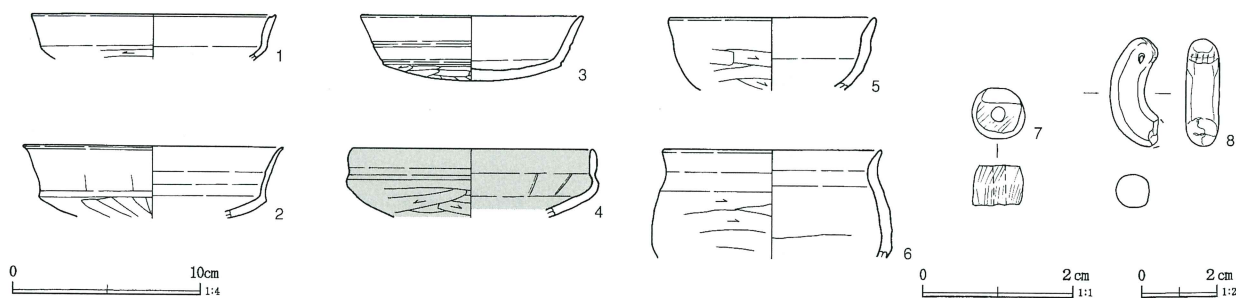
遺物は、覆土中から古墳時代後期の土師器坏、甕片が少量出土しているが、周辺の住居跡からの流れ込みである。南壁寄りの床面直上から吉ヶ谷式の甕が出土していることから、本遺構の時期は古墳時代前期である。

第177図1は、口縁部を欠損する吉ヶ谷式の甕である。外面には明瞭に輪積み痕を残す。輪積み痕の部分には、単節RL縄文が施文される。胴部中位から下半は、ハケ目の後、ヘラミガキが施される。

第395号住居跡（第178図）

Q-44グリッドで検出された。第394・396号住居跡、第763号土坑、第789・797号溝跡と重複していた。新旧関係は、第394号住居跡より新しく、第396号住居跡、第789・797号溝跡より古かった。第763号土坑との切り合いは不明である。

規模は、南北5.3m、東西5.1m、深さが0.23mで、



第179図 第395号住居跡出土遺物

第396号住居跡（第178図）

Q-43・44グリッドにかけて検出された。第394・395号住居跡、第789・797号溝跡と重複していた。新旧関係は、第394・395号住居跡より新しく、第789・797号溝跡より古かった。

規模は、南北4.6m以上、東西6.2m、深さが0.01～0.05mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-45°-Wであった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

平面形態はほぼ正方形をしていた。主軸方位は、N-33°-Wであった。

覆土は1層のみ確認でき、自然堆積であった。

カマド、壁溝などの施設は検出できなかった。

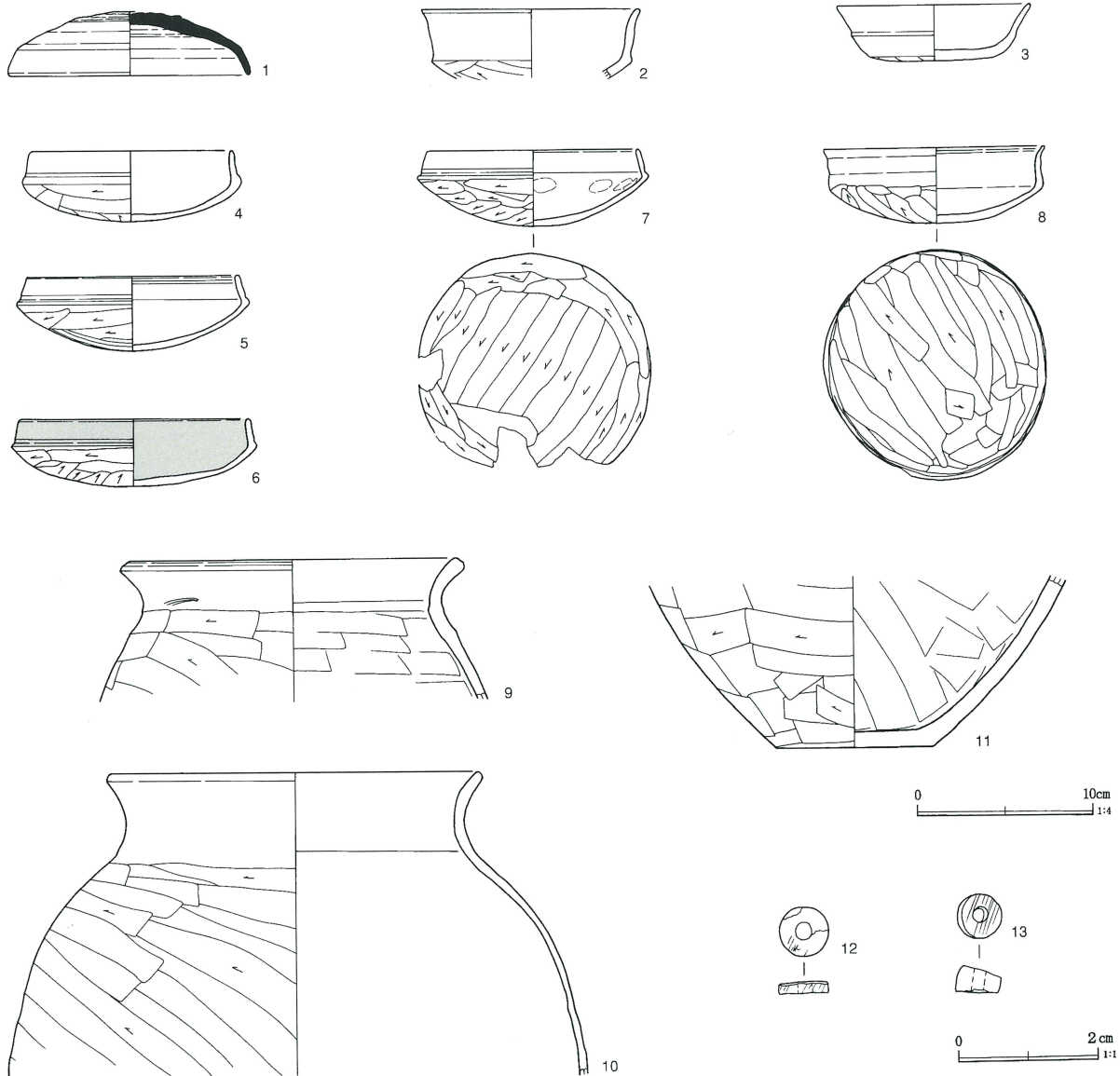
ピットは6本を検出した。各ピットの規模は、P1が42×25cm、P2が35×26cm、P3が37×37cm、P4が44×35cm、P5が40×49cm、P6が42×31cmで、平面形態は全て円形をしていた。P4では、柱材の痕跡を確認できた。第396号住居跡と大きく重複しており、床面の高さもほとんど変わらなかったため、全てが本遺構に伴うものではなく、第396号住居跡に伴うものが一部あると考えられる。

遺物は、覆土中から古墳時代後期の土師器坏、甕片などが多量に出土している。

第179図1～5は土師器の坏で、1が比企型坏、2が模倣坏、3が有段口縁坏、4が身模倣坏である。1・5は、口縁部外面から内面にかけて赤彩が、4は内外面に黒色処理が施される。6は土師器の塊で、内外面に赤彩が施される。7は、滑石製の白玉である。8は、尾の端部を欠損する土製の勾玉である。

ピットは2本を検出した。規模は、P1が42×25cm、P2が23×15cmであった。

第180図1は、須恵器の坏蓋である。胎土に片岩を含むことから、末野産と考えられる。2～8は土師器の坏で、2が模倣坏、3が有段口縁坏、4～7が身模倣坏、8が比企型坏である。6は黒色処理、8は赤彩が施される。9～11は土師器の甕で、10は口縁端部に浅い沈線が巡る。12・13は、滑石製の白玉である。



第180図 第396号住居跡出土遺物

第397号住居跡（第181図）

Q-44・45グリッドにかけて検出された。第422号住居跡、第410・414号井戸跡、第760・783・785号土坑、第789・797・830号溝跡と重複していた。

新旧関係は、第422号住居跡、第410・414号井戸跡、第783・785号土坑、第789・797号溝跡より古かった。第760号土坑、第830号溝跡との切り合いは不明である。

規模は、南北4.1m、東西4.7m、深さが0.10mで、平面形態は南西コーナー部分がやや開き気味の方角をしていた。床面は、ほぼ平坦であった。主軸方位は、N-35°-Eであった。

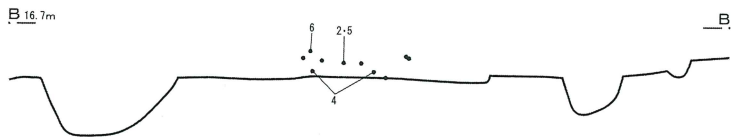
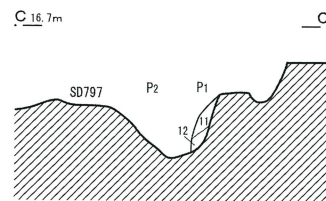
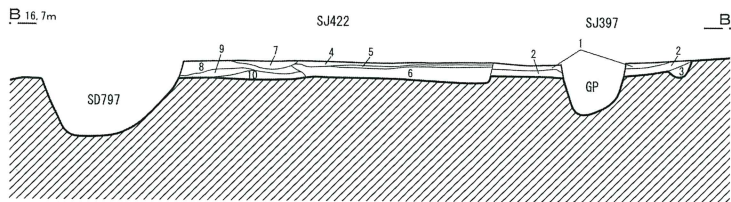
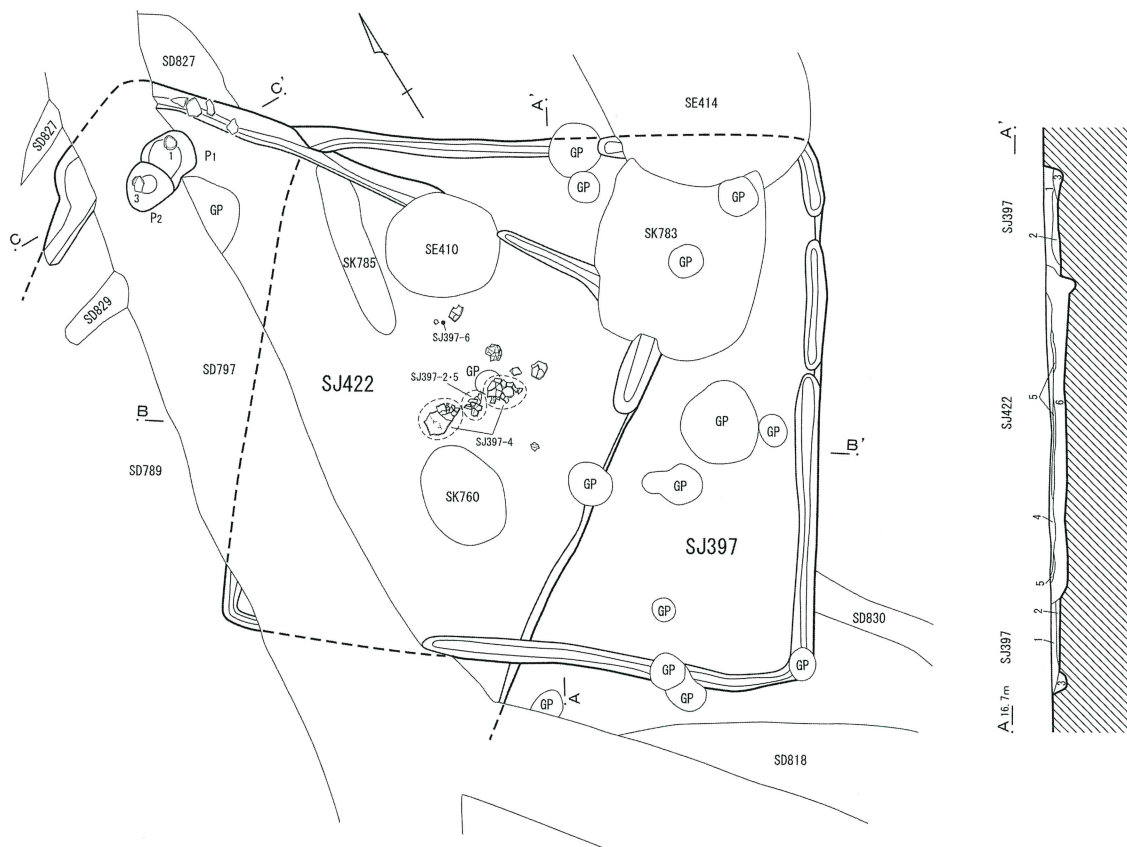
覆土は、3層からなる自然堆積であった。

カマド、ピットは検出できなかった。

壁溝は、僅かに途切れる箇所があったが、ほぼ全周していた。規模は、幅10~19cm、深さが2~7cmであった。

遺物は、覆土上層から古墳時代後期の土師器片が少量出土している。

第182図1・2は、土師器の坏である。1は身模倣坏で、内外面が黒色処理される。2は模倣坏で、内面に黒色処理が施される。3は、土師器の小型壺である。4・5は、土師器甕の底部片である。6は石製の勾玉で、頭部を僅かに欠損している。



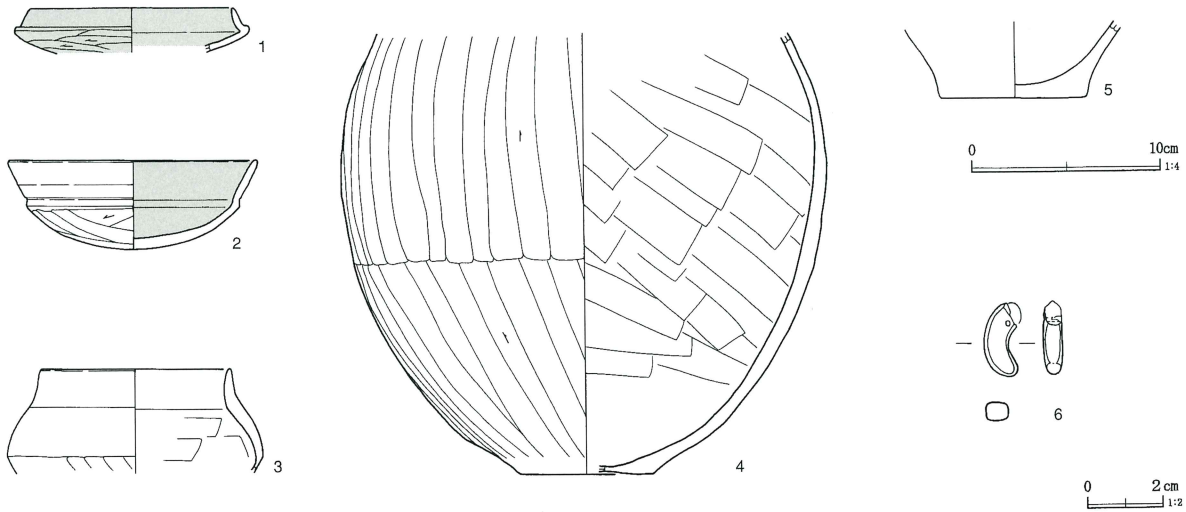
第397号住居跡

- | | | | |
|--------|---------|-----------------------|---------|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土ブロック (φ5mm) 少量 | 土器小片目立つ |
| 2 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 多量 | しまりあり |
| 3 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土ブロック (φ5mm大) 少量 | しまりあり |

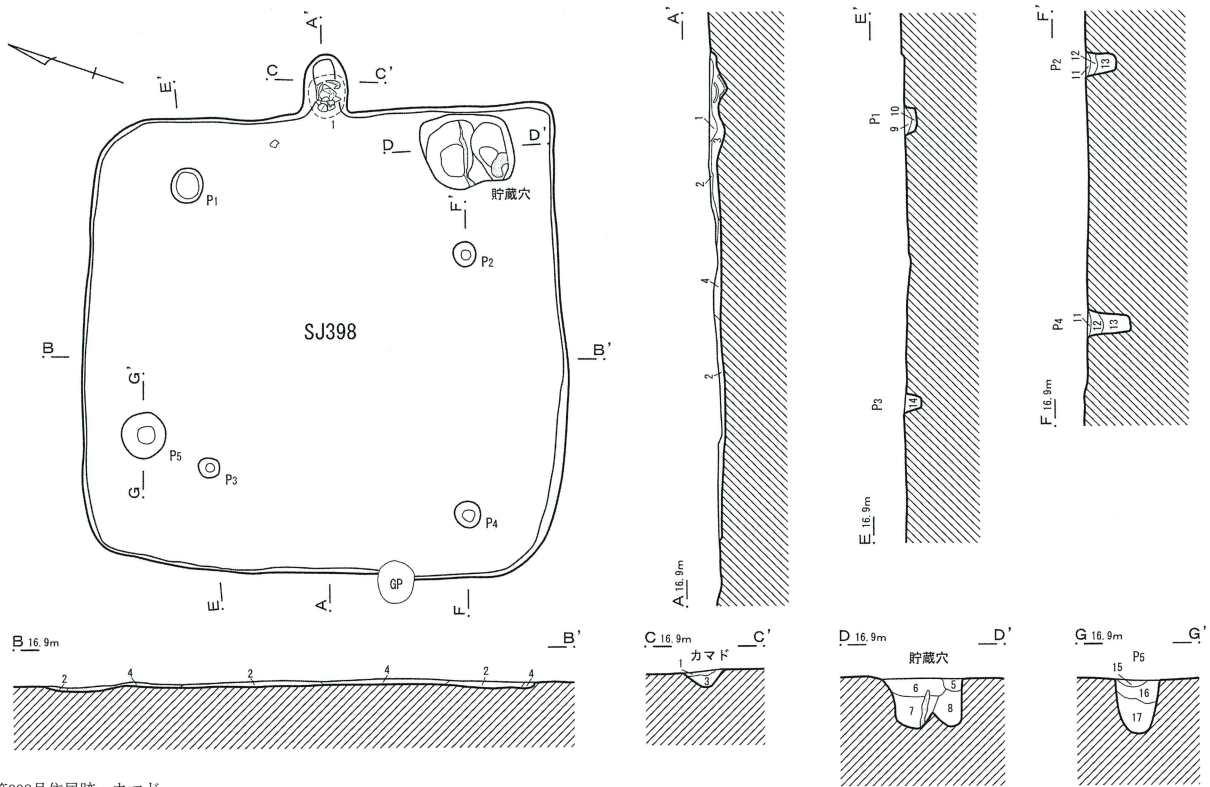
第422号住居跡

- | | | |
|-------------|-----------|------------------------|
| 4 (こぶい)黄褐色土 | 10YR5/3 | 黄褐色土ブロック (10mm大) 含む |
| 5 黒色土 | 10YR1.7/1 | 炭層 (厚さ5~20cm) |
| 6 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色土ブロック (10~20mm大) 多量 |
| 7 明黄褐色土 | 10YR6/6 | 黒色土少量含む |
| 8 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黒色土少量含む |
| 9 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土粒子 (φ5mm) 少量 |
| 10 黄褐色土 | 10YR5/8 | 黄褐色土粒子 (φ5~10mm) 多量 |
| ビット1 | | 黒色土粒子 (φ5mm) 少量 |
| 11 黒褐色土 | 10YR2/3 | 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量 |
| 12 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒子 (φ1mm) 少量 |
| | | 黄褐色土ブロック (φ10mm) 少量 |

第181図 第397・422号住居跡



第182図 第397号住居跡出土遺物



第398号住居跡・カマド

- | | | | |
|------------|---------|----------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 10YR3/3 | 焼土粒子 (φ1mm) 微量 | しまり・粘性あり |
| 2 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | オリーブ黄色土ブロック (φ5~10mm) 少量 | しまりあり 粘性ややあり |
| 3 暗オリーブ色土 | 5Y4/3 | 黒褐色土ブロック (φ5~10mm) 多量 | オリーブ黄色土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 4 暗オリーブ色土 | 5Y4/3 | オリーブ黄色土粒子 (φ1~2mm) 多量 | しまり・粘性あり |
| 貯蔵穴 | | | |
| 5 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 少量 | しまりあり 粘性ややあり |
| 6 明黄褐色土 | 2.5Y6/6 | 地山土ブロック主体 | 間に5層土が充填する |
| 7 青灰色土 | 10BG5/1 | 地山土を50%・8層土50%の混合土 | しまりあり 粘性強い |
| 8 黒色土 | N2/0 | 粘質土 青灰色土ブロック (10BG5/1) (φ5~20mm) | 少量 しまりあり 粘性強い |
| ビット1 | | | |
| 9 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | オリーブ黄色土 (φ5~10mm) 多量 | しまり・粘性あり |
| 10 暗オリーブ色土 | 5Y4/3 | しまりなし | 粘性あり |

ビット2・4

- | | | |
|-------------|---------|---------------------------|
| 11 オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | しまり・粘性あり |
| 12 暗オリーブ色土 | 5Y4/3 | オリーブ黄色土ブロック (φ5~10mm) 多量 |
| 13 オリーブ黒色土 | 5Y3/1 | 粘質土 オリーブ黄色土粒子 (φ1~5mm) 少量 |
| ビット3 | | |
| 14 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | オリーブ黄色土ブロック (φ5~10mm) 多量 |
| ビット5 | | |
| 15 黒褐色土 | 10YR3/2 | オリーブ黄色土ブロック (φ5~10mm) 少量 |
| 16 黒褐色土 | 10YR3/2 | オリーブ黄色土ブロック (φ5~20mm) 多量 |
| 17 黒褐色土 | 10YR3/2 | 青灰色土 (ブロック φ5~20mm) 多量 |



第183図 第398号住居跡

第398号住居跡 (第183図)

N-47・48グリッドにかけて検出された。重複する遺構はなかった。

規模は、南北3.8m、東西3.7m、深さが0.02~0.06mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-71°-Eであった。

カマドは、住居跡東壁の中央部分で検出された。カマドの袖は確認することができなかった。燃焼部は、壁外に延び、東西50cm、南北46cm、遺構確認面からの深さが13cmで、床面より少し低くなっていた。灰層は確認することができなかった。カマド内からは、土師器甕が潰れた状態で出土している。

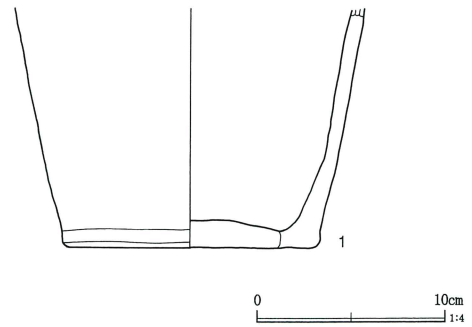
貯蔵穴は、カマド右脇の南東コーナー部で検出された。規模は、南北69cm、東西54cm、深さが43cmで、平面形態は楕円形をしていた。土層断面を観察すると、一度掘り直された可能性も考えられる。

ピットは5本を検出した。配置からP1~4が主柱

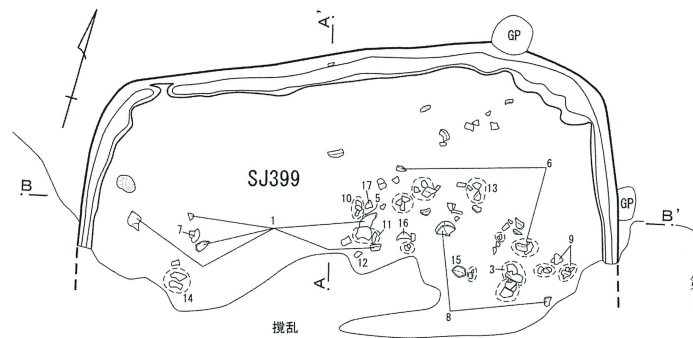
穴である可能性が考えられる。各ピットの規模は、P1が28×7cm、P2が21×24cm、P3が17×13cm、P4が21×35cm、P5が36×43cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器甕片などが少量出土している。

第184図1は、カマド内から出土した土師器の甕である。底部は長甕と比べ大きく作られている。摩滅が著しいため、調整は不明である。



第184図 第398号住居跡出土遺物



第399号住居跡

- | | | | |
|----|----------|----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ2~3mm) 少量 炭化物少量 層下部に帯状にとぎれとぎれ しまりあり 粘性なし |
| 2 | 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ2~3mm) 少量 しまりあり 粘性なし |
| 3 | 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 多量 焼土ブロック (φ5mm) 微量 炭化物 (φ1cm) 層下部に帯状にとぎれとぎれ しまりあり 粘性弱い |
| 4 | 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 暗茶褐色のしまりある土主体 黄褐色土粒子 (φ1~10mm) 微量 しまりあり 粘性弱い |
| 4' | 4層とほぼ同じで | | 暗褐色シルト少量 |
| 5 | オリーブ褐色土 | 2. 5Y4/3 | オリーブ褐色のしまりある土でシルト質の土主体 暗茶褐色粘質土微量 しまりあり 粘性なし |
| 6 | オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | 暗オリーブ茶色のしまりある土主体 しまりあり 粘性ややあり |
| 7 | オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | 暗オリーブ茶色のしまりある土主体 焼土粒子 (φ2mm) 斑を含む 灰層中に帯状に少量 |
| 8 | 暗灰黄色土 | 2. 5Y4/2 | 黄褐色のしまりある粘質土主体 黄褐色土ブロック (φ5~15mm) 多量 しまりあり 粘性弱い |
| 9 | 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 | 黒っぽい暗茶褐色のしまりあるやや粘質があった土主体 黄褐色土粒子 (φ3mm) 微量 しまりあり 粘性弱い |
| 10 | オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | 暗オリーブ茶色のしまりある土主体 黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 斑を含む 炭化物層中に帯状を含む |

第185図 第399号住居跡

第399号住居跡 (第185図)

N・O-48グリッドにかけて検出された。南半部を大きく攪乱に壊されていたため、残りがよくなかった。

規模は、南北2.3m以上、東西4.2m、深さが0.08~0.17mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-16°-Wであった。

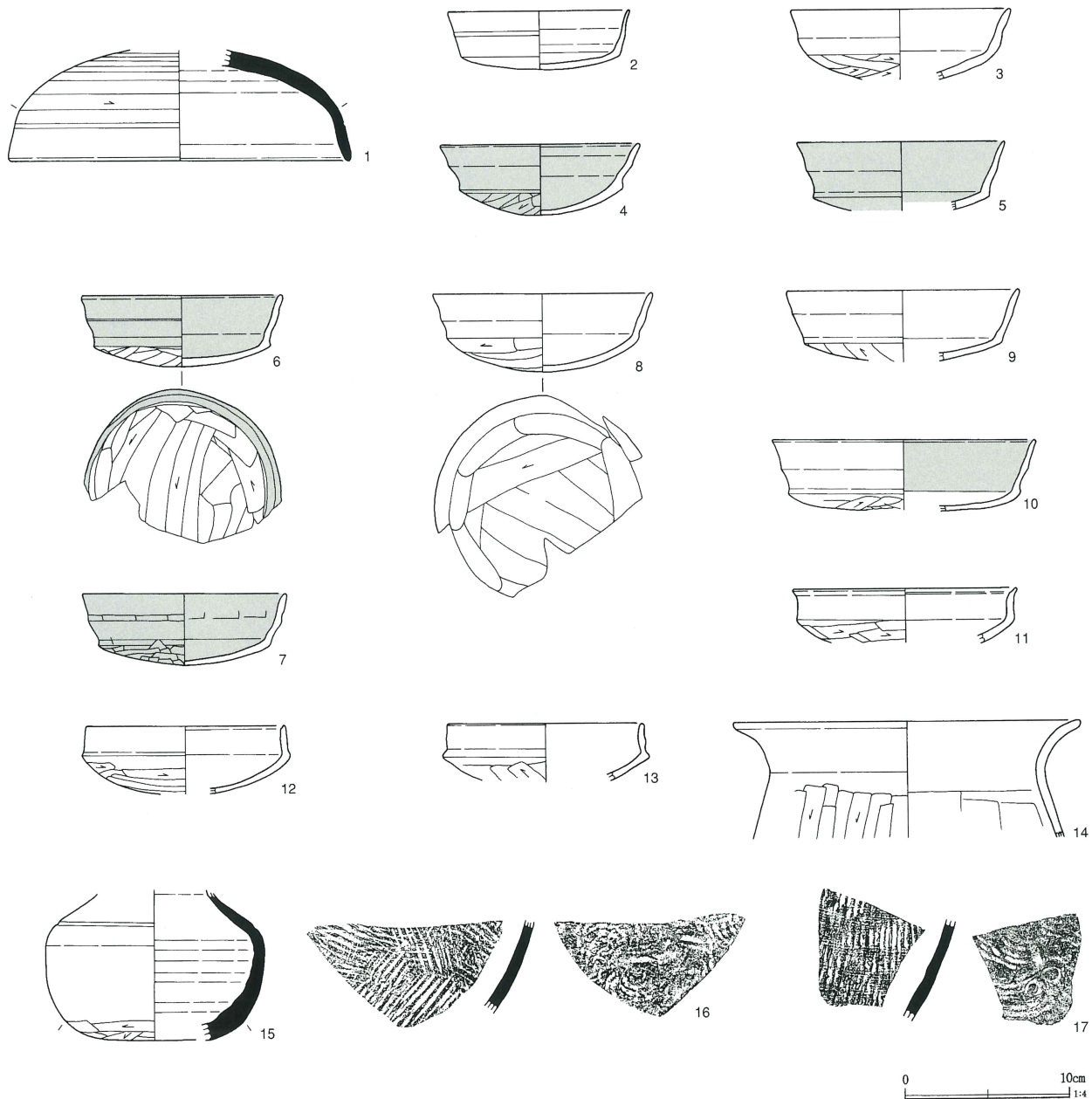
カマド、ピットは検出できなかった。

壁溝は、検出された範囲内ではほぼ全周し、幅11

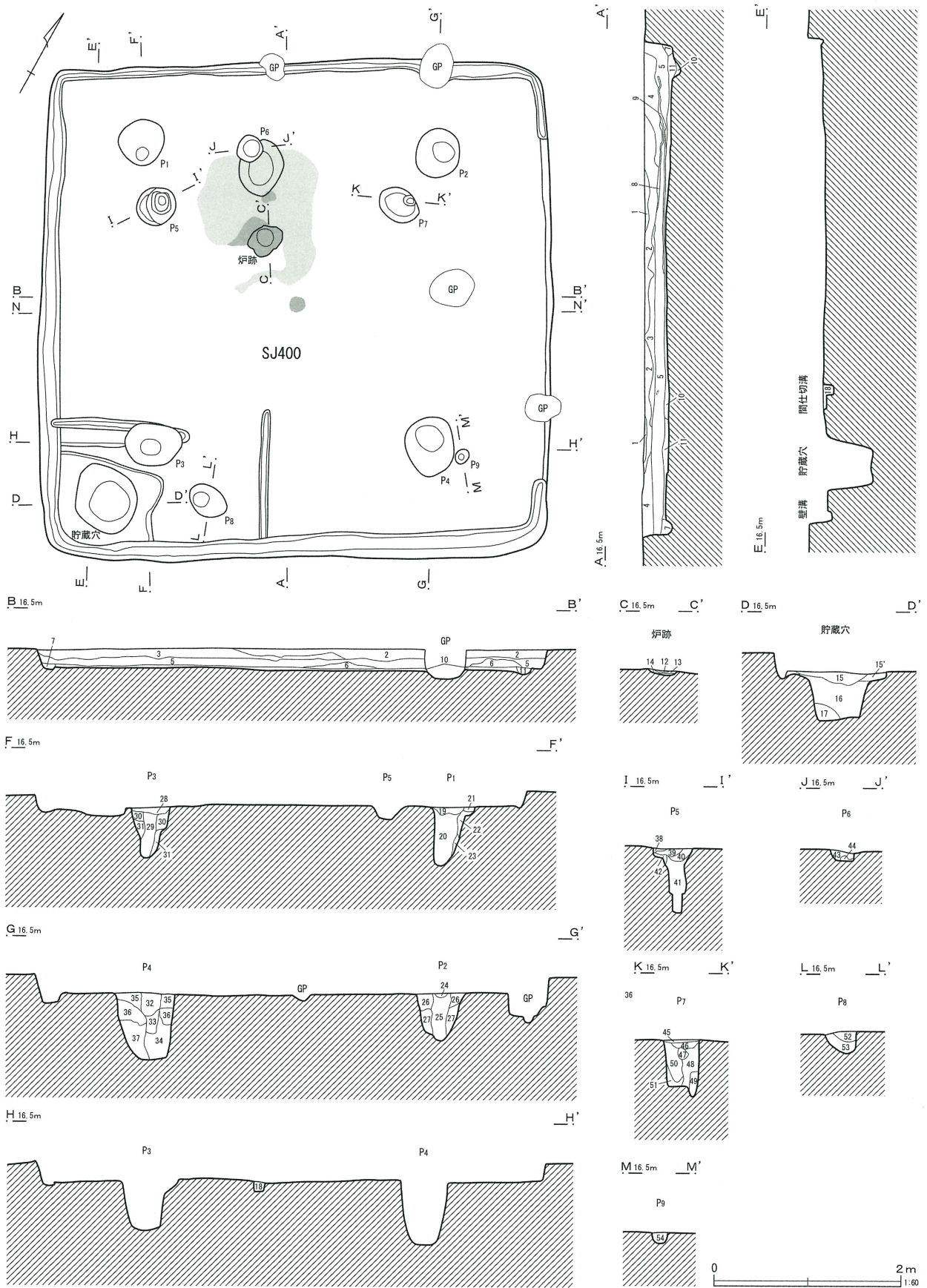
~37cm、深さが3~9cmであった。

遺物は、床面から多量の古墳時代後期の土師器片が出土している。

第186図1は、須恵器の坏蓋である。胎土に白色針状物質を含むことから、南比企産である。2~13は土師器の坏で、2~10が有段口縁坏、11が比企型坏、12・13が身模倣坏である。4~7・10は黒色処理、11は赤彩が施される。15は、末野産と考えられる小型の壺である。胴部下半はヘラケズリである。



第186図 第399号住居跡出土遺物



第187图 第400号住居跡 (1)

第400号住居跡

1	灰オリブ色土	5Y4/2	灰オリブ色のシルトでしまっている	しまりあり	粘性なし	
2	暗灰黄色土	2.5Y4/2	オリブがかかった暗茶灰色土のしまりある土	オリブ黄色土粒子 (φ1mm) 多量	しまりあり 粘性なし	
3	暗オリブ褐色土	2.5Y3/3	暗茶褐色のしまりある土	オリブ黄色土 (φ1~10mm) オリブ黄色土ブロック少~中量	しまりあり 粘性なし	
4	黒褐色土	2.5Y3/2	3層より少し暗めの暗茶褐色のしまりある土	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量	しまりあり 粘性なし	
5	黒褐色土	2.5Y3/2	黒っぽい暗茶褐色土主体	黄褐色土ブロック (φ10~80mm) 多量	しまりあり 粘性ややあり	
6	黒褐色土	2.5Y3/1	4・5層よりも黒い黒褐色土でしまりがある	粘性も少しある土	黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 微量	しまりあり 粘性ややあり
7	黄灰色土	2.5Y4/1	暗灰色土がかかった茶褐色土主体	黄褐色土粒子 (φ2mm) 多量	しまりあり 粘性ややあり	
8	黒褐色土	2.5Y3/1	黒褐色の灰・炭化物層	焼土粒子 (φ3mm) 少量	しまり・粘性なし (上層の灰・炭化物層)	
9	黒褐色土	10YR3/1	8層より少し暗い灰・炭化物層	焼土粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性なし (下層の灰・炭化物層)	
10	明黄褐色土	2.5Y6/6	地山土主体	黒褐色土 (2.5Y3/2) 少量	地山土が部分的に緑灰色	しまり・粘性あり (掘り方)
11	黒褐色土	2.5Y3/2	明黄褐色土 (φ1~10mm) 多量	しまり・粘性あり (掘り方)		
炉跡						
12	黒褐色土	2.5Y3/1	黒褐色のしまりある土	黄灰色土粒子 (φ3~5mm) ・炭化物粒子 (φ2mm) 斑を含む	しまりあり 粘性ややあり	
13	褐色土	7.5YR4/3	少し暗めの赤褐色土 (焼けた土)	しまりあり	粘性なし	
14	黄褐色土	2.5Y5/2	黄褐色土のしまりある土	※13層に近い上の部分は焼けた痕跡あり	しまりあり 粘性なし (掘り方)	
貯蔵穴						
15	黒褐色土	2.5Y3/2	少し暗めの暗茶褐色のしまりのある土	黄褐色土粒子 (φ5~20mm) 中~多量	しまりあり 粘性ない	
15'	暗青灰色土	5B3/1	暗青灰色土の粘質土 (15層の土の変色したもの)	青灰色土ブロック (φ10mm) 少量	しまり・粘性ややあり	
16	暗青灰色土	5B3/1	暗青灰色のしまりある粘質土	青灰色土粒子 (φ2~3mm) 斑を含む	炭化物粒子 (φ2~5mm) 微量	しまりあり 粘性ややあり
17	暗青灰色土	5B3/1	16層と同じ色の土で青灰色土粒子・炭化物を含まない	しまり・粘性ややあり		
間仕切溝						
18	灰色土	5Y4/1	灰色のしまりある土	黒褐色土ローム粒子 (φ5~10mm) 中~多量	しまりあり 粘性ややあり	
ビット1						
19	暗オリブ灰色土	2.5GY2/1	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 多量	しまり・粘性あり		
20	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ1~10mm) 均等に少量	炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまりあり 粘性強い
21	暗灰黄色土	2.5Y4/2	黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 多量	しまり・粘性あり		
22	明黄褐色土	2.5Y7/2	緑灰色土 (10GY5/1) 地山土主体	ブロック状の堆積に暗オリブ灰 (2.5GY3/1) が充填する		
23	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~3mm) 多量	しまりあり 粘性強い	
ビット2						
24	黒褐色土	10YR2/2	緑灰色土粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり		
25	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 均等に少量	炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量	しまりあり 粘性強い
26	暗オリブ灰色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色及び黄褐色土 (φ1~20mm) ブロック状に多量	しまりあり 粘性強い	
27	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ5~30mm) ブロック状に多量	しまりあり 粘性強い	
ビット3						
28	暗オリブ褐色土	2.5Y3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 均等に少量	しまり・粘性あり		
29	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~3mm) 均等に少量	炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまりあり 粘性強い
30	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 均等に多量	しまりあり 粘性強い	
31	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土ブロック (φ5~10mm) ブロック状に多量	しまりあり 粘性強い	
ビット4						
32	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色及び黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量	焼土粒子・炭化物粒子 (φ1mm) 微量	しまり・粘性あり	
33	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ1~10mm) 均等に多量	しまりあり 粘性強い	
34	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり 粘性強い	
35	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色及び黄褐色土 (φ5~10mm) ブロック状に多量	しまり・粘性あり		
36	緑灰色土	7.5GY5/1	地山土のブロック状堆積	黒色粘質土わずかに混入	しまりあり 粘性ややあり	
37	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ1~10mm) 多量	しまりあり 粘性強い	
ビット5						
38	オリブ黒色土	5Y3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量	しまり・粘性あり		
39	黄褐色土	2.5Y5/4	地山土を主体とするブロック状の堆積	しまり・粘性あり		
40	暗オリブ灰色土	5GY3/1	緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 均等に少量	しまり・粘性あり		
41	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ5~30mm) 少量	しまりあり 粘性強い	
42	暗緑灰色土	5G3/1	緑灰色地山土を主体	黒色粘土粒子 (φ1~5mm) 微量	しまり・粘性あり	
ビット6						
43	オリブ黒色土	5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 少量	しまりあり 粘性強い	
44	暗緑灰色土	10G4/1	地山土ブロック	しまりあり	粘性ややあり	
ビット7						
45	暗緑灰色土	7.5GY3/1	黄褐色土 (φ1~10mm) ・緑灰色土 (φ1~20mm) 少量	しまり・粘性あり		
46	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ1~10mm) 少量	しまりあり 粘性強い	
47	暗緑灰色土	7.5GY4/1	地山土ブロックの堆積	しまり・粘性あり		
48	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土粒子 (φ1~5mm) 均等に微量	しまりあり 粘性強い	
49	緑灰色土	7.5GY5/1	地山土主体	黒色粘土微量	しまりあり 粘性ややあり	
50	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土 (φ1~10mm) 均等に少量	しまりあり 粘性強い	
51	黒色土	2.5GY2/1	粘質土	緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 多量	しまり・粘性あり	
ビット8						
52	灰色土	5Y4/1	灰色のしまりある土主体	黄褐色土粒子 (φ5mm) 斑を含む	しまりあり 粘性ややあり	
53	暗青灰色土	5B3/1	暗青灰色粘質土主体	青灰色土粒子 (φ10mm) 多量	しまりあり 粘性ややあり	
ビット9						
54	黒褐色土	2.5Y3/1	黒っぽい暗茶褐色のしまりある土	黄褐色土粒子 (φ3mm) 少量	しまりあり 粘性ややあり	

第188図 第400号住居跡 (2)

第400号住居跡 (第187~189図)

O-47・48グリッドにかけて検出された。他の遺構との重複はみられなかった。

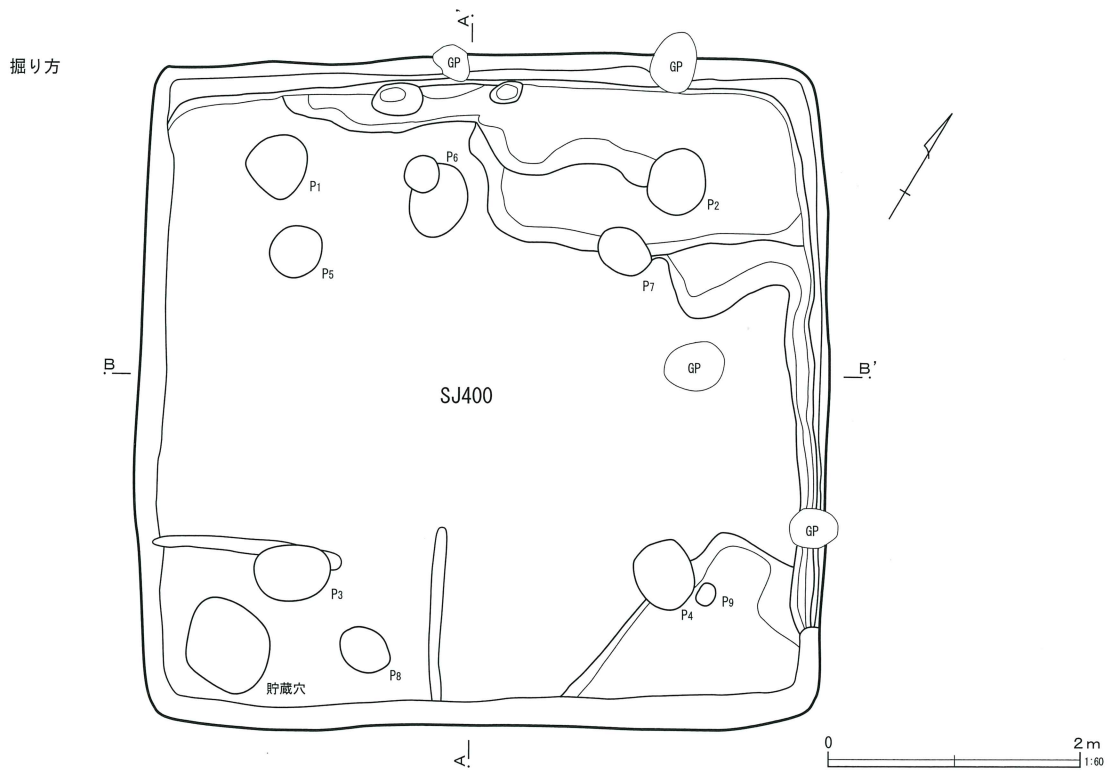
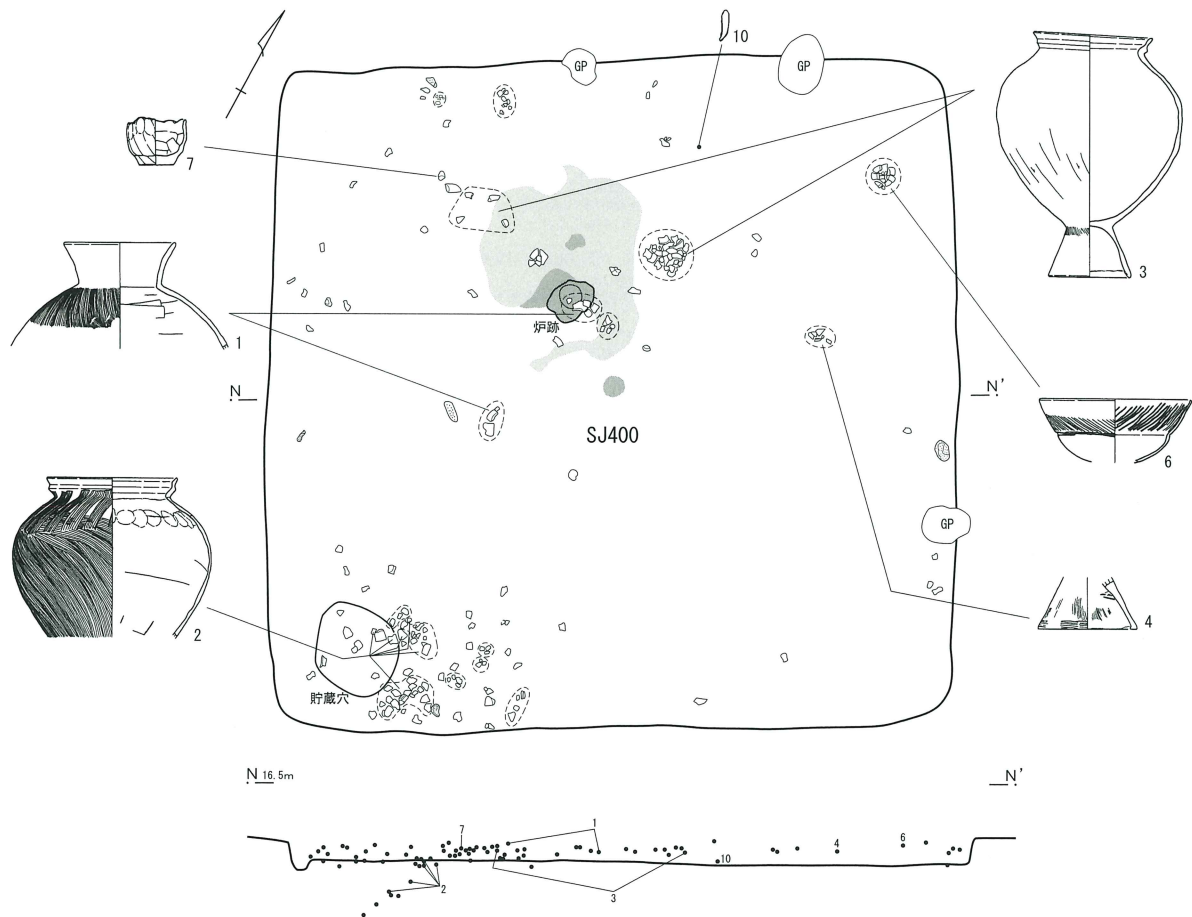
規模は、南北5.3m、東西5.5m、深さが0.21mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-32°-Wであった。

覆土は、9層からなる自然堆積であった。住居跡北半の覆土中層から下層にかけては、2枚の灰・炭化物を含む薄い層が堆積していた。住居跡全体には

確認できなかったことから、本遺構の埋没過程において廃棄されたものと考えられる。

炉跡は、地床炉で、中央部から少し北寄りの位置で検出された。規模は、長軸36cm、短軸29cm、床面からの掘り込みが4cmであった。平面形態は、不整楕円形をしていた。炉跡の北側には、焼土や炭化物が広がっていた。

壁溝は、東壁を除いた範囲に全周していた。規模は、幅9~29cm、深さが2~10cmであった。4辺の



第189図 第400号住居跡 (3)

内で東壁だけ壁溝が巡っていなかったことから、住居跡への出入り口部が存在した可能性がある。

貯蔵穴は、南西隅で検出された。規模は、長軸78cm、短軸66cm、深さが51cmで、平面形態は東西にやや長い楕円形をしていた。貯蔵穴周辺には、南北1.6m、東西1.9m、深さが3cmの浅い掘り込みをともなっていた。貯蔵穴周辺には、S字甕などの土師器片が多く出土している。

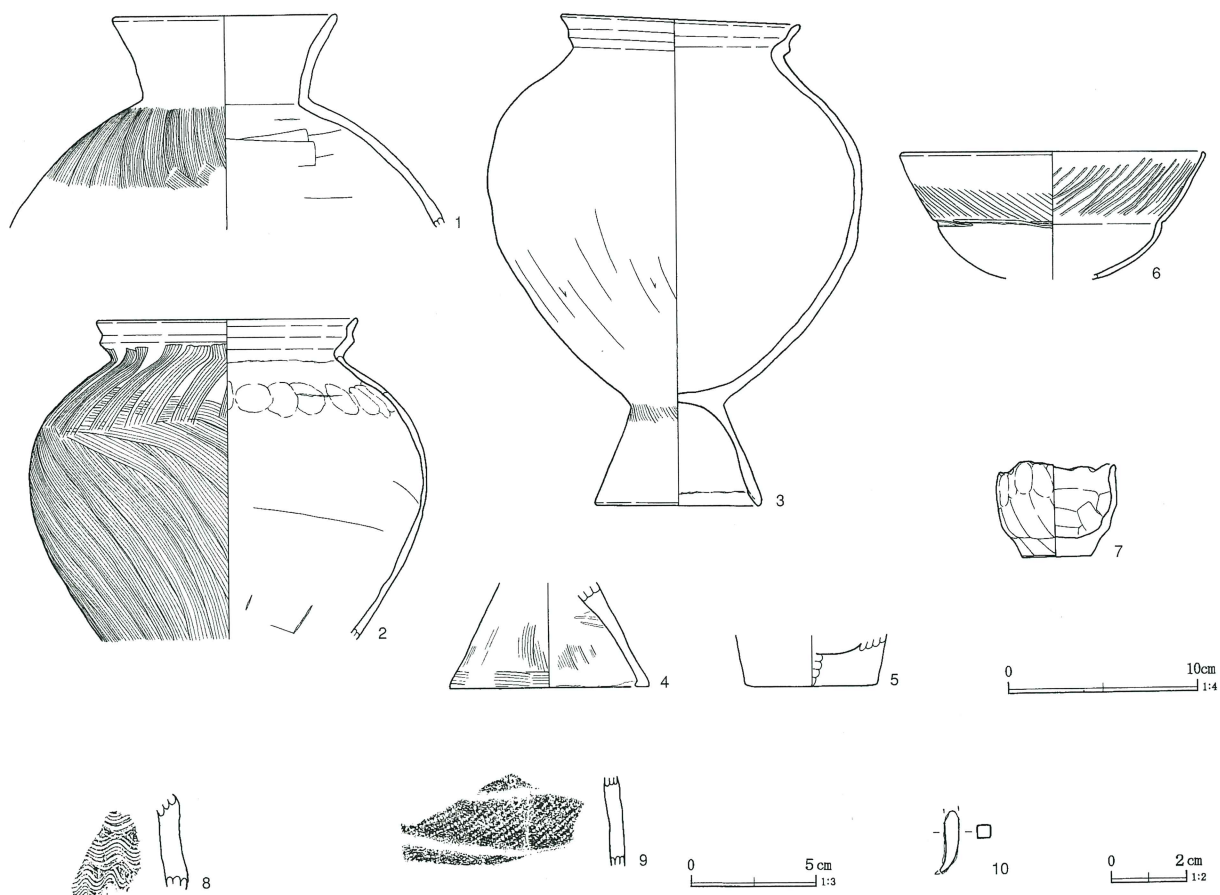
貯蔵穴の北側と東側には2本の浅い間仕切りの溝が検出された。北側はP3と重複しており、長さ151cm、幅12cm、深さが11cmであった。南側は、長さ138cm、幅10cm、深さが10cmであった。

ピットは9本を検出した。P1～4は、配置や柱材の痕跡が確認できたことから、支柱穴と考えられる。各柱穴の規模は、P1が49×65cm、P2が52×50cm、P3が68×55cm、P4が61×71cmであった。他のピットについては、性格が不明である。P5が43×73cm、P

6が29×13cm、P7が44×61cm、P8が43×33cm、P9が17×12cmであった。

遺物は、炉跡と南西隅の貯蔵穴周辺に集中して古墳時代前期の土師器片が多量に出土した。炉跡周辺の遺物は、床面より若干浮いた状態であった。

第190図1は甕で、外面全体に煤が付着する。口縁部は横方向のナデである。2・3はS字状口縁台付甕である。頸部から肩部にかけてのハケ目はやや雑である。内面に指頭圧痕が認められる。外面に煤が付着する。3は、摩滅が著しいが、外面はナデ調整で、接合部分に一部ハケ目が残る。2に比べ器壁が厚い。6は大型の甕である。全面に赤彩され、口縁部内面には暗文状のヘラミガキが施される。7は、ほぼ完形のミニチュア土器である。8の甕は、外面に櫛描の波状文が施文される。9の壺は、沈線の中に単節LR縄文が施文される。10は、用途不明の鉄製品である。釘の可能性が考えられる。



第190図 第400号住居跡出土遺物

第401号住居跡 (第191図)

P-45グリッドで検出された。第787・788号土坑、第789・808号溝跡と重複していた。新旧関係は、第787号土坑、第789・808号溝跡より古く、第788号土坑との切り合いは不明である。大半を第789号溝跡に壊されていたため、検出できたのが北西コーナー部分のみであった。覆土もほとんど残存しておらず、残りが良くなかった。

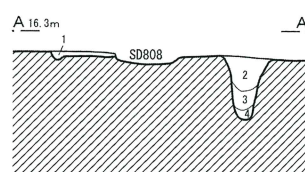
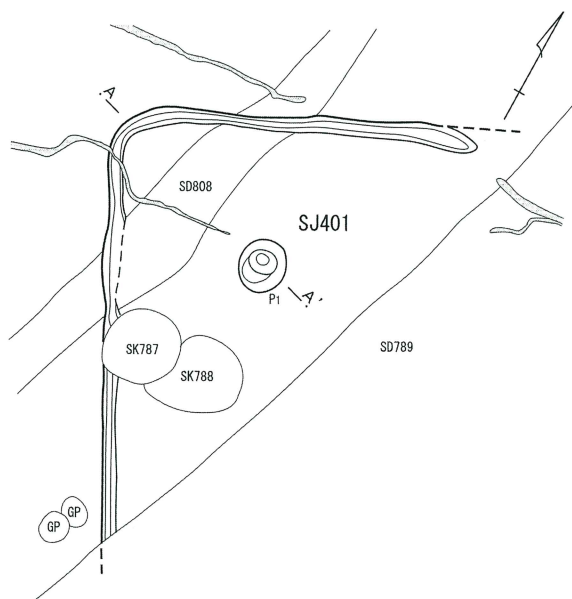
規模は、南北3.4m以上、東西2.9m以上、深さが

0.02~0.03mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-29°-Wであった。

壁溝は、検出した範囲では全周していた。幅9~17cm、深さが3~7cmであった。

ピットは1本のみ検出できた。規模は、42×49cmであった。

遺物は、時期不明の土師器甕片などが少量出土したが、図示できるものはなかった。そのため、本遺構の時期は不明である。



第401号住居跡

- | | | |
|-----------|---------|-------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR2/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 |
| ピット1 | | |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 |
| 3 オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | 緑灰色シルトブロック (φ3~5mm) 多量 |
| 4 黒色土 | 2.5Y2/1 | 緑灰色シルトブロック (φ3~5mm) 少量 |

0 2m
1:80

第191図 第401号住居跡

第402号住居跡 (第192図)

P-47グリッドで検出された。第9号竪穴状不明遺構、第806号溝跡と重複しており、本住居跡が切られていた。

規模は、南北3.9m、東西3.8m、深さが0.03~0.08mで、平面形態は正方形をしていた。主軸方位は、N-25°-Wであった。

覆土は、4層からなる自然堆積であった。

カマドは、住居跡南壁の中央部で検出された。カマド袖は、地山の黄褐色の粘土で構築されていた。燃焼部は、南北50cm、東西57cmで、床面とほぼ同じ高さであった。灰層は確認できなかった。燃焼部の南壁際では、浅い小ピットであるP1が検出できた。

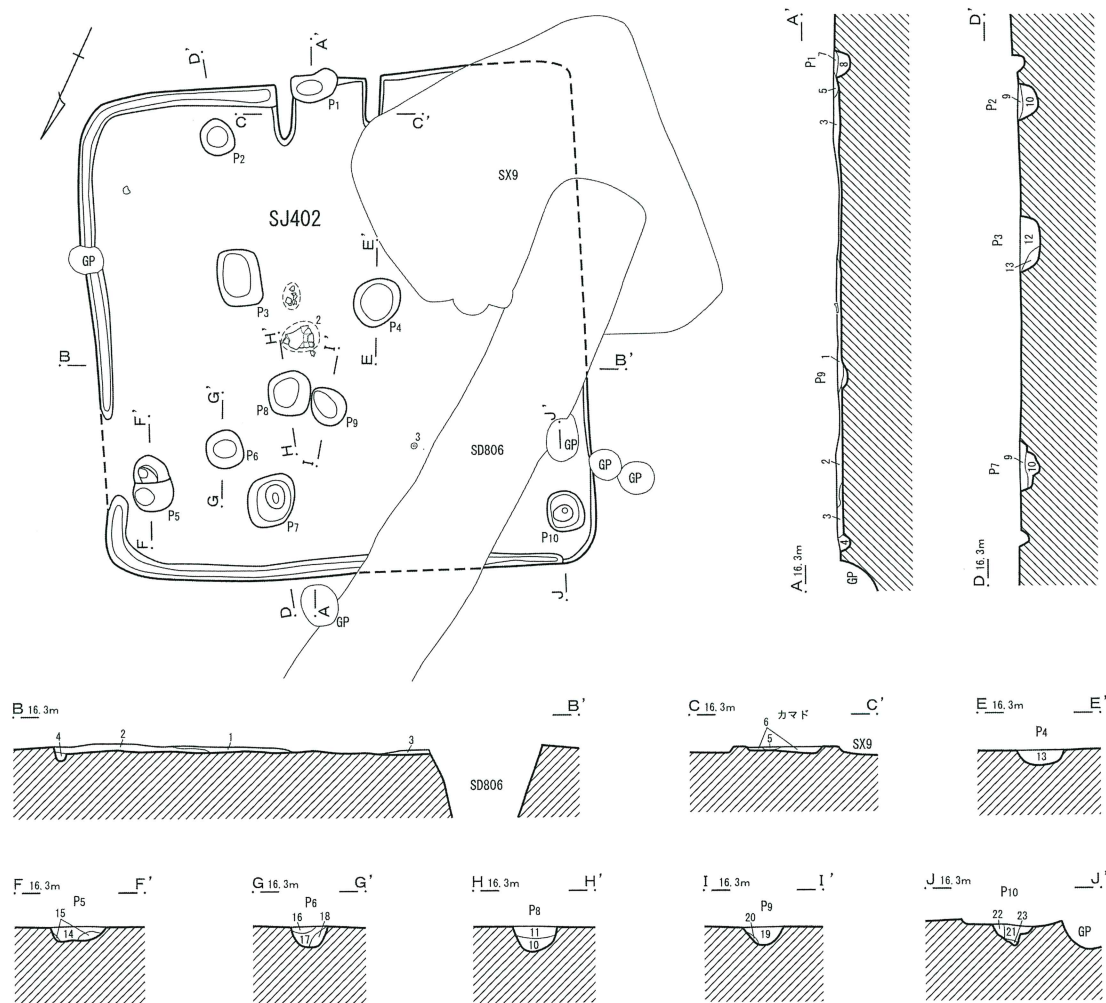
規模は、38×14cmであった。

壁溝は、西壁を除く範囲でほぼ全周していた。幅9~19cm、深さが3~6cmであった。

ピットは9本を検出した。何れのピットも、配置や形状に規則性がなく、性格は不明である。各ピットの規模は、P2が30×17cm、P3が45×17cm、P4が41×13cm、P5が44×13cm、P6が29×18cm、P7が40×19cm、P8が35×21cm、P9が32×13cm、P10が32×16cmであった。

遺物は、古墳時代後期の土師器片がピットなどから少量出土している。

第193図3は、滑石製の紡錘車である。4・5は壁溝内から出土した完形の土錘である。

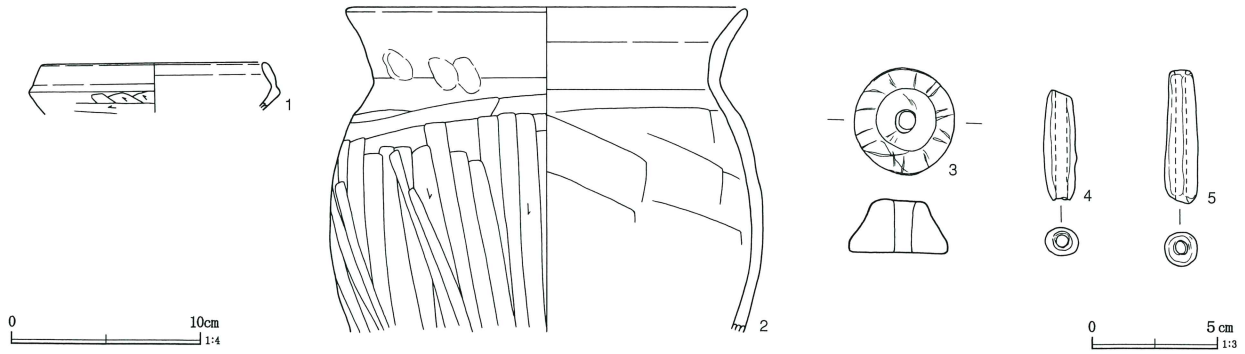


第402号住居跡

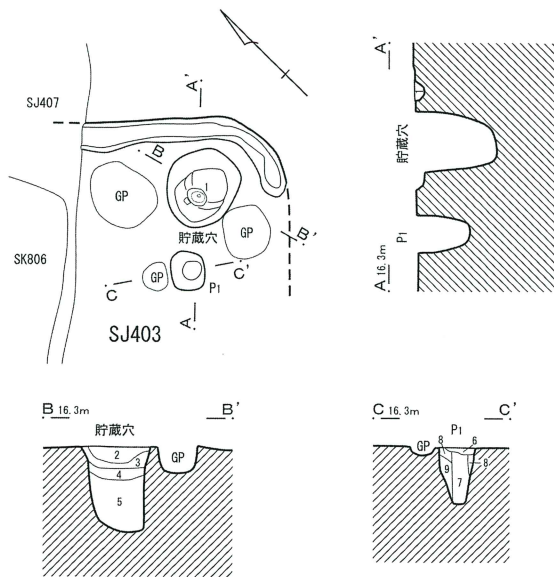
- | | | |
|-------------|---------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒褐色のしまりある土 しまりあり 粘性ややあり |
| 2 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黒褐色でバサバサした土主体 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ3mm) 微量 しまり・粘性ややあり |
| 3 オリーブ黒色土 | 5Y3/2 | オリーブがかかった暗灰色の土主体 黄灰色土ブロック (φ5~10mm) 斑に含む しまりあり 粘性なし |
| 4 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 粘性のある黒褐色土主体 黄灰色土ブロック (φ2~10mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり |
| カマド | | |
| 5 灰オリーブ色土 | 5Y4/2 | オリーブ灰色のしまりある土 同色シルト少量 黄褐色土粒子 (φ3mm) 斑に含む 焼土ブロック (φ3~5mm) 微量 しまりあり 粘性なし |
| 6 黄灰色土 | 2.5Y4/1 | 暗灰色のしまりある土 オリーブ黄褐色土粒子 (φ3mm) 多量 しまりあり 粘性ややあり |
| ビット1 | | |
| 7 黄灰色土 | 2.5Y4/1 | 6層より暗い暗灰色のしまりある土 オリーブがかかった黄褐色シルト少~中量 しまりあり 粘性なし |
| 8 暗灰色土 | N3/0 | 青黒っぽい暗灰色粘質土 黄褐色土粒子 (φ5mm) 含む 炭化物ブロック (φ5mm) 微量 しまり・粘性ややあり |
| ビット2・4・7・8 | | |
| 9 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 暗茶褐色のしまりある土 オリーブ黄色土粒子 (φ1mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 10 暗青灰色土 | 5B3/1 | 暗茶褐色土・暗青灰色土多量 炭化物ブロック (φ5mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり |
| 11 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 暗茶褐色のしまりある土 黄褐色土粒子 (φ1mm) 含む 炭化物ブロック (φ10mm) 微量 しまりあり 粘性ややあり |
| ビット3 | | |
| 12 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土 (φ1~10mm)・緑灰色土 (φ1~5mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり |
| 13 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土ブロック (φ5~10mm)・緑灰色土ブロック (φ5~10mm) 多量 しまり・粘性あり |
| ビット7 | | |
| 14 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 均等に少量 焼土粒子 (φ1~3mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり |
| 15 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土 (φ1~10mm) 多量 しまり・粘性あり |
| ビット8 | | |
| 16 オリーブ褐色土 | 2.5Y4/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 多量 しまり・粘性あり |
| 17 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~3mm) 少量 炭化物粒子 (φ1mm) 微量 しまり・粘性あり |
| 18 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 黄褐色土 (φ1~10mm) 多量 しまり・粘性あり |
| ビット9 | | |
| 19 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり |
| 20 黒褐色土 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土 (φ1~5mm) 多量 しまり・粘性あり |
| ビット10 | | |
| 21 暗オリーブ褐色土 | 2.5Y3/3 | 黄褐色土粒子 (φ1~5mm) 中量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量 しまり・粘性あり |
| 22 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 黄褐色土 (φ1~5mm) 少量 しまり・粘性あり |
| 23 黄褐色土 | 2.5Y5/4 | 地山ローム主体 21層土少量 しまり・粘性あり |

0 2m
1:60

第192図 第402号住居跡



第193図 第402号住居跡出土遺物



第194図 第403号住居跡

第403号住居跡

- | | |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 暗灰黄色土 | 2. 4Y4/2 黄褐色土粒子 (φ2~10mm) 斑に含む しまりあり 粘性ややあり |
| 貯蔵穴 | |
| 2 黒褐色 | 2. 5Y3/2 黄褐色土粒子 ((2~3mm)・焼土粒子(φ2mm)・炭化物粒子(φ2mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
| 3 暗灰黄色土 | 2. 5Y4/2 黄褐色土ブロック(φ10mm)多量 焼土粒子(φ3mm) 微量 2層よりやや明るめの茶褐色土主体 しまりあり 粘性ややあり |
| 4 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 黄褐色土ブロック(φ5~10mm) 斑に含む 炭化物ブロック(φ5mm)微量黒っぽい暗茶褐色土主体 しまりあり 粘性ややあり |
| 5 暗青灰色土 | 5B3/1 青灰色土少量 しまりあり 粘性ややあり |
| ピット1 | |
| 6 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 炭化物粒子(φ10mm)少量 焼土粒子(φ2mm)微量 しまりあり 粘性ややあり |
| 7 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 黄褐色土ブロック(φ10~20mm) 斑に含む 黒っぽい暗茶褐色土 しまりあり 粘性ややあり |
| 8 黒褐色土 | 2. 5Y3/2 黄褐色土粒子(φ3mm)少量 6層と同じ色の土主体 しまりあり 粘性なし |
| 9 暗オリーブ褐色 | 2. 5Y3/3 黄褐色土ブロック(φ10mm)多量 6~8層より明るい暗茶褐色 しまりあり 粘性ややあり |



第403号住居跡 (第194図)

O・P-47グリッドで検出された。西側で第407号住居跡、第806号土坑と大きく重複していた。新旧関係は、第407号住居跡、第806号土坑より本遺構の方が古かった。住居跡の大半が削平されて残存しておらず、検出できたのは北東コーナー部の壁溝と貯蔵穴などであった。住居跡の覆土は全く残っていなかった。

規模は、南北1.7m以上、東西1.3m以上、深さが0.01mで、平面形態は不明である。主軸方位は、N-42°-Eであった。

カマド、炉跡などは検出できなかった。

壁溝は、北壁部分で検出でき、幅15~24cm、深さが1~5cmであった。

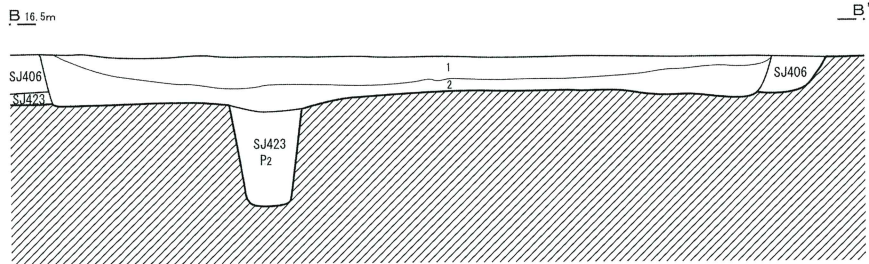
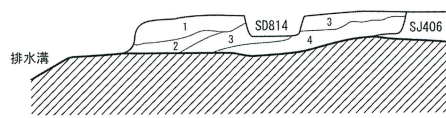
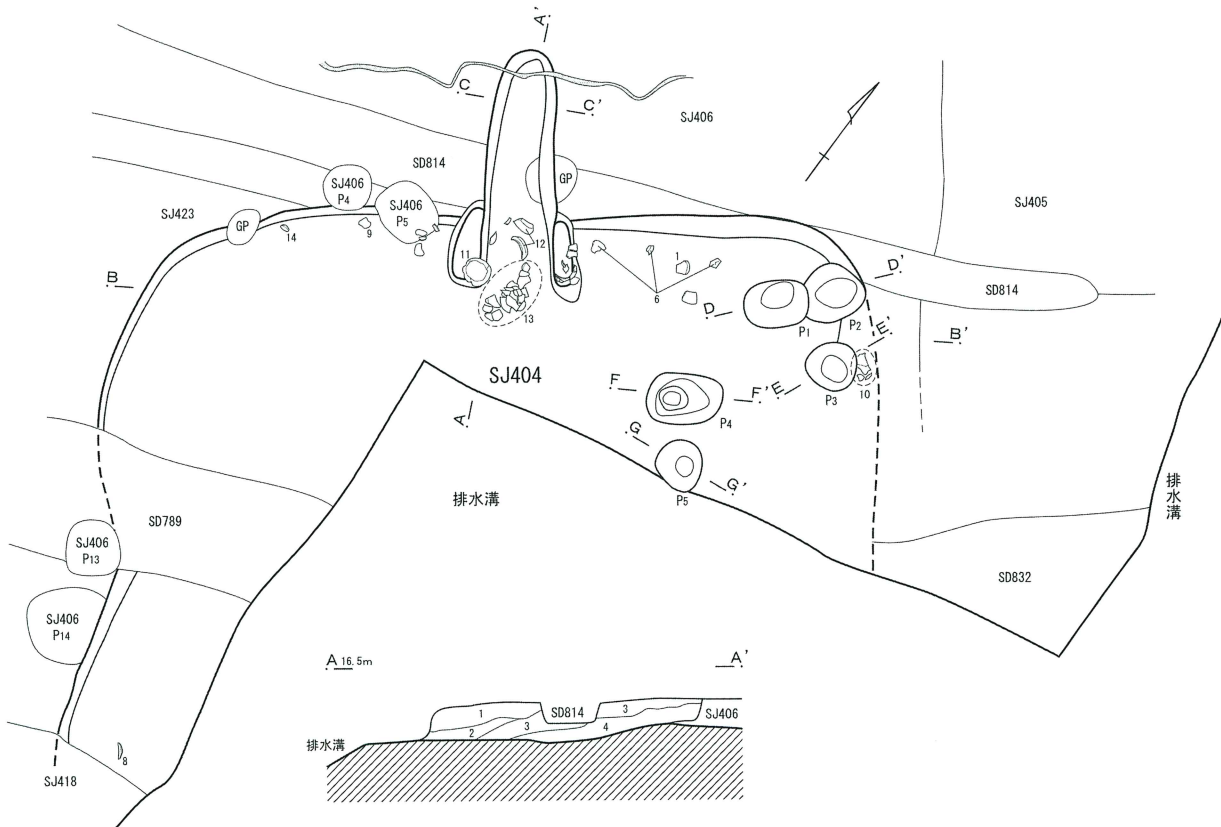
貯蔵穴は、北東隅で検出された。規模は、長軸62cm、短軸55cm、深さが68cmで、平面形態は南北に長い楕円形をしていた。貯蔵穴内からは、土師器の高杯が出土している。

ピットは貯蔵穴の南で1本のみ検出できた。規模は30×45cmで、円形をしていた。土層断面で柱材の痕跡が確認できたことから、柱穴である可能性が考えられる。

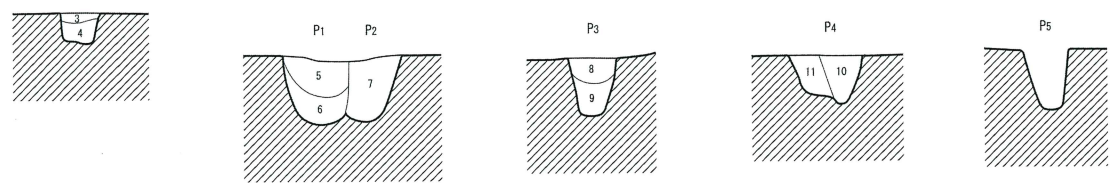
第195図1は、貯蔵穴から出土した土師器高杯の坏部片である。



第195図 第403号住居跡出土遺物



C 16.5m カマド C' D 16.5m D' E 16.5m E' F 16.5m F' G 16.5m G'



- 第404号住居跡
- | | | |
|------------|----------|----------------------------------------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 多量 焼土粒子 (φ1~3mm) 少量 |
| 2 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 微量 |
| カマド | | |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/2 | 焼土ブロック (φ3~5mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 4 暗褐色土 | 10YR3/4 | 地山の緑灰色シルト主体 焼土ブロック (φ2~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| ピット1・2 | | |
| 5 黒褐色土 | 2.5Y3/1 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 6 黒色土 | 5Y2/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~5mm) 少量 |
| 7 黒褐色土 | 10YR3/2 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土粒子 (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| ピット3 | | |
| 8 黒色土 | 2.5Y2/1 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・炭化物粒子 (φ2~5mm) 多量 (柱痕) |
| 9 暗緑灰色砂質土 | 7.5GY4/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・地山下層の緑灰色砂質土主体 |
| ピット4 | | |
| 10 黒色土 | 10YR2/1 | 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 |
| 11 オリーブ黒色土 | 7.5Y3/1 | 緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 多量 |



第196図 第404号住居跡

第404号住居跡（第196図）

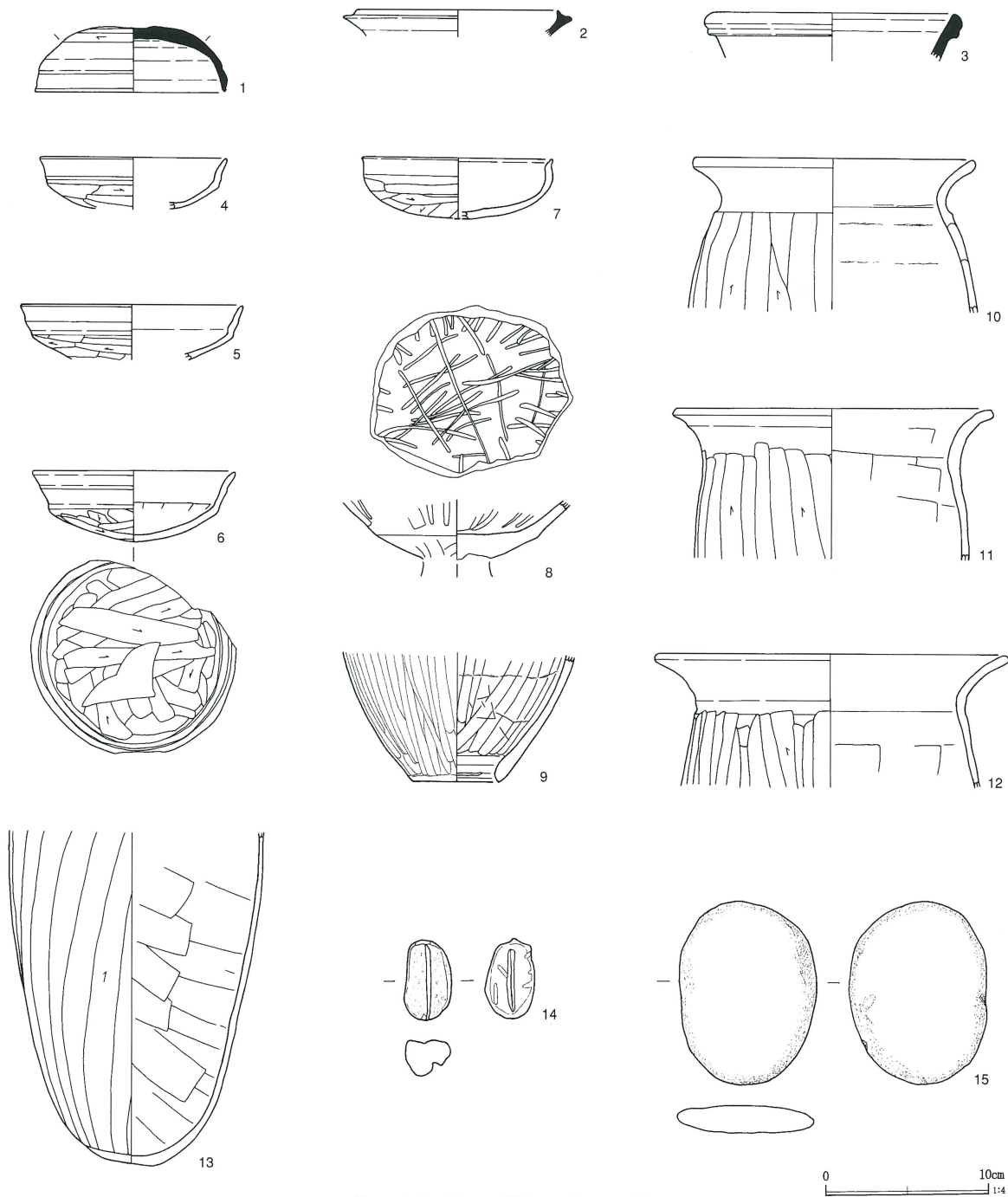
Q-47・48、R-47グリッドにかけて検出された。南側は調査区域外に伸びていたため、全体を調査することができなかった。第406・418・423号住居跡、第789・814・832号溝跡と重複していた。新旧関係は、第406・423号住居跡より新しく、第418号住居跡、第789・814・832号溝跡より古かった。東壁は、中世の溝が重複していたため、立ち上がりがよくわからな

かった。

規模は、南北6.0m以上、東西推定6.2m、深さが0.12~0.34mで、平面形態は方形に近い形をしていると思われる。西壁は、地震による噴砂の影響により、歪みが著しかった。主軸方位は、N-31°-Wであった。

覆土は、2層からなる自然堆積であった。

カマドは、第406号住居跡の覆土を掘り込んで構築



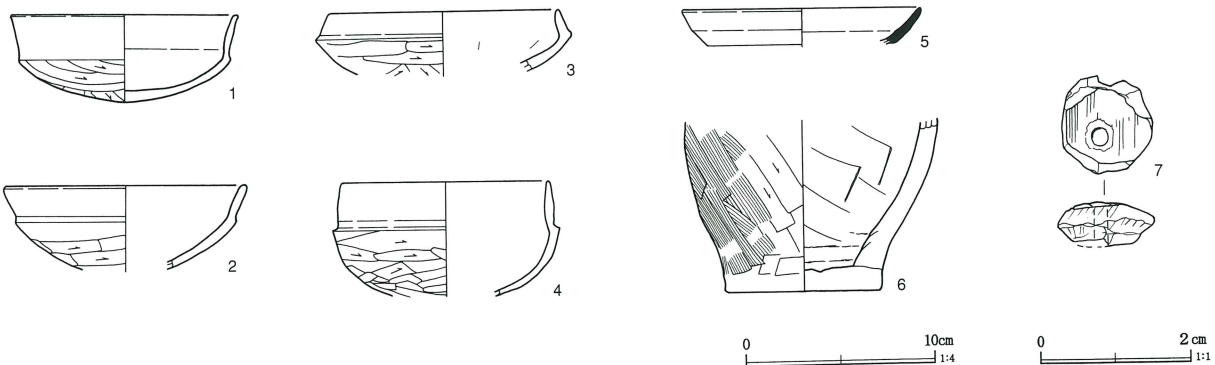
第197図 第404号住居跡出土遺物

されていた。そのため、カマドの袖が、作り付けで作られたのか、削り出しで作られたのかは判断できなかった。住居跡北壁の中央部で検出され、袖は細長いものであった。袖の先端部には、補強材として土師器などが転用されていた。左袖は胴部上半までの甕が逆位の状態検出された。右袖は、土師器の小片が多く、円筒埴輪の破片が1点含まれていた。煙道部は壁外に大きく伸び、長さ192cm、幅58cm、確認面からの深さが31cmであった。袖から燃焼部分の壁面は、被熱のため赤く硬化していた。底面には明瞭な灰層は検出できなかった。覆土の4層は、天井部が崩落した層と考えられる。

ピットは5本を検出した。P3の土層断面では、柱材の痕跡を確認できたが、本遺構の柱穴ではない可能性がある。各ピットの規模は、P1が52×55cm、P2が45×53cm、P3が40×47cm、P4が60×40cm、P5が42×47cmであった。

遺物は、カマドの周辺と焚き口部分に古墳時代後期の須恵器、土師器片がまとまって出土している。

第197図1～3は、須恵器である。1は須恵器の坏蓋で、天井部にヘラケズリが施される。2は、坏身である。3は、末野産と考えられる壺の口縁部片である。4～7は土師器の坏で、4は模倣坏、5・6は有段口縁坏、7は比企型坏である。8は高坏の坏部片で、内面に暗文状のヘラミガキが施される。10～13は、土師器の甕である。11は、カマド左袖の補強材として転用されたものである。14は、表裏2面に擦痕が残る砥石である。15は、すり石である。



第198図 第405号住居跡出土遺物

第405号住居跡 (第199・200図)

Q・R-46・47グリッドにかけて検出された。東側は調査区域外に伸びていたため、全体を調査することができなかった。第404・406・416・417号住居跡、第420号井戸跡、第831号土坑、第809・810・811・814号溝跡と重複していた。新旧関係は、第416・417号住居跡より新しく、第404・406号住居跡、第420号井戸跡、第809・810・811・814号溝跡より古かった。第831号土坑との関係は不明である。

規模は、南北7.6m、東西7.1m以上、深さが0.03～0.08mで、平面形態は方形をしていたと思われる。主軸方位は、N-21°-Wであった。

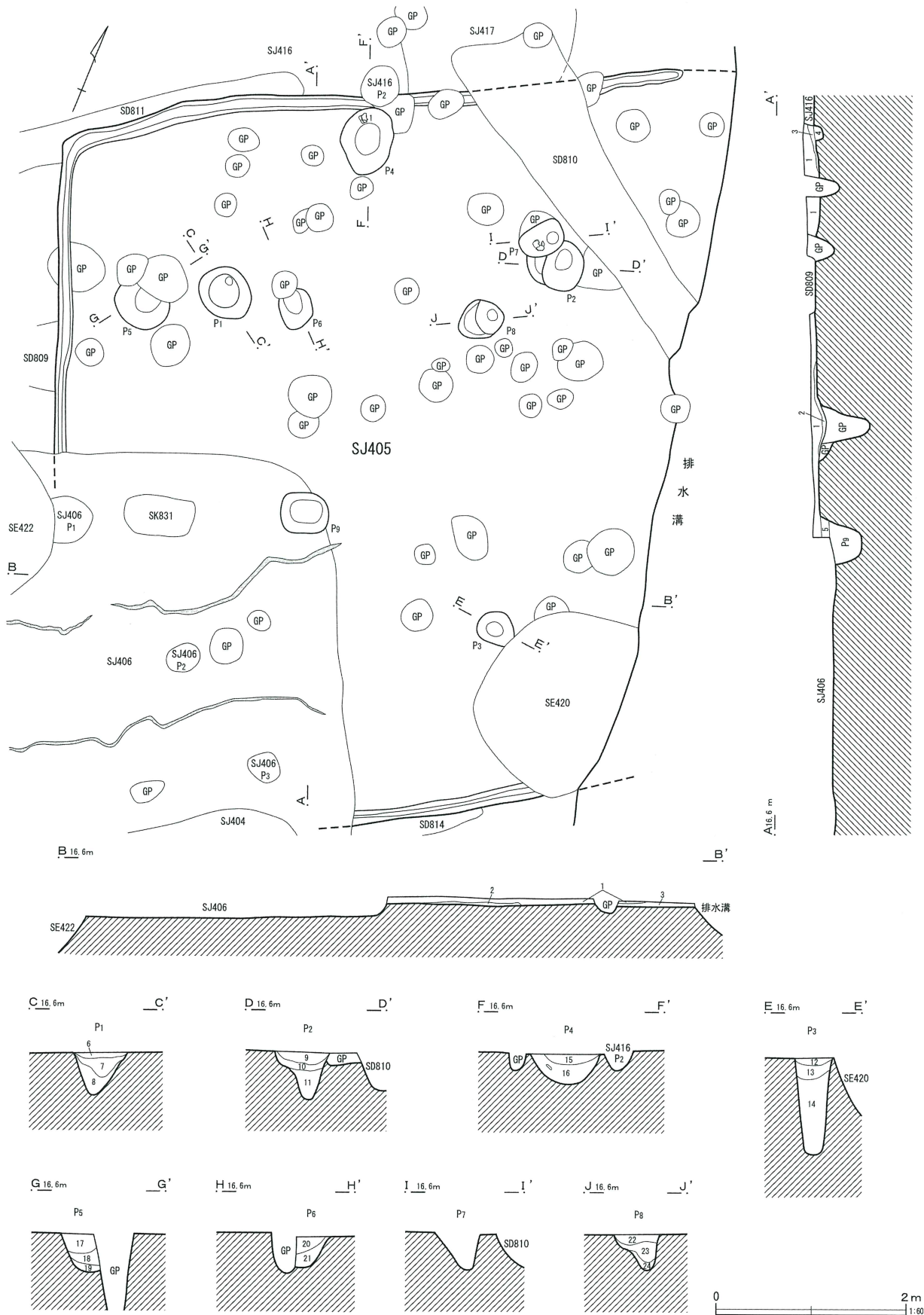
覆土は、4層からなる自然堆積であった。床面には部分的に炭化物の薄い層(3層)が堆積していた。

カマドは検出できなかった。

壁溝は、ほぼ全周しており、幅10～22cm、深さが5～8cmであった。

ピットは床面から8本を検出したが、支柱穴の可能性があるものは確認できなかった。各ピットの規模は、P1が59×53cm、P2が62×52cm、P3が42×33cm、P4が73×33cm、P5が58×40cm、P6が43×27cm、P7が48×37cm、P8が49×39cmであった。P2の下層(11層)には炭が多量に堆積していた。床面下からはP9が検出されている。

第198図1～4は土師器の坏で、1・2・4が模倣坏、3が身模倣坏である。1はP7、4はP9から出土している。5は、須恵器の甕の口縁部片と思われる。7は、滑石製の白玉である。



第199图 第405号住居跡 (1)

第405号住居跡			
1	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
2	黒褐色土	10YR3/1	焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物ブロック (φ2~3mm) 多量 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3mm) 少量
3	褐色土	10YR4/4	黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 床面に炭化物層 (地山崩落土)
4	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 少量
5	黒色土	7.5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 (SJ405掘り方)
ピット1			
6	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm)・焼土ブロック (φ2~5mm) 多量 下層に炭化物層
7	黒褐色土	2.5Y3/2	緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒子 (φ1~2mm) 少量
8	黒色土	5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 少量
ピット2			
9	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
10	黒褐色土	2.5Y3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 少量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 微量
11	黒色土	2.5Y2/1	炭多量 緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 微量 しまり弱い
ピット3			
12	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
13	オリブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
14	黒色土	7.5Z/1	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 少量
ピット4			
15	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・焼土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
16	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ3~5mm) 多量
ピット5			
17	黒褐色土	10YR3/3	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 少量
18	黒色土	10YR2/1	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
19	黒色土	2.5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~5mm) 多量
ピット6			
20	黒褐色土	10YR3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量
21	褐色土	10YR4/1	地山の緑灰色シルト主体 (地山崩落土)
ピット8			
22	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 焼土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
23	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量
24	黒色土	5Y2/1	緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 (地山崩落土)

第200図 第405号住居跡 (2)

第406号住居跡 (第201・202図)

P-47、Q-47・48、R-47グリッドにかけて検出された。南側は調査区域外に延びていた。第404・405・414・418・419・423号住居跡、第422号井戸跡、第832号土坑、第789・814・820号溝跡と重複していた。新旧関係は、第405・414・423号住居跡より新しく、第404・418号住居跡、第422号井戸跡、第832号土坑、第789・814・820号溝跡より古かった。第419号住居跡との関係は不明である。

規模は、南北9.8m以上、東西10.4m、深さが0.21~0.30mで、平面形態は方形をしていたと思われる。今回報告する住居跡の中で一番大型のものであった。主軸方位は、N-26°-Wであった。

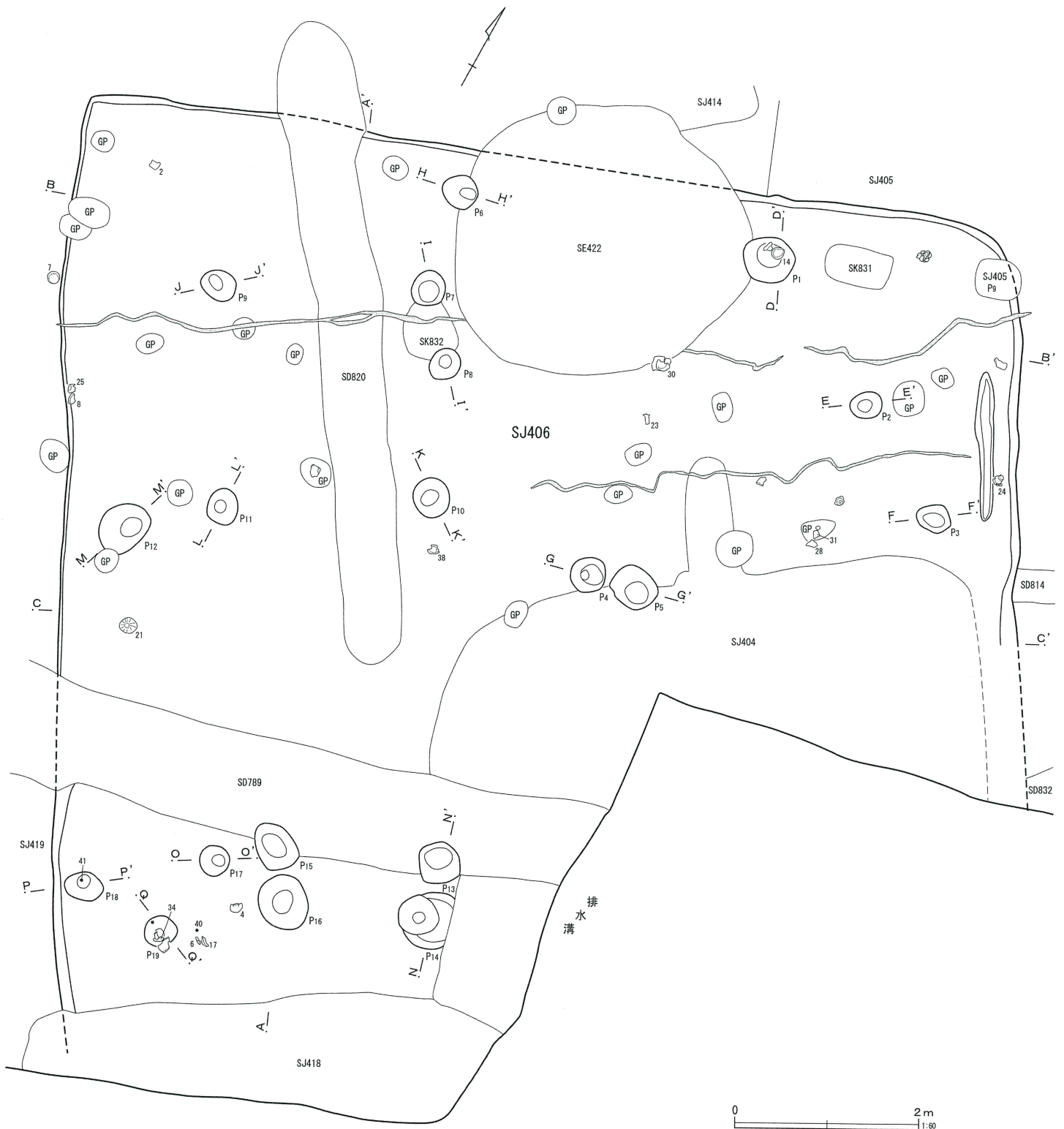
覆土は、2層からなる自然堆積であった。

カマド、壁溝は検出できなかった。

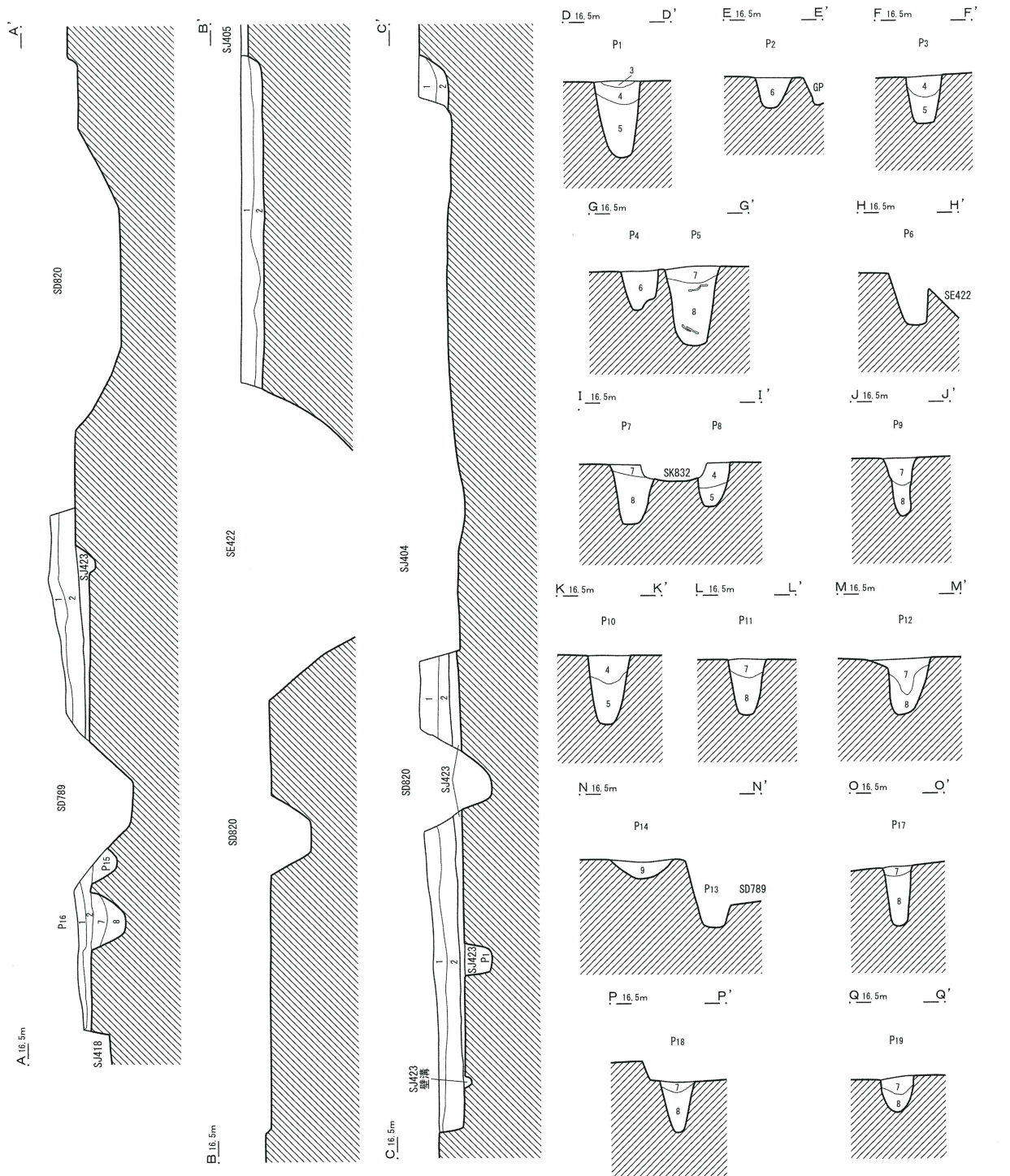
ピットは19本を検出した。各ピットの規模は、P1が58×73cm、P2が35×31cm、P3が39×47cm、P4が37×39cm、P5が50×76cm、P6が39×50cm、P7が36×59cm、P8が38×45cm、P9が38×57cm、P10が42×67cm、P11は38×54cm、P12は52×56cm、P13は44×60cm、P14は62×34cm、P15は54×27cm、P16は61×37cm、P17は33×60cm、P18は41×53cm、P19は35×37cmであった。

遺物は、古墳時代後期の須恵器、土師器片が多量に出土している。器種では土師器坏が多くみられ、中でも比企型坏の割合が高い。

出土遺物は、第203・204図に示した。1・2は、須恵器の蓋である。2は天井部につまみが付く。見玉産の可能性はある。4は末野産の高坏坏部片で、脚部に2方向の透かしが認められる。5は、P1から出土した壺の口縁部片である。6~20は、土師器の坏である。6・8・9・13~15が模倣坏、7・10~12が有段口縁坏、16~18が身模倣坏、19・20が比企型坏である。9・19・20には赤彩、16・17には黒色処理が施される。21~24は、土師器の高坏である。21の坏部は、下半に稜をもたず、直線的に開く口縁部である。外面の調整は、ハケ目の後、ヘラナデである。22は、内外面全面に赤彩が施される。26~29は、土師器の鉢である。口径が狭く深鉢のもの、口径が広く浅鉢のものの2タイプがある。31~33は、土師器甕の口縁部片である。31・32は、口縁部が大きく屈曲する。36・37は甕の底部片で、底面に木葉痕が認められる。40は管玉の未製品である。穿孔箇所が2ヶ所に認められるが、どちらも貫通には至っていない。41は、勾玉状の形態をした滑石製の用途不明品である。42は、紡錘車の未製品である。



第201图 第406号住居跡 (1)



第406号住居跡

1	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 焼土粒子 (φ1~2mm)・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量 下層の部分的に薄い炭化物層
2	暗緑灰色土 ピット	10G3/1	黄褐色土ブロック (φ3~10mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~2mm) 微量
3	黒褐色土	2.5Y3/1	炭化物多量 緑灰色土粒子・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量
4	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
5	黒色土	10Y2/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 少量
6	オリーブ黒色土	5Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 焼土粒・炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
7	黒褐色土	2.5Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm) 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量
8	オリーブ黒色土	7.5Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ1~3mm) 少量
9	黒褐色土	2.3Y3/1	緑灰色土粒子 (φ1~2mm)・緑灰色土ブロック (φ3~10mm) 多量

0 2m
1:60

第202図 第406号住居跡 (2)